

下田市立中学校再編手法及び 新中学校候補地等に関する報告書



平成 29 年 3 月

下田市教育委員会

目 次

第1	中学校再編に係る今後の方向性について	1
1	これまでの経過と今後の中学校再編に係る協議について	
2	今後の方向性について	
3	既存中学校の跡地利用について	
第2	下田市立中学校再編に係る報告書保護者説明会	3
1	説明会開催概要	
2	主な意見	
3	説明資料	
第3	下田市総合教育会議報告書中学校再編に係るアンケート調査	37
1	調査概要	
2	調査検証結果	
第4	下田市立中学校再編検討会議概要	64
1	下田市立中学校再編検討会議概要	
2	下田市立中学校再編検討会議意見	
第5	2中学校の比較について	70
1	2中学校の現況	
2	2中学校の比較	
第6	新中学校必要面積及び概算事業費等について	86
1	下田市立4中学校の維持管理経費について	
2	新中学校の普通教室必要面積の考察	
3	新中学校における特別教室及び管理諸室とその大きさ	
4	2中学校のメリット・デメリット及び概算事業費	
参考資料		93
1	市長と語る会概要	
2	今後のスケジュール案	

第1 中学校再編に係る今後の方向性について

1 これまでの経過と今後の中学校再編に係る協議について

平成28年8月に下田市総合教育会議において、「下田市立中学校再編に係る報告書（以下、本章において「総合教育会議報告書」という。）」が策定されました。これを受け、下田市教育委員会では、次のとおり、中学校再編に係る課題についての様々なご意見を聴取させていただいた上で、検討を進めました。

(1) 下田市立中学校再編検討会議の設置

会長に教育長、下田市立小中学校長、下田市立小中学校PTA会長、下田市区長連絡協議会市内6地区会長を構成委員とした「下田市立中学校再編検討会議」を平成28年10月に設置、平成29年2月までに4回の会議を開催しました（その内1回は中学校視察）。

(2) 総合教育会議報告書保護者説明会の開催

平成28年10月から11月にかけて、小中学校保護者に対しては4中学校学区単位に、幼保こども園保護者に対しては各園単位に、総合教育会議報告書に係る説明会を開催しました。併せて、全ての保護者に対し、総合教育会議報告書（概要版）を配布、また広報しもだ平成28年9月号に総合教育会議報告書内容の特集記事を掲載し、その周知を図りました。

(3) 総合教育会議報告書中学校再編に係るアンケート調査の実施

平成28年10月から12月にかけて、小中学校及び幼保こども園、全ての保護者の方を対象にアンケート調査を実施し、中学校再編を検討する上での様々なご意見を聴取しました。

(4) 市長と語る会の開催

平成28年10月から11月にかけて開催された市長と語る会において、中学校再編に関して、地域の方からご意見を聴取しました。

今後の中学校再編に係る協議については、下田市教育委員会の附属機関である「下田市立学校等再編整備審議会」を設置し、中学校再編の方向性についての諮問及び答申を経た後、下田市教育委員会定例会や下田市総合教育会議において協議及び調整、その後下田市として中学校再編に係る最終決定をする予定です。

【これまでの経過】

月 日	内 容	備 考
平成28年8月26日（金）	「下田市立中学校再編に係る報告書」策定	平成28年度第2回下田市総合教育会議
平成28年10月11日（火）	第1回下田市立中学校再編検討会議開催	総合教育会議報告書概要説明
平成28年10月～11月	市長と語る会開催	市内6地区ごと
	保護者説明会開催	4中学校学区及び幼保こども園（全8回）
平成28年10月～12月	保護者及び教職員アンケート調査実施	配付：1,882 回収：1,222 回収率：65%
平成28年11月30日（水）	下田市立中学校再編検討会議中学校視察	2中学校視察
平成28年12月26日（月）	第2回下田市立中学校再編検討会議開催	中学校学区別意見交換
平成29年2月16日（木）	第3回下田市立中学校再編検討会議開催	教育委員会報告書(案)概要説明
平成29年3月21日（火）	「下田市立中学校再編手法及び新中学校候補地に関する報告書」策定	下田市教育委員会3月定例会

2 今後の方向性について

総合教育会議報告書において、「段階を踏まず、4校を一度に統合する1校化の手法が望ましい」と示されたことから、下田市教育委員会では、中学校再編に係る課題について、下田市立中学校再編検討会議やアンケート調査などから貴重なご意見を聴取させていただき、次のとおり、今後の方向性を取りまとめました。

(1) 校舎位置

ア 方向性

現在の下田中学校敷地を利用し、新たな中学校を設置したい。

イ 理由

下田市総合教育会議において、新中学校候補地は、「現在の稲生沢中学校または下田中学校とするのが望ましい」という方向性が示されました。下田市立中学校再編検討会議での意見やアンケート結果、既存学校施設状況、周辺環境なども含め総合的に検討した結果、生徒の学習環境を守り、改善していくことを第一目的とした場合、現在の下田中学校敷地が望ましいという方向性に至りました。しかし、懸念とされている通学における防災や防犯などの安全性を高めるための対応やその他の課題については、今後、更なる検討を行う必要があります。

(2) 通学補助

ア 方向性

保護者への負担を考慮すると全額補助としたいが、最低でも現在、負担していただいている以上の負担はかけないことを前提に、継続して検討する。

イ 理由

市内全域からの通学となるため、教育を受けるための不公平感の是正、時間的、精神的制約への対応を考慮すると全額補助が望ましいと認識していますが、市の財政状況を考慮すると現在、保護者に負担していただいている以上の負担はかけないことを前提に、今後、更なる検討を行う必要があります。

(3) 建設手法

ア 方向性

既存学校施設を最大限活用した大規模改修を視野に入れ、継続して検討する。

イ 理由

下田市立4中学校を一度に統合するためには、多額な事業費が必要となりますが、現在の市の財政状況を考慮すると既存学校施設や補助制度を最大限活用した大規模改修を視野に入れ、今後、更なる検討を行う必要があります。

3 既存中学校の跡地利用について

下田中学校以外の既存中学校の跡地利用については、今後、中学校再編に係る政策決定を行った後に検討します。また、まちづくりの観点からも跡地利用は非常に重要なことから、市としても全庁的な対応にて、地域との協議を進める予定です。

第2 下田市立中学校再編に係る報告書保護者説明会

1 説明会開催概要

(1) 中学校学区単位説明会概要

中学校学区	開催日時	開催場所	参加人数
稲梓中学校学区 (稲梓小・稲梓中)	平成28年10月24日(月) 午後7時～午後8時40分	稲梓小学校体育館	26人
稲生沢中学校学区 (稲生沢小・稲生沢中)	平成28年11月11日(金) 午後7時～午後8時	稲生沢中学校体育館	16人
下田東中学校学区 (白浜小・浜崎小・下田東中)	平成28年11月17日(木) 午後7時～午後8時30分	下田東中学校体育館	49人
下田中学校学区 (下田小・大賀茂小・朝日小・下田中)	平成28年11月15日(火) 午後7時～午後8時	下田中学校体育館	33人

(2) 幼保こども園説明会概要

区分	開催日時	開催場所	参加人数
稲生沢保育園・ひかり保育園	平成28年11月1日(火) 午後3時～午後4時	稲生沢保育園	8人
下田認定こども園	平成28年11月4日(金) 幼) 午後1時～午後2時 保) 午後3時～午後4時	下田認定こども園	49人 幼) 38 保) 11
下田幼稚園	平成28年11月7日(月) 午後1時～午後2時	下田幼稚園	26人
下田保育所	平成28年11月8日(火) 午後3時～午後4時	下田保育所	14人

(3) 教育委員会出席者、配布資料及び説明会次第

ア 教育委員会出席者

(ア) 中学校学区：佐々木教育長、峯岸学校教育課長、山梨学校教育課参事、吉田学校教育係長、土屋(大)指導主事、土屋(真)技師、原主事(7名)

(イ) 幼保こども園：峯岸学校教育課長、吉田学校教育係長、原主事(3名)

イ 配布資料

- ・下田市立中学校再編に係る報告書(平成28年3月 下田市総合教育会議)
- ・下田市総合教育会議報告書説明資料(平成28年10月 下田市教育委員会学校教育課)

ウ 説明会次第

(ア) 開会

(イ) 挨拶(中学校学区：教育長、幼保こども園：学校教育課長)

(ウ) 報告書概要説明(30分から40分程度)

(エ) 質疑応答

(オ) 閉会

2 主な意見

(1) 中学校学区単位説明会

ア 稲梓中学校学区

区分	意見内容
通学面	<ul style="list-style-type: none"> ・再編することに伴い、通学時間等が長くなるため、部活動時間が短縮されるか。 ・参考資料として公共交通機関（路線バス）の想定をしているが、スクールバスなどの検討はするのか。 ・部活動に応じた通学バスの増便をお願いしたい。
再編関係	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生からのアンケートを実施したことはあるか。 ・1校化となる際、子どもが新しい地域や子どもたちとの関わりが生じるため、心の不安を少しでも和らげるような配慮をお願いしたい。 ・中学校再編に該当する世代の子どもたちに対するアンケートの検討をお願いしたい。 ・稲生沢中と下田中とを選考する際、下田小が津波浸水想定区域にあるため、下田中の土地に持っていくというような教育委員会としてのイメージを持っているか。 ・今後のアンケートや説明会についてのスケジュールを教えてください。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数による教育、小規模校にどのような支障があるか。 ・中学校を1校化にすることにより市内での競争がなくなるが、今後、その部分での検討をどう考えているか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を少なくすることにより、定住人口がより減少すると思われるが、今後の人口推移を市としてどう考えているか。 ・空いた中学校跡地の活用について、どのように考えているか。地域の方に必ず聞かれるため。可能であれば、人が集まるような施設を検討していただきたい。

イ 稲生沢中学校学区

区分	意見内容
再編関係	<ul style="list-style-type: none"> ・最短で想定される再編の年度は、いつからになるのか。 ・今回の再編については、既に決定されたことなのか。 ・参観日や運動会等、1校化になると駐車場等の確保は対応できるのか。 ・再編となると、新校舎建設工事等でその狭間の世代の子どもたちに対するストレスは相当なものだと思われる。また、ジャージ等も今のまま使用するとなると違いもあり、多感な思春期でもあるのでそういった細かな部分に対する子どもたちへのケアをしっかりとしてもらいたい。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・1校化が望ましいということだが、再編前の該当する世代の子どもたちに対する指定校変更の対応を柔軟にしていきたい。

ウ 下田東中学校学区

区分	意見内容
通学面	<ul style="list-style-type: none"> ・通学について、市内全域からとなると地域によって不公平が出てくる。スクールバス等の検討はされているのか。 ・通学補助については、何年度まで継続されるのか。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちはこれまで少人数の中で育ってきたため、多人数となった際のメンタル面のケアや不登校にならない対応をお願いしたい。バス通学においても集団での移動となるため、何かしらの精神的負担も出てくると思われるため、細かな対応をお願いしたい。 ・大規模化のデメリットとして、教職員による子どもの把握が難しくなりやすいとあるが、中学生くらいの思春期の子どもたちだと、親でもなかなかコミュニケーションが難しくなる世代でもある。そういったところの対策をどう考えているのか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が進む中、学校がなくなることにより、この地域に定住する人が少なくなると思われる。また、地域によって子どもの数や文化などの格差が出てくることが懸念されるが、市としてどう考えているか。

エ 下田中学校学区

区分	意見内容
通学面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稲生沢となった場合、子どもが下田高校に通学しているのですが、親の送迎を制限している時間があったり、道幅も狭い。今の高校生に加え、より多くの子どもが集まることになると思いますが、何か対策を検討しているか。 ・ 遠方から通学する子どもたちのバス通学負担が高くなるため、スクールバスなどの検討はしているか。 ・ バス通学に対する便数やバス車内での子どもたちに対する配慮など、細かな検討をお願いしたい。
再編関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠方から通学する子どもに対する防災面での対応、通学時における防災面での対応をどう検討しているか。 ・ 今後、稲生沢中と下田中との候補地の選定になると思うが、何を決め手に考えるのか。仮に稲生沢中となった場合、空いた下田中跡地に津波浸水区域である下田小を持っていくというような検討をするのか。 ・ 中学校の耐震ランクについて、詳細な説明をお願いしたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの通学距離などを検討する中で候補地を選定するというのもわかるが、中学校跡地をどのように活用していくのか、それらを含めた有効性によって候補地を比較するというのも重要だと思う。跡地利用をどう検討するのか。

(2) 幼保こども園説明会

ア 稲生沢保育園・ひかり保育園

区分	意見内容
通学面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再編するにあたり、通学補助が一番重要である。関係各所と今後協議してとあるが、具体的にどこと協議するのか。統合が決まった後に検討するというスタンスではなく、ある程度、こういった補助を行うということを示した方が良い。「どちらとも言えない」と回答している保護者が賛成に移るだろう。 ・ 通学について、参考として公共交通機関の内容を記載しているが、スクールバスなどの検討はしないのか。
再編関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校再編に関する方向性、1校化することは既に決まっていることなのか。 ・ 反対、どちらとも言えないと回答している人が多いのに総合教育会議として1校化の方向性を示したのか。 ・ 実際に統合された中学校に通学する世代の保護者に対し、アンケートを実施するのか。 ・ 実際に統合される世代の保護者から中学校再編について、何も知らなかったということをよく聞く。アンケートについても現在の小中保護者の方のみで、統合される世代の方からも聞いて欲しかった。説明会の時間帯設定も悪いのではないかな。 ・ 説明資料を配布するということが、こんな厚い資料を子育てが忙しい保護者は絶対に見ない。もう少し要点の絞った資料を配布してもらいたい。 ・ 資料内の「結論に至りました」という表現は、保護者に誤解を与えかねないので修正してもらいたい。 ・ 人口減少が言われているが、子育ての手厚いところに人は集まる。また、行政というのは大きな力を感じており、一度決定してしまうとなかなかそれを覆すことは難しい。そういった部分を十分理解しながら、慎重に進めていただきたい。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単学級編成の学校において少人数による支障が教育活動に生じてくる場合とあるが、現時点でどのような問題があるのか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書は、学級数がメインで記載されており、少子化の進行により統合したとしても更に学級数は減少すると思われる。そういう状況であればもっと教育予算を使っていたらいい。 ・ 1校化になると残る3校の跡地の利用は、どのように検討されているのか。 ・ 通学にあまり関係ない地域に住んでいる人は、通学補助や候補地についても、安易に回答することができないということでもちろんとも言えないと回答している人がいるのではないかな。 ・ 中学校再編に関する周知方法について、例えば、保護者の方が良く行くところなどに資料を設置するなどの工夫した方がより浸透すると思う。

イ 下田認定こども園

(ア) 幼稚園部

区分	意見内容
通学面	・ 現在の下田中を見ていると親が送迎しているケースを見るが、統合となると車の台数も多くなるため、送迎を禁止するといった検討をしているのか。
再編関係	・ 4校を1校にするということですが、新校舎のクラスなどの面積は既存校舎で実際足りるのか。 ・ 統合された際、中学2、3年生の制服がバラバラになると思うが、新たに新調するのか。

(イ) 保育所部

区分	意見内容
通学面	・ 1校化になると市内各地からの通学となり、住んでいる地区によって通学費に差が出てくる。中学校は義務教育期間であるので、ぜひとも住んでいる地区によって差が出ないような配慮をお願いしたい。 ・ 通学補助でなく、スクールバスなどの検討はしないのか。 ・ バス時間などが無い場合、親が送迎するケースも想定されるが、その送迎に対する補助というものも検討していただきたい。
再編関係	・ 再編は既に決定されたことなのか。また再編のスケジュールと具体的にいつから1校化に統合されるのか。

ウ 下田幼稚園

区分	意見内容
再編関係	・ 再編の最終決定は平成29年度中になるのか。 ・ 4校を1校にすると運動会等のイベント時、保護者の方の駐車場の問題が出てくると思われるが、何か検討をしているのか。

エ 下田保育所

区分	意見内容
再編関係	・ 再編する時期はいつで、対象となるのは今の何年生からか。最終的な決定はいつ頃か。 ・ 仮に下田中となった場合、かつて大勢の生徒がいたので既存の校舎で対応できると判断しているのか、もしくは新築や改築を想定しているのか。 ・ 新築や改築となった場合を踏まえて、平成33年度以降という期間を設けているのか。また、その期間はプレハブ等で生徒は過ごすことになるのか。
その他	・ 空いた3校の校舎の跡地利用はどのように考えているのか。 ・ 中学校については、避難場所などに設定されているが、そういった部分の対応はどのようなのか。

3 説明資料

**下田市総合教育会議報告書
説明資料**

平成28年10月 下田市教育委員会学校教育課

1

これまでの経過について①

1 平成26年度以前

年月	事柄	主な内容
H19.12	下田市立小・中学校再編整備について（答申） （下田市立学校等再編整備審議会 →下田市教育委員会）	・単学級編成の学校において少人数による支障が教育活動に生じてくる場合は、市内4中学校体制を検討し新たな中学校体制を構築する。 ・平成22年4月1日に稲樟中学校と稲生沢中学校を統合し、稲生沢中学校校舎に新中学校を創設する。
H21.5	教育委員会で統合先送りの結論（5月定例会）	・稲樟中学校と稲生沢中学校の統合は、当面先送りする。ただし、保護者・地域からの要望によっては統合に向け前向きに取り組んでいく。 ※当時の保護者や地域住民の方の十分な同意を得ることができなかったため。
H26.12	学校再編整備について（諮問） （下田市教育委員会 →下田市立学校等再編整備審議会）	・少子化の流れが更に加速し、教育環境を取り巻く状況は変化を続けており、今後の児童生徒数の動向を見据えつつ、平成19年当時の答申を踏まえ、学校教育環境のあり方について、意見を求める。
H27.3	学校再編整備について（答申） （下田市立学校等再編整備審議会 →下田市教育委員会）	・市内中学校は、近い将来、少人数による教育課題が生じる可能性。将来的には中学校は一つということも、視野に入れて再編を考えていくべきと思われる。 ・現状では、中学校の再編による課題を一つずつ認識し、その第一段階として、稲樟中学校と稲生沢中学校を統合し、現在の稲生沢中学校校舎に新たな中学校を構築すべきである。 ・下田東中学校が単学級となった場合、下田中学校との統合を推進。更には、将来は下田市に中学校は一つということも視野に入れ、中学校再編を考えていく。

2

これまでの経過について②

2 平成27年度以降

年月	事柄	主な内容
H27.4	第1回下田市総合教育会議	・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正について ・ 下田市総合教育会議設置要綱について ・ (仮称)下田市教育大綱について
H27.6	学校等再編整備審議会答申に関する説明会	・ 4中学校区ごと開催 小中PTA役員対象 97人参加
H27.10	第2回下田市総合教育会議	・ 下田市教育大綱(案)について ・ 新給食センターについて ・ 学校再編について
H27.12	第3回下田市総合教育会議	・ 下田市教育大綱(案)について ・ 学校再編について
H28.1	学校再編アンケート実施	・ 市内小中学校のすべての保護者及び教職員を対象 回答数:1,131(保護者984・教職員147) 保護者回答率67%
H28.2	第4回下田市総合教育会議	・ 学校再編について
H28.4	第1回下田市総合教育会議	・ 学校再編アンケートの分析結果について ・ 学校等再編方針検討会の設置及び今後のスケジュールについて ・ 庁内プロジェクトチームの設置について
H28.5 H28.7	下田市総合教育会議懇談会	・ 報告書内容の事前協議
H28.8	第2回下田市総合教育会議	・ 報告書について ・ スケジュールについて

3

報告書策定の経緯

平成27年3月26日 下田市立学校等再編整備審議会 答申内容(一部)

- ・ 稲梓中と稲生沢中との統合
- ・ 下田東中が単学級となった場合の下田中との統合
- ・ 将来において、下田市に中学校は一つということも視野に入れた中学校再編を考えていく

下田市総合教育会議(構成員:市長、教育長、教育委員)

- ・ 二つの中学校に統合した数年後に再び一つに統合することへの懸念
- ・ 少子化が進行している中、4校を一度に統合するという方法も考えることができるのではないか。

中学校の規模に関わる諸課題や学校再編アンケートの検証、下田市立4中学校の生徒数推移及び現状などを踏まえ、協議、検討し、報告書を取りまとめ

4

学校再編アンケート結果について①

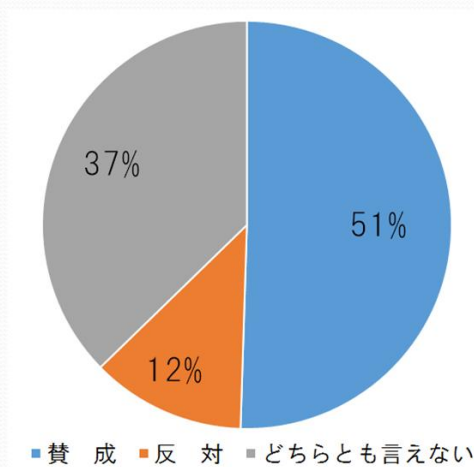
- 1 調査の目的** 中学校統合に関する保護者及び教職員の意向把握を目的として、アンケート調査を実施しました。
- 2 調査実施年月** 平成28年1月
- 3 調査方法** 調査対象校は市内全小中学校(7小学校及び4中学校)とし、調査の対象はすべての保護者及び教職員としました。なお、調査票は各小中学校経由による配布・回収により行いました。
- 4 回収状況** 本調査の回収数、回収率は以下のとおりです。

区分	配布数	回収数	回収率
保護者	1,456	984	67%
教職員	—	147	—

5

学校再編アンケート結果について②

設問1 「市内4中学校の再編についてどのようにお考えですか。」に対する考察(保護者)



6

学校再編アンケート結果について③

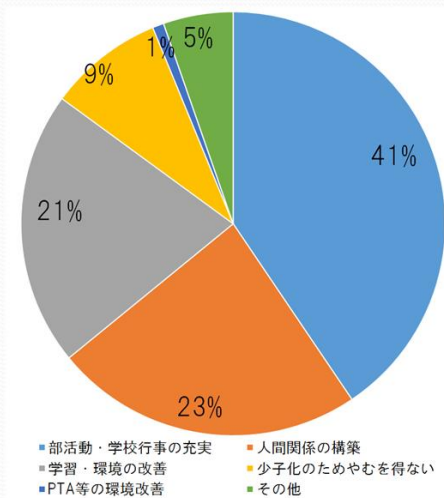
保護者学校別回答状況（カッコ内は人数）

学校名	回収率	賛成	反対	どちらとも言えない
稲梓小学校	69% (65/93)	51% (33)	17% (11)	32% (21)
稲生沢小学校	72% (134/186)	63% (84)	14% (19)	23% (31)
白浜小学校	54% (46/85)	28% (13)	24% (11)	48% (22)
浜崎小学校	54% (57/104)	35% (20)	21% (12)	44% (25)
下田小学校	67% (171/255)	47% (80)	9% (16)	44% (75)
大賀茂小学校	68% (46/67)	48% (22)	11% (5)	41% (19)
朝日小学校	55% (65/117)	52% (34)	9% (6)	39% (25)
小学校 計	64% (584/907)	49% (286)	14% (80)	37% (218)
稲梓中学校	94% (49/52)	59% (29)	12% (6)	29% (14)
稲生沢中学校	83% (108/130)	62% (67)	9% (10)	29% (31)
下田東中学校	68% (82/120)	43% (35)	11% (9)	46% (38)
下田中学校	65% (161/247)	50% (80)	9% (15)	41% (66)
中学校 計	72% (400/549)	53% (211)	10% (40)	37% (149)
合計	67% (984/1,456)	51% (497)	12% (120)	37% (367)

7

学校再編アンケート結果について④

①「賛成」保護者理由欄意見について

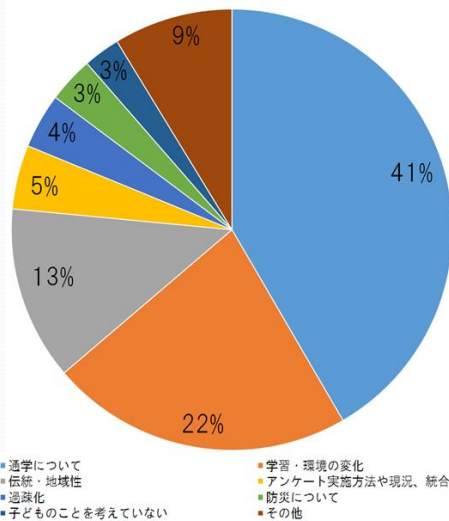


「賛成」意見区分	件数
部活動・学校行事の充実	236件
人間関係の構築	137件
学習・環境の改善	122件
少子化のためやむを得ない	51件
PTA等の環境改善	5件
その他	31件
「賛成」理由欄意見数	582件

8

学校再編アンケート結果について⑤

② 「反対」保護者理由欄意見について

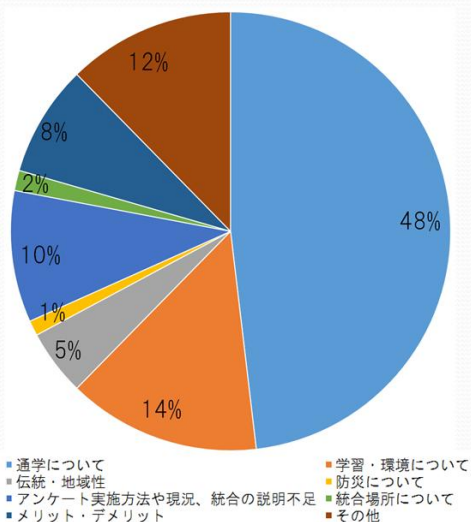


「反対」意見区分	件数
通学について	62件
学習・環境の変化	33件
伝統・地域性	19件
アンケート実施方法や現況・統合の説明不足	7件
過疎化	6件
防災について	5件
子どものことを考えていない	4件
その他	13件
「反対」理由欄意見数 149件	

9

学校再編アンケート結果について⑥

③ 「どちらとも言えない」保護者理由欄意見について

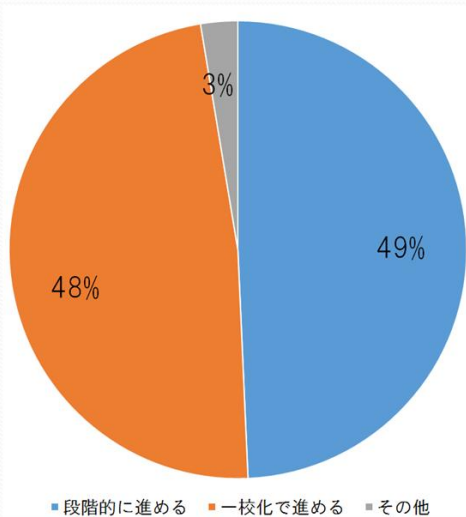


「どちらとも言えない」意見区分	件数
通学について	129件
学習環境について	38件
伝統・地域性	13件
防災について	3件
アンケート実施方法や現況・統合の説明不足	26件
統合場所について	4件
メリット・デメリット	22件
その他	33件
「どちらとも言えない」理由欄意見数 268件	

10

学校再編アンケート結果について⑦

設問2「賛成と回答した方に、再編の進め方について伺います。」に対する考察（保護者）



区分	人数
段階的に進める	245人
一校化で進める	239人
その他	13人
保護者賛成回答数	497人

11

学校再編アンケート結果について⑧

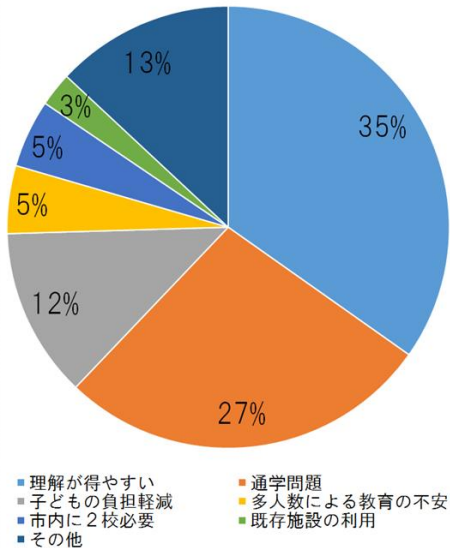
保護者学校別回答状況（カッコ内は人数）

学校名	賛成回答数	段階的	一校化	その他
稲梓小学校	33	42% (14)	49% (16)	9% (3)
稲生沢小学校	84	52% (44)	47% (39)	1% (1)
白浜小学校	13	38% (5)	54% (7)	8% (1)
浜崎小学校	20	35% (7)	65% (13)	0% (0)
下田小学校	80	55% (44)	45% (36)	0% (0)
大賀茂小学校	22	50% (11)	50% (11)	0% (0)
朝日小学校	34	47% (16)	44% (15)	9% (3)
小学校 計	286	49% (141)	48% (137)	3% (8)
稲梓中学校	29	41% (12)	59% (17)	0% (0)
稲生沢中学校	67	55% (37)	45% (30)	0% (0)
下田東中学校	35	43% (15)	54% (19)	3% (1)
下田中学校	80	50% (40)	45% (36)	5% (4)
中学校 計	211	49% (104)	48% (102)	3% (5)
合計	497	49% (245)	48% (239)	3% (13)

12

学校再編アンケート結果について⑨

① 「段階的に進める」保護者意見について

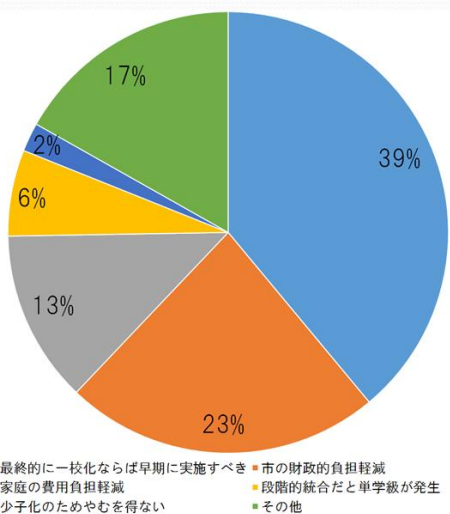


「段階的に進める」意見区分	件数
理解が得やすい	56件
通学問題	44件
子どもの負担軽減	20件
多人数による教育の不安	8件
市内に2校必要	8件
既存施設の利用	4件
その他	21件
「段階的に進める」保護者意見数 161件	

13

学校再編アンケート結果について⑩

② 「一校化で進める」保護者意見について

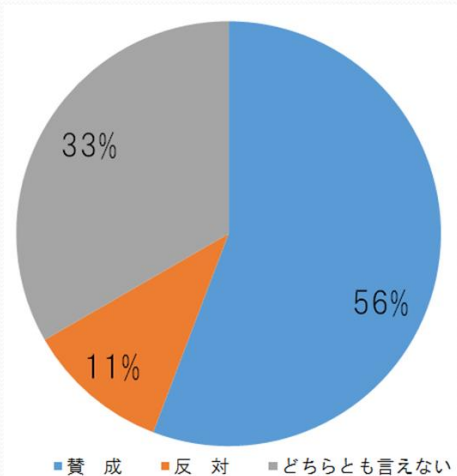


「一校化で進める」意見区分	件数
最終的に一校化ならば早期に実施すべき	74件
市の財政的負担軽減	44件
家庭の費用負担軽減	24件
段階的統合だと単学級が発生	12件
少子化のため、やむを得ない	4件
その他	32件
「一校化で進める」保護者意見数 190件	

14

学校再編アンケート結果について⑪

設問1「市内4中学校の再編についてどのようにお考えですか。」に対する考察（教職員）



区分	人数
賛成	82人
反対	16人
どちらとも言えない	49人
教職員147人回答	

15

学校再編アンケート結果について⑫

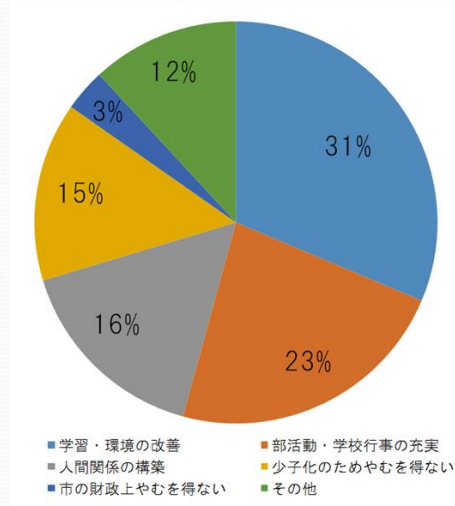
教職員学校別回答状況（カッコ内は人数）

学校名	回答数	賛成	反対	どちらとも言えない
稲梓小学校	11	73% (8)	9% (1)	18% (2)
稲生沢小学校	13	38% (5)	16% (2)	46% (6)
白浜小学校	11	27% (3)	18% (2)	55% (6)
浜崎小学校	13	46% (6)	31% (4)	23% (3)
下田小学校	20	40% (8)	20% (4)	40% (8)
大賀茂小学校	12	75% (9)	0% (0)	25% (3)
朝日小学校	11	82% (9)	0% (0)	18% (2)
小学校 計	91	53% (48)	14% (13)	33% (30)
稲梓中学校	11	36% (4)	19% (2)	45% (5)
稲生沢中学校	12	58% (7)	0% (0)	42% (5)
下田東中学校	13	54% (7)	8% (1)	38% (5)
下田中学校	20	80% (16)	0% (0)	20% (4)
中学校 計	56	61% (34)	5% (3)	34% (19)
合計	147	56% (82)	11% (16)	33% (49)

16

学校再編アンケート結果について⑬

①「賛成」教職員理由欄意見について

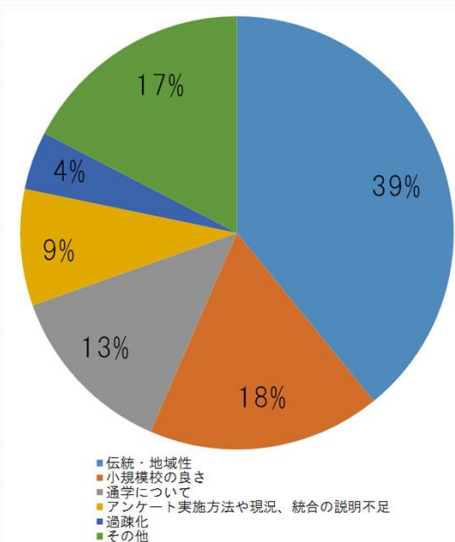


「賛成」意見区分	件数
学習・環境の改善	37件
部活動・学校行事の充実	27件
人間関係の構築	19件
少子化のためやむを得ない	17件
市の財政上やむを得ない	4件
その他	14件
「賛成」理由欄意見数 118件	

17

学校再編アンケート結果について⑭

②「反対」教職員理由欄意見について

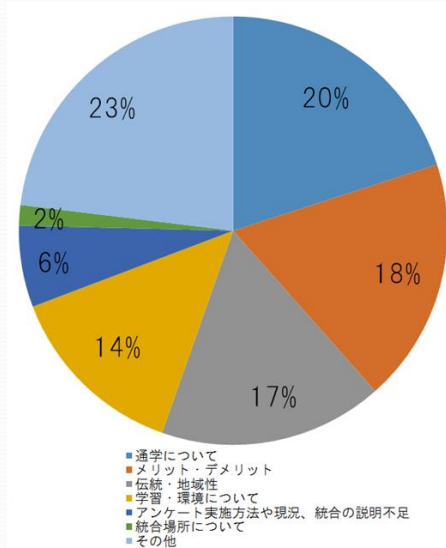


「反対」意見区分	件数
伝統・地域性	9件
小規模校の良さ	4件
通学について	3件
アンケート実施方法や現況・統合の説明不足	2件
過疎化	1件
その他	4件
「反対」理由欄意見数 23件	

18

学校再編アンケート結果について⑮

③「どちらとも言えない」教職員理由欄意見について

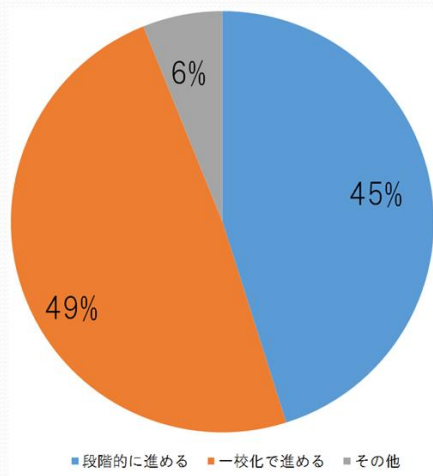


「どちらとも言えない」意見区分	件数
通学について	13件
メリット・デメリット	12件
伝統・地域性	11件
学習・環境について	9件
アンケート実施方法や現況、統合の説明不足	4件
統合場所について	1件
その他	15件
「どちらとも言えない」理由欄意見数	65件

19

学校再編アンケート結果について⑯

設問2「賛成と回答した方に、再編の進め方について伺います。」に対する考察（教職員）



区分	人数
段階的に進める	37人
一校化で進める	40人
その他	5人
賛成回答数	82人

20

学校再編アンケート結果について⑰

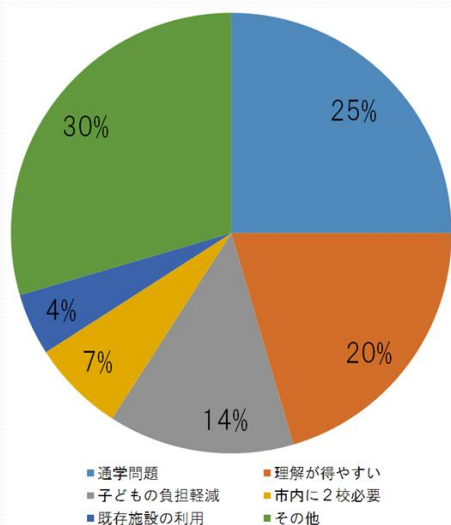
教職員学校別回答状況（カッコ内は人数）

学校名	賛成回答数	段階的	一校化	その他
稲梓小学校	8	50%（4）	38%（3）	12%（1）
稲生沢小学校	5	80%（4）	20%（1）	0%（0）
白浜小学校	3	67%（2）	33%（1）	0%（0）
浜崎小学校	6	0%（0）	100%（6）	0%（0）
下田小学校	8	50%（4）	50%（4）	0%（0）
大賀茂小学校	9	33%（3）	56%（5）	11%（1）
朝日小学校	9	33%（3）	56%（5）	11%（1）
小学校 計	48	42%（20）	52%（25）	6%（3）
稲梓中学校	4	50%（2）	25%（1）	25%（1）
稲生沢中学校	7	29%（2）	71%（5）	0%（0）
下田東中学校	7	57%（4）	29%（2）	14%（1）
下田中学校	16	56%（9）	44%（7）	0%（0）
中学校 計	34	50%（17）	44%（15）	6%（2）
合計	82	45%（37）	49%（40）	6%（5）

21

学校再編アンケート結果について⑱

①「段階的に進める」教職員意見について

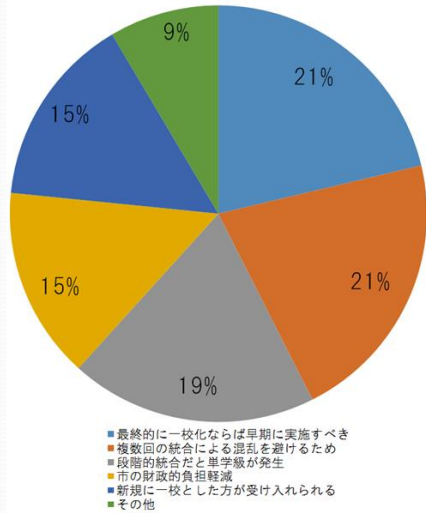


「段階的に進める」意見区分	件数
通学問題	11件
理解が得やすい	9件
子どもの負担軽減	6件
市内に2校必要	3件
既存施設の利用	2件
その他	13件
「段階的に進める」教職員意見数 44件	

22

学校再編アンケート結果について⑱

② 「一校化で進める」教職員意見について

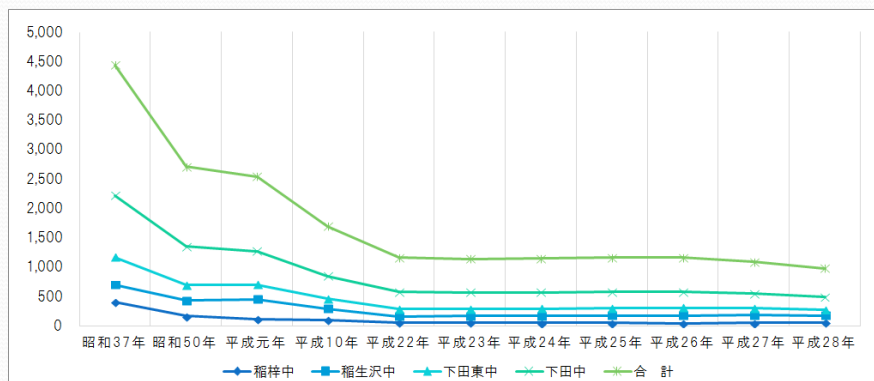


「一校化で進める」意見区分	件数
最終的に一校化ならば早期に実施すべき	10件
複数回の統合による混乱を避けるため	10件
段階的統合だと単学級が発生	9件
市の財政的負担軽減	7件
新規に一校とした方が受け入れられる	7件
その他	4件
「一校化で進める」教職員意見数 47件	

23

下田市立4中学校生徒数推移と現状①

1 これまでの生徒数推移

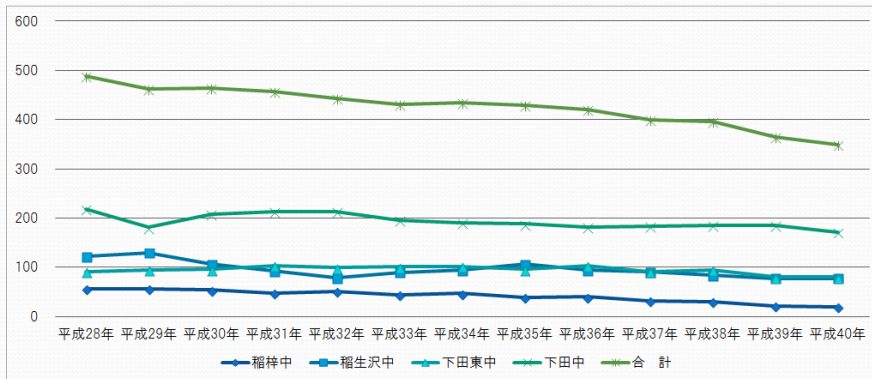


学校名	S37年	S50年	H1年	H10年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
稲祥中	403	169	118	101	55	58	48	49	47	52	56
稲生沢中	296	266	335	191	104	108	124	126	131	130	122
下田東中	468	261	249	169	130	122	123	128	132	120	92
下田中	1,053	660	569	387	290	281	278	276	271	244	218
合計	2,220	1,356	1,271	848	579	569	573	579	581	546	488

24

下田市立4中学校生徒数推移と現状②

2 これからの生徒数推移



学校名	H28年	H29年	H30年	H31年	H32年	H33年	H34年	H35年	H36年	H37年	H38年	H39年	H40年
稲樟中	56	56	54	48	51	44	47	39	40	32	31	22	20
稲生沢中	122	130	107	93	79	90	95	106	95	91	84	78	78
下田東中	92	95	96	103	99	101	102	96	103	92	95	80	80
下田中	218	181	208	214	214	196	190	188	182	184	186	185	172
合計	488	462	465	458	443	431	434	429	420	399	396	365	350

25

下田市立4中学校生徒数推移と現状③

3 4中学校別想定クラス数(40人学級想定)

年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
想定生徒数	(462)	(465)	(458)	(443)	(431)	(434)
40人学級想定クラス数	17	17	17	16	15	15
想定クラス数(40人学級想定)						
稲樟中学校	3 (14 19 23)	3 (21 14 19)	3 (13 21 14)	3 (17 13 21)	3 (14 17 13)	3 (16 14 17)
稲生沢中学校	5 (41 38 51)	4 (28 41 38)	4 (24 28 41)	3 (27 24 28)	3 (39 27 24)	3 (29 39 27)
下田東中学校	3 (38 28 29)	3 (30 38 28)	3 (35 30 38)	3 (34 35 30)	3 (32 34 35)	3 (36 32 34)
下田中学校	6 (61 62 58)	7 (85 61 62)	7 (68 85 61)	7 (61 68 85)	6 (67 61 68)	6 (62 67 61)
年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度	平成39年度	平成40年度
想定生徒数	(429)	(420)	(399)	(396)	(365)	(350)
40人学級想定クラス数	15	15	15	15	15	15
想定クラス数(40人学級想定)						
稲樟中学校	3 (9 16 14)	3 (15 9 16)	3 (8 15 9)	3 (8 8 15)	3 (6 8 8)	3 (6 6 8)
稲生沢中学校	3 (38 29 39)	3 (28 38 29)	3 (25 28 39)	3 (31 25 28)	3 (22 31 25)	3 (25 22 31)
下田東中学校	3 (28 36 32)	3 (39 28 36)	3 (25 39 28)	3 (31 25 39)	3 (24 31 25)	3 (25 24 31)
下田中学校	6 (59 62 67)	6 (61 59 62)	6 (64 61 59)	6 (61 64 61)	6 (60 61 64)	6 (51 60 61)

26

下田市立4中学校生徒数推移と現状④

4 平成33年度以降1校化想定（40人学級想定）

年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
規定生徒数	(431)	(434)	(429)	(420)
40人学級 想定クラス数	12	12	12	12

学校名	40人学級での1校化統合想定			40人学級での1校化統合想定			40人学級での1校化統合想定			40人学級での1校化統合想定		
	クラス数	1年	2年	3年	クラス数	1年	2年	3年	クラス数	1年	2年	3年
稲稗中学校												
稲生沢中学校												
下田東中学校	12	(152)	129	140	12	(143)	152	129	12	(134)	143	152
下田中学校												

年度	平成37年度	平成38年度	平成39年度	平成40年度
規定生徒数	(399)	(396)	(365)	(350)
40人学級 想定クラス数	12	12	11	11

学校名	40人学級での1校化統合想定			40人学級での1校化統合想定			40人学級での1校化統合想定			40人学級での1校化統合想定		
	クラス数	1年	2年	3年	クラス数	1年	2年	3年	クラス数	1年	2年	3年
稲稗中学校												
稲生沢中学校												
下田東中学校	12	(122)	143	134	12	(131)	122	143	11	(112)	131	122
下田中学校												

27

下田市立4中学校生徒数推移及び現状⑤

5 学級・生徒数及び教職員数等の状況（平成27年度時点）

学校名	学級・生徒数	教職員数等
稲稗中学校	1年 1学級（男12・女8：計20） 2年 1学級（男13・女4：計17） 3年 1学級（男6・女9：計15） 合計52人 【学級数3→長頭諭9養1事1】	長1 頭1（英） 国1 社2 数1 理1 英1 音0 美0 体1 技0 家0 養1 事1 合計11人 *音・美は免外解消非常勤講師で対応 *技・家は免外申請で対応
稲生沢中学校	1年 2学級（男21・女25：計46） 2年 1学級（男22・女17：計39） 3年 2学級（男26・女19：計45） 合計130人 【学級数5→長頭諭10養1事1】	長1 頭1（技） 国1 社1 数1 理1 英2 音1 美0 体1 技0 家0 養1 事1 合計12人 *美・家は免外解消非常勤講師で対応 *技は教頭が対応
下田東中学校	1年 1学級（男14・女15：計29） 2年 1学級（男24・女15：計39） 3年 2学級（男25・女27：計52） 合計120人 【学級数4→長頭諭10養1事1】	長1 頭1（英） 国1 社1 数2 理1 英1 音1 美0 体2 技0 家0 養1 事1 *加配1（指導方法） 合計13人 *美・家は免外解消非常勤講師で対応 *技・家は免外申請で対応
下田中学校	1年 2学級（男34・女26：計60） 2年 3学級（男50・女42：計92） 3年 3学級（男32・女49：計81） 特支（知的）1（男2・女5：計7） 合計247人 【学級数8→長頭諭14+1（特支）養1事1】	長1 頭1（体） 国2 社1 数2 理2 英2 音1 美1 体2 技1 家0 養1 事2 *加配2（指導方法・共同実施） 合計19人 *技・家は免外申請で対応

28

下田市立4中学校生徒数推移及び現状⑥

6 現状で1校に統合した場合（平成27年度時点）

学校名	学級・生徒数	教職員数等
新中学校	1年 5学級（男81・女74：計155） 2年 6学級（男109・女78：計187） 3年 6学級（男96・女104：計200） 特支（知的）1（男2・女5：計7） 合計549人 【学級数17→長頭諭27+1（特支）養1事1】	長 1 頭 1 国 4 社 3 数 4 理 4 英 4 音 2 美 1 体 4 技 1 家 1 養 1 事 2 *加配2（指導方法・共同実施）：仮 合計32人 ▲職員22人減 （長頭養事：各3減、教諭：10減）

7 現状の部活動状況（平成27年度時点）

学校名	部活動数	部活動名
稲梓中学校	4	男子：テニス・卓球 女子：テニス・バレー（3年6人、2年0人、1年3人のため、28年度の存続は難しい。）
稻生沢中学校	6	男子：テニス、卓球、バスケット 女子：テニス、卓球、バレー
下田東中学校	7	男子：テニス、バレー、バスケット 女子：テニス、バレー、バスケット、卓球（28年度から廃部の方向）
下田中学校	13	男子：テニス、バレー、バスケット、卓球 女子：テニス、バレー、バスケット、卓球（28年度から休部の方向） 共通：剣道、吹奏楽、美術、サッカー（28年度から休部の方向）、陸上（28年度から休部の方向）

29

中学校の規模について①

1 法令等から見た中学校の規模について

(1) 学校教育法施行規則（昭和22年5月23日文部省令第11号）

（学級数）

第41条 小学校の学級数は、**12学級以上18学級以下を標準**とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

※ 同条は、第79条で中学校に準用。

(2) 義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令

（昭和33年6月27日政令第189号）

（適正な学校規模の条件）

第4条 法第3条第1項第4号の**適正な規模**の条件は、次に掲げるものとする。

(1) 学級数が、小学校及び中学校にあっては**おおむね12学級から18学級まで**、義務教育学校にあっては**おおむね18学級から27学級まで**であること。

30

中学校の規模について②

(3) 学校規模の分類（公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引き）

規模区分	小学校	中学校
過小規模校	・ 5学級以下	・ 2学級以下
小規模校	・ 6～11学級	・ 3～11学級
適正規模校		・ 12～18学級
大規模校		・ 19～30学級
過大規模校		・ 31学級

※複式校（極小規模校）

- ・ 小学校：2個学年合わせて16人以下の複式学級で構成される3学級以下の学校
- ・ 中学校：2個学年合わせて8人以下の学級と他の学年を合わせて2学級以下の学校

(4) 新中学校の規模について

下田市立4中学校1校化の新中学校の規模は、平成33年度を初年度とした場合、40人学級で**12学級が想定**されており（1学年の学級数で4学級）、法令等から判断すると適正規模校となります。

31

中学校の規模について③

2 学校規模によるメリット・デメリット

(1) 小規模化のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ・ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・ 1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。 ・ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ・ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ・ 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ・ 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ・ 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ・ 切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。
学校運営面・財政面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ・ 学校が一体となって活動しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ・ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ・ 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ・ 教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や地域社会との連携が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

32

中学校の規模について④

(2) 大規模化のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ・中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ・児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。 ・様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ・切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
学校運営面・財政面	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。 ・教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ・学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ・校務分掌を組織的に実行しやすい。 ・出張、研修等に参加しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 ・教職員相互の連絡調整が図りづらい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。 ・PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。 ・保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

33

新中学校候補地について①

1 選出条件

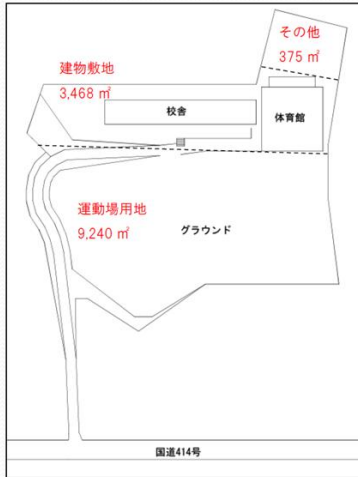
- ① 中学校設置基準（平成14年3月29日文科科学省令第15号）に基づく校舎面積及び運動場面積を満たすこと。
- ② 既存施設を最大限活用し、統合後に教育の質の充実を図ること。
- ③ 津波浸水想定区域外であることなど、防災面での安全性を確保すること。
- ④ 市内全域からの通学を考慮し、通学距離、通学時間については国の基準を参考とするとともに公共交通機関を利用すること（自家用車送迎等による候補地近隣住民の環境配慮）。

34

新中学校候補地について③

2 市立4中学校の現況

① 稲梓中学校



区分	建物敷地	運動場用地	その他用地	計	
土地	市保有	3,468	9,240	375	13,083
	借地	0	0	0	0
計	3,468	9,240	375	13,083	

区分	建設年	構造	階数	延床面積	耐震ランク
建物	校舎	鉄筋コンクリート造	3	1,992	II
	体育館	鉄筋コンクリート造	1	935	I b
倉庫、体育器具庫等の小規模な建物は含まない。					

○津波浸水想定区域：区域外 ○土砂災害警戒区域：一部区域

○周辺環境

北側、東側及び西側は山地、南側には国道414号がある。住宅地と隣接しており、交通面では国道に面し、歩道整備されている。

35

新中学校候補地について④

② 稲生沢中学校



区分	建物敷地	運動場用地	その他用地	計	
土地	市保有	6,157	5,870	0	12,027
	借地	0	0	1,172	1,172
計	6,157	5,870	1,172	13,199	

区分	建設年	構造	階数	延床面積	耐震ランク
建物	校舎	鉄筋コンクリート造	4	2,934	I b
	体育館	鉄筋コンクリート造	2	1,159	I b
	技術棟	鉄骨造	1	230	I a
倉庫、体育器具庫等の小規模な建物は含まない。					

○津波浸水想定区域：区域外 ○土砂災害警戒区域：一部区域

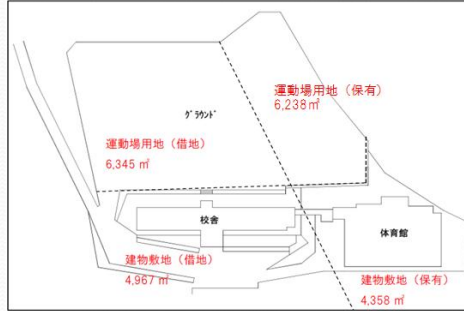
○周辺環境

周辺環境としては、北側と南側は住宅地、東側に国道414号、西側に市道、住宅地と隣接している。交通面では敷地西側の市道立野おぎヶ淵線に面し、一部歩道整備されている。

36

新中学校候補地について⑤

③ 下田東中学校



区分	建物敷地	運動場用地	その他用地	計	
土地	市保有	4,358	6,238	0	10,596
	借地	4,967	6,345	0	11,312
計	9,325	12,583	0	21,908	

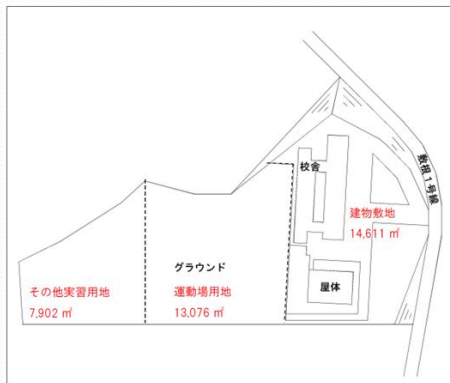
区分	建設年	構造	階数	延床面積	耐震ランク	
建物	校舎	1967	鉄筋コンクリート造	4	2,488	Ⅱ
	体育館	1999	鉄筋コンクリート造	2	1,260	I b
倉庫、体育器具庫等の小規模な建物は含まない。						

○津波浸水想定区域：区域外 ○土砂災害警戒区域：区域外
 ○周辺環境
 周辺環境としては、北側及び東側は山地、南側は別荘地、西側に住宅地と隣接している。交通面では敷地西側の市道柿崎須崎1号線に面し歩道整備はされていない。

37

新中学校候補地について⑥

④ 下田中学校



区分	建物敷地	運動場用地	その他用地	計	
土地	市保有	14,611	13,076	7,902	35,589
	借地	0	0	0	0
計	14,611	13,076	7,902	35,589	

区分	建設年	構造	階数	延床面積	耐震ランク	
建物	校舎	1984	鉄筋コンクリート造	2	5,098	I b
	体育館	1985	鉄筋コンクリート造	2	1,128	I b
倉庫、体育器具庫等の小規模な建物は含まない。						

○津波浸水想定区域：区域外 ○土砂災害警戒区域：一部区域
 ○周辺環境
 周辺環境としては、北側と南側を山に挟まれ、東側に敷根公園、西側にこども園及び住宅地と隣接している。交通面では敷地北側の市道敷根1号線に面し、片側1車線道路で歩道整備もされている。

ランク	東海地震に対する耐震性能
Ⅰ	Ⅰa 耐震性能が優れている建物。軽微な被害にとどまり、地震後も建物を継続して使用できる。
	Ⅰb 耐震性能が良い建物。倒壊する危険性は低い、ある程度の被害を受けることが想定される。
Ⅱ	耐震性能がやや劣る建物。倒壊する危険性は低い、かなりの被害を受けることが想定される。
Ⅲ	耐震性能が劣る建物。倒壊する危険性があり、大きな被害を受けることが想定される。

(注) 建築基準法上で耐震性を有するとされる建築物はランクⅠとランクⅡ

38

新中学校候補地について⑦

3 選出条件に基づく比較

① 中学校設置基準に基づく校舎面積及び運動場面積について

ア 想定生徒数

新中学校開校を平成33年度からとし、生徒数を450人と想定

イ 校舎面積

【算定式】 $600 + 6 \times (\text{生徒数} - 40)$

$$600 + 6 \times (450 - 40) = 3,060\text{m}^2$$

ウ 運動場面積

【算定式】 $3600 + 10 \times (\text{生徒数} - 240)$

$$3600 + 10 \times (450 - 240) = 5,700\text{m}^2$$

エ 市内4中学校の状況

	稲梓中学校	稲生沢中学校	下田東中学校	下田中学校
校舎延床面積	1,992㎡	3,164㎡	2,488㎡	5,098㎡
運動場面積	9,240㎡	5,870㎡	12,583㎡	13,076㎡

39

新中学校候補地について⑧

② 既存施設の活用について

	稲梓中学校	稲生沢中学校	下田東中学校	下田中学校
市有地	全部	一部借地	半分借地	全部

各中学校用地のうち、すべて市有地なのは稲梓中学校及び下田中学校であり、稲生沢中学校は一部借地、下田東中学校についてはほぼ半分が借地となっております。

③ 防災面での安全性について

	稲梓中学校	稲生沢中学校	下田東中学校	下田中学校
津波浸水想定区域	区域外	区域外	区域外	区域外
土砂災害警戒区域	一部区域	一部区域	区域外	一部区域

候補地の防災面での安全性を考慮する上で、津波浸水想定区域外及び土砂災害警戒区域外であることが重要だと考えられます。すべての中学校が津波浸水想定区域外ですが、土砂災害警戒区域については、稲梓中学校、稲生沢中学校及び下田中学校の一部が警戒区域に含まれております。

40

新中学校候補地について⑨

④ 通学について

ア 通学距離について

①義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令

(昭和33年6月27日政令第189号)

(適正な学校規模の条件)

第4条 法第3条第1項第4号の適正な規模の条件は、次に掲げるものとする。

(1) 【省略】

(2) 通学距離が、小学校にあってはおおむね4キロメートル以内、中学校及び義務教育学校にあってはおおむね6キロメートル以内であること。

イ 通学時間について

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（平成27年1月27日文部科学省）において、通学時間は「おおむね1時間以内」を一応の目安とした上で、各市町村において、地域の実情や児童生徒の実態に応じて1時間以上や1時間以内に設定することの適否を含めた判断を行うのが適当であると示しています。

41

新中学校候補地について⑩

ウ 市立4中学校の比較

国の基準を参考に市立4中学校で以下の条件のもと、比較しました。

【市立4中学校比較条件】

- 1 通学は公共交通機関（バス路線）を利用することを想定（自家用車送迎等による候補地近隣住民の環境配慮）。また、市内全域からの通学を考慮し、中心部から最も遠い停留所を以下のとおり選出（下田地区は下田駅を選出）。
稲梓地区：加増野、北の沢
白浜地区：板戸一色
朝日地区：田牛、銭瓶峠、堀切
稲生沢地区：大沢口
浜崎地区：須崎海岸、爪木崎
下田地区：下田駅
- 2 選出した停留所と市立4中学校付近停留所の距離及びバス乗車時間を調査（中学校付近停留所と中学校間の徒歩時間を含む）。但し、下田駅などでの乗換時間は考慮しない。
- 3 自宅から停留所までの距離及び時間を考慮しない（市立4中学校の比較は、上記1及び2で検討できるため）。
- 4 バス運行ダイヤについては、既存ダイヤを考慮しない（統合となった際、ダイヤ設定については交通事業者と要交渉）。

42

新中学校候補地について⑪

(ア) 稲梓中学校 (停留所：下箕作、稲梓中学校〔賀茂逆川線〕)

地区	停留所	距離	時間 (内徒歩時間)
稲梓地区	加増野	5.9 km	13分 (5分)
	北の沢〔稲梓中学校〕	3.8 km	11分 (2分)
稲生沢地区	大沢口	6.0 km	22分 (5分)
白浜地区	板戸一色	14.3 km	37分 (5分)
浜崎地区	須崎海岸	11.1 km	35分 (5分)
	爪木崎	12.6 km	45分 (5分)
朝日地区	田牛	13.5 km	40分 (5分)
	銭瓶峠	12.4 km	35分 (5分)
	堀切	12.5 km	37分 (5分)
下田地区	下田駅	6.8 km	22分 (5分)
※参考 平均		9.89 km	29.7分
距離区分		時間区分	
5 km未満	1か所	10分未満	0か所
5 km以上 10 km未満	3か所	10分以上 20分未満	2か所
10 km以上	6か所	20分以上 30分未満	2か所
—	—	30分以上 40分未満	4か所
—	—	40分以上	2か所

稲梓中学校を新中学校候補地とした場合、距離及び時間で最も遠かったのは、板戸一色停留所14.3km、爪木崎停留所45分、平均は9.89km、29.7分でした。区分ごとに整理すると距離では10km以上が6か所、時間では30分以上40分未満が4か所で最も多い結果となりました。

43

新中学校候補地について⑫

(イ) 稲生沢中学校 (停留所：河内温泉)

地区	停留所	距離	時間 (内徒歩時間なし)
稲梓地区	加増野	10.2 km	18分
	北の沢	8.4 km	17分
稲生沢地区	大沢口	1.8 km	6分
白浜地区	板戸一色	10.4 km	23分
浜崎地区	須崎海岸	7.1 km	21分
	爪木崎	8.6 km	31分
朝日地区	田牛	9.5 km	26分
	銭瓶峠	8.3 km	21分
	堀切	8.5 km	23分
下田地区	下田駅	2.8 km	8分
※参考 平均		7.56 km	19.4分
距離区分		時間区分	
5 km未満	2か所	10分未満	2か所
5 km以上 10 km未満	6か所	10分以上 20分未満	2か所
10 km以上	2か所	20分以上 30分未満	5か所
—	—	30分以上 40分未満	1か所
—	—	40分以上	0か所

稲生沢中学校を新中学校候補地とした場合、距離及び時間で最も遠かったのは、板戸一色停留所10.4km、爪木崎停留所31分、平均は7.56km、19.4分でした。区分ごとに整理すると距離では5km以上10km未満が6か所、時間では20分以上30分未満が5か所で最も多い結果となりました。

44

新中学校候補地について⑬

(ウ) 下田東中学校 (停留所：上の山、柿崎神社前〔須崎海岸線・爪木崎線〕)

地区	停留所	距離	時間 (内徒歩時間)
稲梓地区	加増野	14.7 km	36分 (5分)
	北の沢	12.9 km	37分 (5分)
稲生沢地区	大沢口	5.9 km	23分 (5分)
白浜地区	板戸一色	5.7 km	14分 (5分)
浜崎地区	須崎海岸〔柿崎神社前〕	2.6 km	11分 (5分)
	爪木崎〔柿崎神社前〕	4.1 km	21分 (5分)
朝日地区	田牛	8.6 km	29分 (5分)
	銭瓶峠	7.3 km	24分 (5分)
	堀切	7.5 km	26分 (5分)
下田地区	下田駅	2.1 km	11分 (5分)
※参考 平均		7.14 km	23.2分
距離区分		時間区分	
5 km未満	3か所	10分未満	0か所
5 km以上 10 km未満	5か所	10分以上 20分未満	3か所
10 km以上	2か所	20分以上 30分未満	5か所
—	—	30分以上 40分未満	2か所
—	—	40分以上	0か所

下田東中学校を新中学校候補地とした場合、距離及び時間で最も遠かったのは、加増野停留所14.7km、北の沢停留所37分、平均は7.14km、23.2分でした。区分ごとに整理すると距離では5 km以上10km未満が5か所、時間では20分以上30分未満が5か所で最も多い結果となりました。

45

新中学校候補地について⑭

(エ) 下田中学校 (停留所：下田中学校)

地区	停留所	距離	時間 (内徒歩時間なし)
稲梓地区	加増野	14.8 km	30分
	北の沢	13.0 km	31分
稲生沢地区	大沢口	6.0 km	17分
白浜地区	板戸一色	9.5 km	20分
浜崎地区	須崎海岸	6.3 km	18分
	爪木崎	7.7 km	28分
朝日地区	田牛	7.6 km	23分
	銭瓶峠	6.4 km	18分
	堀切	3.9 km	10分
下田地区	下田駅	1.8 km	5分
※参考 平均		7.7 km	20.0分
距離区分		時間区分	
5 km未満	2か所	10分未満	1か所
5 km以上 10 km未満	6か所	10分以上 20分未満	4か所
10 km以上	2か所	20分以上 30分未満	3か所
—	—	30分以上 40分未満	2か所
—	—	40分以上	0か所

下田中学校を新中学校候補地とした場合、距離及び時間で最も遠かったのは、加増野停留所14.8km、北の沢停留所31分、平均は7.7km、20.0分でした。区分ごとに整理すると距離では5 km以上10km未満が6か所、時間では10分以上20分未満が4か所で最も多い結果となりました。

46

新中学校候補地について⑮

4 新中学校候補地について

これまでの選出条件を比較し、以下表のとおり取りまとめた結果、「稲生沢中学校」及び「下田中学校」を新中学校候補地とするのが望ましいという結論に至りました。

	稲梓中学校	稲生沢中学校	下田東中学校	下田中学校
① 中学校設置基準	◎	◎	◎	◎
② 市有地	◎	○	△	◎
③ 防災面での安全性	○	○	◎	○
④ 通学について	△	◎	○	○
合 計	9	10	9	10

※◎：3点、○：2点、△：1点にて加点し、合計点を算出（12点満点）

47

中学校再編に関する方向性について

下田市総合教育会議では、中学校の規模に関わる諸課題や学校再編アンケートの検証、下田市立4中学校の生徒数推移及び現状などを踏まえ、協議、検討した結果、以下の結論に至りました。

1 中学校の統合手法について

- 方向性** 下田市立4中学校を一度に統合する1校化の手法が望ましい。
- 理 由**
- ① 稲梓中学校と稲生沢中学校を統合したとしても再び単学級の発生が近い将来見込まれるため。
 - ② 国が示す標準規模校（学級数が12学級から18学級）の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけさせていくため。

2 新中学校候補地について

中学校設置基準、既存4中学校跡地の活用、防災面での安全性及び国の基準を参考に市内全域からの通学を考慮した結果、現在の稲生沢中学校または下田中学校とするのが望ましい。

48

今後の中学校再編に関する検討について

今後の中学校再編に関する検討は、報告書に以下のとおり記載されており、この記載内容に基づき、更に協議及び検討を進めます。

今後の中学校再編の検討に当たっては、生徒の教育環境を守り、改善することを第一目的とし、次の点に留意し進める必要があります。

- 1 下田市総合教育会議では、4校を一度に統合する1校化の手法が望ましいという結論に達しましたが、今後、更なる中学校再編に関する課題の検討等を行うため、保護者、地域住民、学校関係者から成る会議を設置し、具体的課題解決への方策を検討すること。
- 2 アンケート分析の結果、中学校再編に関する情報について、保護者等に対し十分に伝達されていない状況が伺えるため、方針を明確に示したうえで、保護者、地域住民等に対する説明会を開催すること。
- 3 今後、人口減少がより進行し、これまで学校を中心に培ってきた教育環境や地域の文化伝統の維持継承が困難となることが予測されるため、中学校と地域とのつながりをより強固とする方策を検討すること。
- 4 これまでの下田市総合教育会議の協議内容や検討資料等を別冊として取りまとめたので、それらを基に再編について検討すること。

49

今年度のスケジュールについて

関係事項	H28.9	H28.10	H28.11	H28.12	H29.1	H29.2	H29.3
保護者・学校	広報・概要版 配布周知	説明会開催 (4中学校区)	随時開催				
地域	広報・概要版 配布周知	説明会開催 (6地区)					
中学校再編 検討会議		第1回会議 設置・協議		第2回会議 協議		第3回会議 方針等提示	
庁内プロジェクト		検討会議と並行して、随時開催					
教育委員会	経過報告	経過報告	事前協議	経過報告	経過報告	経過報告	事前協議
総合教育会議			経過報告				方針等確認
政策会議	随時開催						方針等確認

※今年度末までに取りまとめられる方針等は、平成29年度に入り下田市学校等再編整備審議会を設置し、諮問及び答申を経た後、市として最終決定を行う予定です。

50

【参考】通学補助に係る検討について①

1 現行の通学費補助について

(1) 下田市遠距離通学費補助金の概要

小学生は4 km以上、中学生6 km以上の路線バスもしくは自転車利用通学をしている児童等の保護者が保護対象。小学生は全額、中学生は1/2補助、中学生の自転車通学は月1,000円補助。

※例外：稲梓小一須原地区、朝日小一田牛地区、稲梓中一須原地区、下田東中一白浜地区
下田中一朝日地区は距離制限なし。

(2) 平成27年度下田市遠距離通学費補助金の補助実績

学校名	対象人数	補助支給額
稲梓小学校	33人	987,570円
朝日小学校	6人	168,560円
小学校計	39人	1,156,130円
稲梓中学校	15人	194,470円
下田東中学校	50人	2,091,875円
下田中学校	66人	2,121,515円
中学校計	131人	4,407,860円
合計	170人	5,563,990円

51

【参考】通学補助に係る検討について②

2 中学校統合に係る通学費補助想定について

(1) 中学校統合に係る通学費補助要件の仮設定について

下田市立4中学校を1校化する想定に伴い、統合後の校舎位置については、稲生沢中学校及び下田中学校を候補地としました。併せて、公共交通機関の活用（自家用車送迎等による候補地近隣住民の環境配慮）及び他市町の制度を参考に補助要件などを仮に設定しました。

補助対象者	制度概要
小中学校の統合等に伴い、市が指定する就学校又は通学場所に変更が生じた地域の児童・生徒 ※統合前の旧学区内の児童・生徒に対しては既存補助要綱を適用。	補助率は全額補助（通学定期券の交付） ※通学費負担を軽減し、義務教育の円滑な遂行を図る。

(2) 通学費補助内容の決定について

参考資料として通学費補助に係る想定を記載しましたが、**正式な通学費補助内容については、今後、関係各所との協議を経た上で決定される予定**です。

52

【参考】通学補助に係る検討について③

- (3) 通学費補助要件の仮設定に基づく各地区からの補助金額について
 (1) で掲げた通学費補助要件の仮設定に基づく各地区からの補助金額について、以下の条件にて算出しました。

【補助金額算出条件】

- 1 行政区別人口データは、平成28年4月1日時点の住民基本台帳の行政区別・年齢別人口調べを利用。
- 2 地区別の1年生から3年生の生徒数については、平成33年度からの中学校統合を想定し、平成28年4月1日現在でその学年に該当する7歳から9歳のそれぞれの人数を記載。
- 3 地区別に既存の稲生沢中学校及び下田中学校までの通学定期代について算出。併せて、バス利用のみの場合、バス及び鉄道利用の場合それぞれの定期代を算出。
- 4 補助期間については、休暇中の部活動等を考慮し、1年間(365日)とする。
- 5 バス及び鉄道定期代については、(株)南伊豆東海バス及び伊豆急行(株)に確認し、平成28年度定期券金額から算出。
 ※バス通学定期券：4か月定期が最長・鉄道通学定期券：6か月定期が最長
- 6 停留所等については、行政区ごとで1か所を設定。また、停留所利用人数についても行政区ごとの人数が全て利用すると仮定。
- 7 バス及び鉄道ダイヤについては、既存ダイヤを考慮しない。(統合となった場合、ダイヤ設定については交通事業者と要交渉)。

53

【参考】通学補助に係る検討について④

◎稲生沢中学校想定(バス利用：各停留所⇒河内温泉バス停)

【稲梓地区】

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス定期(4か月)	バス定期(1年)	定期代補助額
須原	北の沢	2	0	1	3	68,400	205,200	615,600
須原2	目金	6	0	1	7	57,460	172,380	1,206,660
宇土金	宇土金口	0	2	2	4	57,460	172,380	689,520
椎原	上箕作	3	3	3	9	45,140	135,420	1,218,780
北湯ヶ野	上箕作	0	2	0	2	45,140	135,420	270,840
横川	横川	2	0	2	4	62,930	188,790	755,160
加増野	加増野	1	0	1	2	82,080	246,240	492,480
相玉	相玉	0	3	1	4	47,880	143,640	574,560
箕作	下箕作	0	7	2	9	42,410	127,230	1,145,070
落合	落合	0	0	0	0	34,200	102,600	0
稲梓地区計		14	17	13	44			6,968,670

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎下田中学校想定(バス利用：各停留所⇒下田駅⇒下田中学校バス停)

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス定期(4か月)	バス定期(1年)	定期代補助額
須原	北の沢	2	0	1	3	86,180	258,540	775,620
須原2	目金	6	0	1	7	76,610	229,830	1,608,810
宇土金	宇土金口	0	2	2	4	76,610	229,830	919,320
椎原	上箕作	3	3	3	9	62,930	188,790	1,699,110
北湯ヶ野	上箕作	0	2	0	2	62,930	188,790	377,580
横川	横川	2	0	2	4	80,710	242,130	968,520
加増野	加増野	1	0	1	2	97,130	291,390	582,780
相玉	相玉	0	3	1	4	64,300	192,900	771,600
箕作	下箕作	0	7	2	9	58,820	176,460	1,588,140
落合	落合	0	0	0	0	50,620	151,860	0
稲梓地区計		14	17	13	44			9,291,480

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

54

【参考】通学補助に係る検討について⑤

◎下田中学校想定（バス利用：各停留所→下田駅→下田中学校バス停）

【稲生沢地区】

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
東本郷2	東本郷二丁目	0	0	0	0	32,830	98,490	0
西本郷2	西本郷二丁目	5	0	1	6	31,460	94,380	566,280
西本郷3	西本郷二丁目	1	1	0	2	31,460	94,380	188,760
高馬	高馬	2	2	1	5	35,570	106,710	533,550
河内	河内温泉	7	6	6	19	45,140	135,420	2,572,980
蓮台寺	蓮台寺	6	4	1	11	45,140	135,420	1,489,620
上大沢	大沢口	1	0	1	2	51,980	155,940	311,880
下大沢	大沢口	2	0	1	3	51,980	155,940	467,820
立野	中の瀬	4	1	4	9	41,040	123,120	1,108,080
中	西中村	11	13	9	33	35,570	106,710	3,521,430
稲生沢地区計		39	27	24	90			10,760,400

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎下田中学校想定（鉄道・バス利用：各停留所→下田駅→下田中学校バス停）

行政区	停留所等 (想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
東本郷2	東本郷二丁目	0	0	0	0	32,830	98,490			0
西本郷2	西本郷二丁目	5	0	1	6	31,460	94,380			566,280
西本郷3	西本郷二丁目	1	1	0	2	31,460	94,380			188,760
高馬	高馬	2	2	1	5	35,570	106,710			533,550
河内	蓮台寺駅	7	6	6	19	23,260	69,780			2,027,680
蓮台寺	蓮台寺駅	6	4	1	11	23,260	69,780			1,173,920
上大沢	蓮台寺駅	1	0	1	2	23,260	69,780	18,470	36,940	213,440
下大沢	蓮台寺駅	2	0	1	3	23,260	69,780			320,160
立野	蓮台寺駅	4	1	4	9	23,260	69,780			960,480
中	西中村	11	13	9	33	35,570	106,710			3,521,430
稲生沢地区計		39	27	24	90					9,505,700

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出。鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

55

【参考】通学補助に係る検討について⑥

◎稲生沢中学校想定（バス利用：各停留所→下田駅→河内温泉バス停）

【白浜地区】

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
原田	白浜神社	8	9	7	24	68,400	205,200	4,924,800
長田	長田	4	7	3	14	73,870	221,610	3,102,540
板戸	板戸一色	1	2	4	7	84,820	254,460	1,781,220
白浜地区計		13	18	14	45			9,808,560

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎稲生沢中学校想定（鉄道・バス利用：各停留所→下田駅→蓮台寺駅）

行政区	停留所 (想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
原田	白浜神社	8	9	7	24	49,250	147,750			4,432,560
長田	長田	4	7	3	14	53,350	160,050	18,470	36,940	2,757,860
板戸	板戸一色	1	2	4	7	64,300	192,900			1,608,880
白浜地区計		13	18	14	45					8,799,300

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出。鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

◎下田中学校想定（バス利用：各停留所→下田駅→下田中学校バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
原田	白浜神社	8	9	7	24	60,190	180,570	4,333,680
長田	長田	4	7	3	14	64,300	192,900	2,700,600
板戸	板戸一色	1	2	4	7	76,610	229,830	1,608,810
白浜地区計		13	18	14	45			8,643,090

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

56

【参考】通学補助に係る検討について⑦

【浜崎地区】

◎稲生沢中学校想定（バス利用：各停留所→下田駅→河内温泉バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス定期(4か月)	バス定期(1年)	定期代補助額
柿崎	柿崎神社前	9	4	13	26	43,780	131,340	3,414,840
須崎	須崎海岸	9	9	7	25	62,930	188,790	4,719,750
外浦	外浦口	1	3	1	5	51,980	155,940	779,700
浜崎地区計		19	16	21	56			8,914,290

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎稲生沢中学校想定（鉄道・バス利用：各停留所→下田駅→蓮台寺駅）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス定期(4か月)	バス定期(1年)	鉄道定期(6か月)	鉄道定期(1年)	定期代補助額
柿崎	柿崎神社前	9	4	13	26	23,260	69,780			2,774,720
須崎	須崎海岸	9	9	7	25	41,040	123,120	18,470	36,940	4,001,500
外浦	外浦口	1	3	1	5	32,830	98,490			677,150
浜崎地区計		19	16	21	56					7,453,370

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)金額から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

◎下田中学校想定（バス利用：各停留所→下田駅→下田中学校バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス定期(4か月)	バス定期(1年)	定期代補助額
柿崎	柿崎神社前	9	4	13	26	35,570	106,710	2,774,460
須崎	須崎海岸	9	9	7	25	54,720	164,160	4,104,000
外浦	外浦口	1	3	1	5	43,780	131,340	656,700
浜崎地区計		19	16	21	56			7,535,160

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

57

【参考】通学補助に係る検討について⑧

【下田地区】

◎稲生沢中学校想定（バス利用：各停留所→下田駅→河内温泉バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス定期(4か月)	バス定期(1年)	定期代補助額
一丁目	下田駅	3	8	3	14	34,200	102,600	1,436,400
二丁目	下田駅	4	1	5	10	34,200	102,600	1,026,000
三丁目	下田駅	1	2	2	5	34,200	102,600	513,000
四丁目	下田駅	0	3	2	5	34,200	102,600	513,000
五丁目	鍋田口	0	4	1	5	43,780	131,340	656,700
六丁目	白岩山	16	15	14	45	46,510	139,530	6,278,850
武方浜	下田駅	0	1	1	2	34,200	102,600	205,200
敷根	下田駅	2	3	1	6	34,200	102,600	615,600
東本郷1	下田駅	1	2	3	6	34,200	102,600	615,600
西本郷1	下田駅	1	0	3	4	34,200	102,600	410,400
下田地区計		28	39	35	102			12,270,750

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎稲生沢中学校想定（鉄道・バス利用：各停留所→下田駅→蓮台寺駅）

行政区	停留所等(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス定期(4か月)	バス定期(1年)	鉄道定期(6か月)	鉄道定期(1年)	定期代補助額
一丁目	下田駅	3	8	3	14					517,160
二丁目	下田駅	4	1	5	10					369,400
三丁目	下田駅	1	2	2	5					184,700
四丁目	下田駅	0	3	2	5					184,700
五丁目	鍋田口	0	4	1	5	23,260	69,780			533,600
六丁目	白岩山	16	15	14	45	23,260	69,780	18,470	36,940	4,802,400
武方浜	下田駅	0	1	1	2					73,880
敷根	下田駅	2	3	1	6					221,640
東本郷1	下田駅	1	2	3	6					221,640
西本郷1	下田駅	1	0	3	4					147,760
下田地区計		28	39	35	102					7,256,880

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

58

【参考】通学補助に係る検討について⑨

【朝日地区】

◎稲生沢中学校想定（バス利用：各停留所→下田駅→河内温泉バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
吉佐美	吉佐美	23	8	17	48	57,460	172,380	8,274,240
田牛	田牛	3	1	2	6	80,710	242,130	1,452,780
大賀茂	学校前	13	13	14	40	62,930	188,790	7,551,600
朝日地区計		39	22	33	94			17,278,620

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎稲生沢中学校想定（バス利用：各停留所→下田駅→蓮台寺駅）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
吉佐美	吉佐美	23	8	17	48	36,940	110,820			7,092,480
田牛	田牛	3	1	2	6	60,190	180,570	18,470	36,940	1,305,060
大賀茂	学校前	13	13	14	40	39,670	119,010			6,238,000
朝日地区計		39	22	33	94					14,635,540

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

◎下田中学校想定（バス利用：各停留所→下田中学校バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
吉佐美	吉佐美	23	8	17	48	46,510	139,530	3,348,720
田牛	田牛	3	1	2	6	71,140	213,420	640,260
大賀茂	学校前	13	13	14	40	34,200	102,600	2,052,000
朝日地区計		39	22	33	94			6,040,980

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけた後、朝日地区は下田中学校旧学区で既存補助要綱適用により半額補助となるため、更に1/2をかけて算出。

59

【参考】通学補助に係る検討について⑩

【全地区】

【稲生沢中学校想定（バス利用のみ）】

	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
全地区合計	113	112	116	341			55,240,890

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

【稲生沢中学校想定（バス及び鉄道利用）】

	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
全地区合計	113	112	116	341					45,113,760

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

【下田中学校想定（バス利用のみ）】

	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
全地区合計	124	100	105	329			42,271,110

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。朝日地区は下田中学校旧学区で既存補助要綱適用により半額補助となるため、更に1/2をかけて算出。

【下田中学校想定（バス及び鉄道利用）】

	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
全地区合計	124	100	105	329					41,016,410

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。朝日地区は下田中学校旧学区で既存補助要綱適用により半額補助となるため、更に1/2をかけて算出。

60

第3 下田市総合教育会議報告書中学校再編に係るアンケート調査

1 調査概要

(1) 調査目的

平成28年8月に下田市総合教育会議において「下田市立中学校再編に係る報告書」が策定され、中学校再編を検討する上で様々なご意見を聴取することを目的とし、本アンケート調査を実施しました。

(2) 調査実施年月

平成28年10月から12月

(3) 調査方法

調査対象は市内全小中学校（7小学校及び4中学校）及び幼保こども園（公立3園及び民間2園）とし、調査の対象は全ての保護者及び教職員としました。なお、調査票は各園・小中学校経路による配布・回収により行いました。

(4) 回収状況

本調査の回収数、回収率は以下のとおりです。

区分	配布数	回収数	回収率
全体	1,882	1,222	65%
(保護者)	(1,602)	(1,045)	(65%)
(教職員)	(280)	(177)	(63%)

(5) 調査項目の構成

	質問項目	回答方法
1	保護者・教職員所属確認	「乳幼児保護者」「保育所(園)・幼稚園保護者」「小学生保護者」「中学生保護者」「教職員」の選択式
2	保護者・教職員居住地及び通学(園)先確認	【居住地】 市内6地区の選択式 【通学(園)先について】 市内5幼保こども園、11小中学校の選択式
3	下田市総合教育会議では、『新中学校候補地を現在の稲生沢中学校もしくは下田中学校とするのが望ましい』という方針を示しましたが、どちらが望ましいと思いますか。	「稲生沢中学校」「下田中学校」の選択式及び理由については記載式
4	新中学校ではどのようなことができる、または、どのようなことをさせてもらえる中学校であって欲しいですか（学習面（授業や部活等）、生活面（交流や指導等）、学校運営面など）。	記載式
5	下田市教育委員会では、報告書及び説明会資料記載のとおり、中学校の学校再編にあたっては、通学バス等の補助など、生徒や保護者に過度の負担がかからないように検討を進めてまいりますが、どのような配慮を要望しますか。	記載式
6	その他、中学校再編に関するご意見があれば、ご記入ください。	記載式

(6) アンケート用紙について

下田市総合教育会議報告書
中学校再編に係るアンケート調査について

平成28年8月に下田市総合教育会議(※1)において、「下田市立中学校再編に係る報告書(以下、「報告書」という。)」が策定されました。下田市教育委員会(※2)では、本報告書に基づき、現在、市内全小中学校長、市内全小中学校PTA会長、下田市区長連絡協議会市内6地区会長を構成委員とした「下田市立中学校再編検討会議」にて、様々なご意見を聴取しております。

中学校再編を検討する上でより様々なご意見を伺いたいため、本アンケートを実施させていただきます。ぜひ皆様のご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

平成28年10月

下田市教育長 佐々木 文夫

回答期限：平成28年11月22日(火)までに、以下回答方法によりご回答ください(厳守)。

回答方法：回答書部分を切り取り、①学校(保育所(園)・幼稚園)経由、もしくは、②下田市教育委員会へ、直接郵送またはFAXにて送付願います。

質問1 アンケートにお答えになっているのはどなたですか。当てはまるもの全てお選びください。

- ①. 乳幼児の保護者 ②. 保育所(園)・幼稚園の保護者 ③. 小学生の保護者
④. 中学生の保護者 ⑤. 教職員

質問2 居住地をお教えください。また、お子様が通学(園)されている場合は、その学校(保育所(園)・幼稚園)もお選びください。教職員の方は赴任校について【通学(園)先】からお選びください。

【居住地について】

- ①. 下田地区 ②. 稲生沢地区 ③. 稲梓地区 ④. 朝日地区 ⑤. 浜崎地区
⑥. 白浜地区

【通学(園)先について】

- ①. 下田幼稚園 ②. 下田保育所 ③. 下田認定こども園 ④. 稲生沢保育園
⑤. ひかり保育園 ⑥. 稲梓小学校 ⑦. 稲生沢小学校 ⑧. 白浜小学校
⑨. 浜崎小学校 ⑩. 下田小学校 ⑪. 大賀茂小学校 ⑫. 朝日小学校
⑬. 稲梓中学校 ⑭. 稲生沢中学校 ⑮. 下田東中学校 ⑯. 下田中学校

※以下の質問については、報告書をご覧いただいた後、お答えください。お手元がない方は、下田市ホームページトップ画面「お知らせ」欄『下田市立中学校再編に関する報告書』に報告書データを掲載しておりますので、大変申し訳ございませんがそちらをご確認願います。

下田市ホームページ URL <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>

質問3 下田市総合教育会議では、『新中学校候補地を現在の稲生沢中学校もしくは下田中学校とするのが望ましい』という方針を示しましたが、どちらが望ましいと思いますか。また、その理由についてもお書きください。

- ①. 稲生沢中学校 ②. 下田中学校

理由記入欄

【裏面に続く】

質問4 新中学校ではどのようなことができる、または、どのようなことをさせてもらえる中学校であって欲しいですか（学習面（授業や部活等）、生活面（交流や指導等）、学校運営面など）。

記入欄

質問5 下田市教育委員会では、報告書及び説明会資料記載のとおり、中学校の学校再編にあたっては、通学バス等の補助など、生徒や保護者に過度の負担がかからないように検討を進めてまいりますが、どのような配慮を要望しますか。

記入欄

質問6 その他、中学校再編に関するご意見があれば、ご記入ください。

記入欄

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

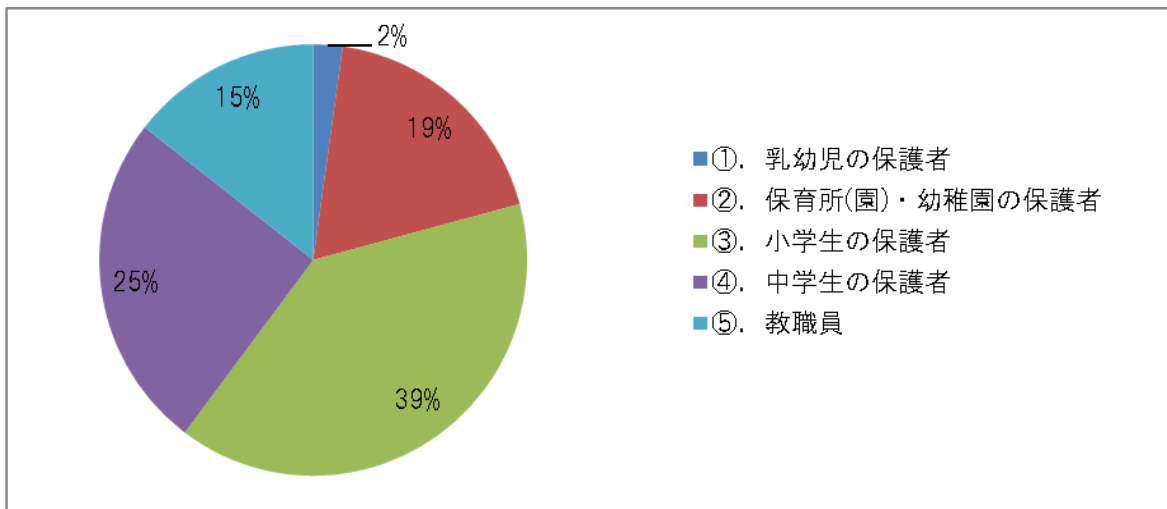
【注釈説明】

- * 1 「総合教育会議」：地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成 26 年法律第 76 号）により、市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、教育の課題及び目指す姿を共有しながら、同じ方向性の下、連携して効果的に教育行政を推進していくため、平成 27 年 4 月に市長、教育長、教育委員を構成員として設置。
- * 2 「教育委員会」：教育長と教育委員 4 人で構成される合議制の執行機関。

2 調査検証結果

調査の分析・検証の結果について、次のとおり、保護者及び教職員に分けて掲載します。

質問1 アンケートにお答えになっているのはどなたですか。当てはまるもの全てお選びください。

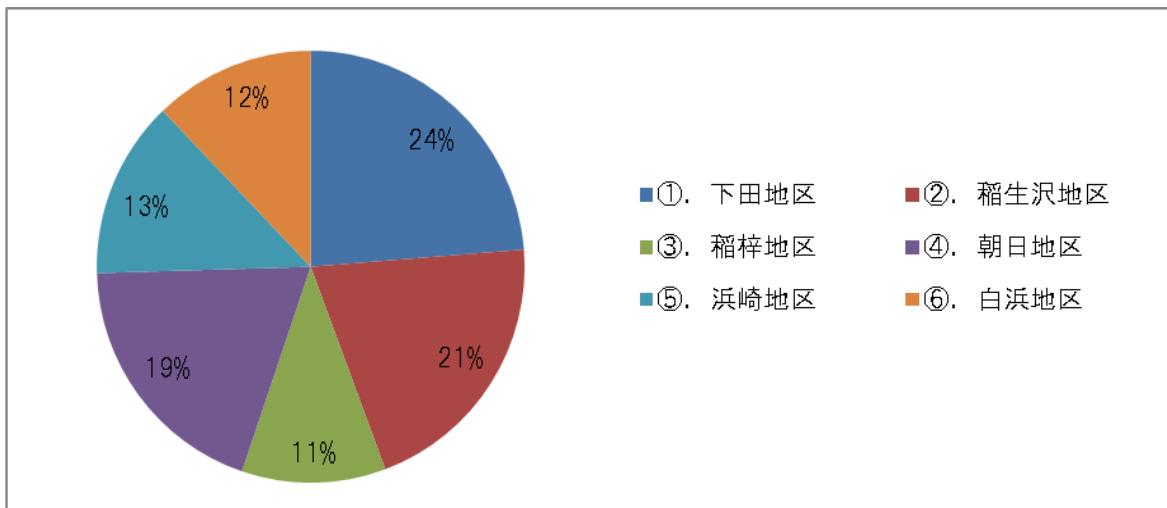


区分	全体
①. 乳幼児の保護者	27
②. 保育所(園)・幼稚園の保護者	228
③. 小学生の保護者	483
④. 中学生の保護者	310
⑤. 教職員	177

※複数選択あり【n=1,225】

質問2 居住地をお教えてください。また、お子様が通学(園)されている場合は、その学校(保育所(園)・幼稚園)もお選びください。教職員の方は赴任校について【通学(園)先】からお選びください。

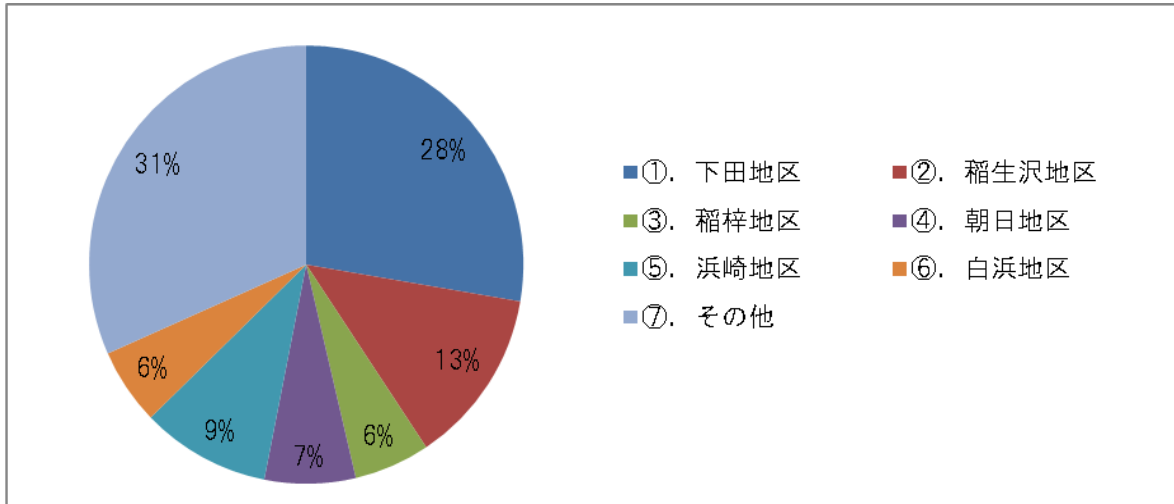
【居住地について(保護者)】



区分	保護者数	区分	保護者数
①. 下田地区	205	②. 稻生沢地区	178
③. 稻梓地区	94	④. 朝日地区	168
⑤. 浜崎地区	115	⑥. 白浜地区	105

※【n=865】

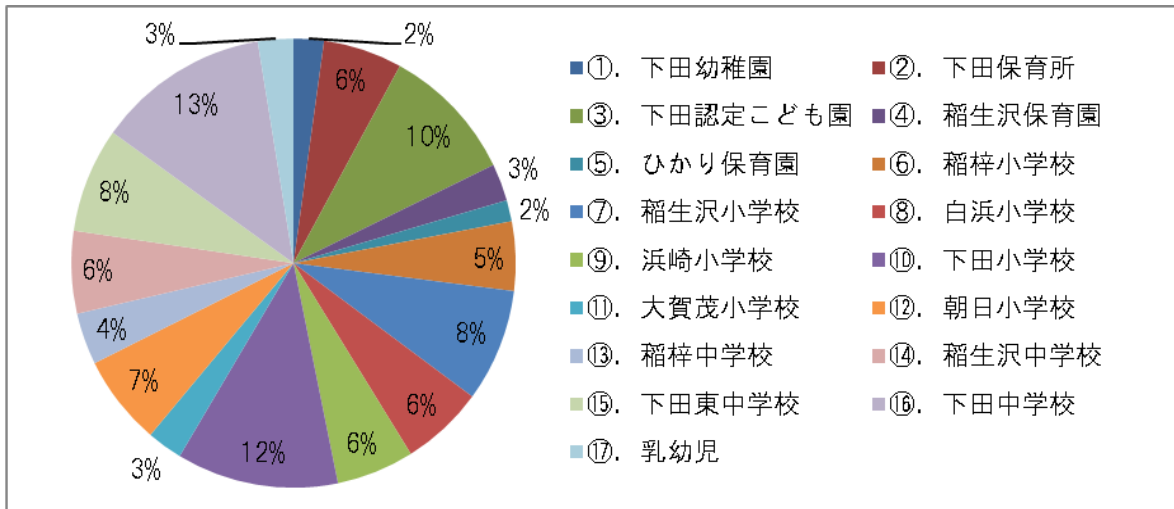
【居住地について（教職員）】



区分	教職員数	区分	教職員数
①. 下田地区	49	②. 稲生沢地区	23
③. 稲梓地区	10	④. 朝日地区	12
⑤. 浜崎地区	17	⑥. 白浜地区	10
⑦. その他	56		

※【n=177】

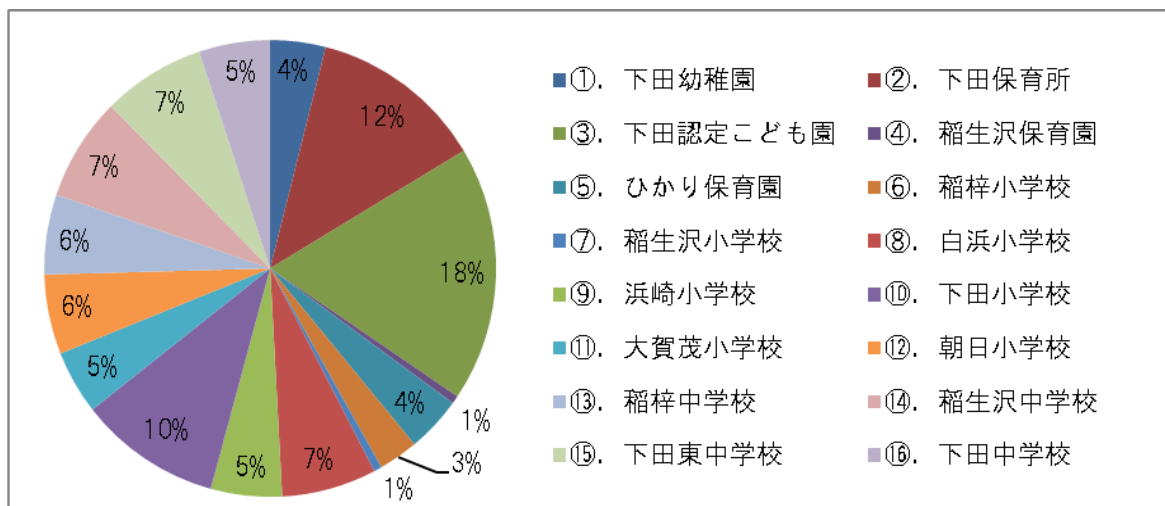
【通学(園)先について（保護者）】



区分	保護者数	区分	保護者数
①. 下田幼稚園	23	②. 下田保育所	60
③. 下田認定こども園	103	④. 稲生沢保育園	28
⑤. ひかり保育園	16	⑥. 稲梓小学校	52
⑦. 稲生沢小学校	85	⑧. 白浜小学校	63
⑨. 浜崎小学校	59	⑩. 下田小学校	123
⑪. 大賀茂小学校	27	⑫. 朝日小学校	68
⑬. 稲梓中学校	39	⑭. 稲生沢中学校	62
⑮. 下田東中学校	79	⑯. 下田中学校	131
⑰. 乳幼児	27		

※複数選択あり【n=1,045】

【赴任先について（教職員）】



区分	教職員数	区分	教職員数
①. 下田幼稚園	7	②. 下田保育所	22
③. 下田認定こども園	32	④. 稲生沢保育園	1
⑤. ひかり保育園	7	⑥. 稲梓小学校	5
⑦. 稲生沢小学校	1	⑧. 白浜小学校	12
⑨. 浜崎小学校	9	⑩. 下田小学校	18
⑪. 大賀茂小学校	8	⑫. 朝日小学校	10
⑬. 稲梓中学校	10	⑭. 稲生沢中学校	13
⑮. 下田東中学校	13	⑯. 下田中学校	9

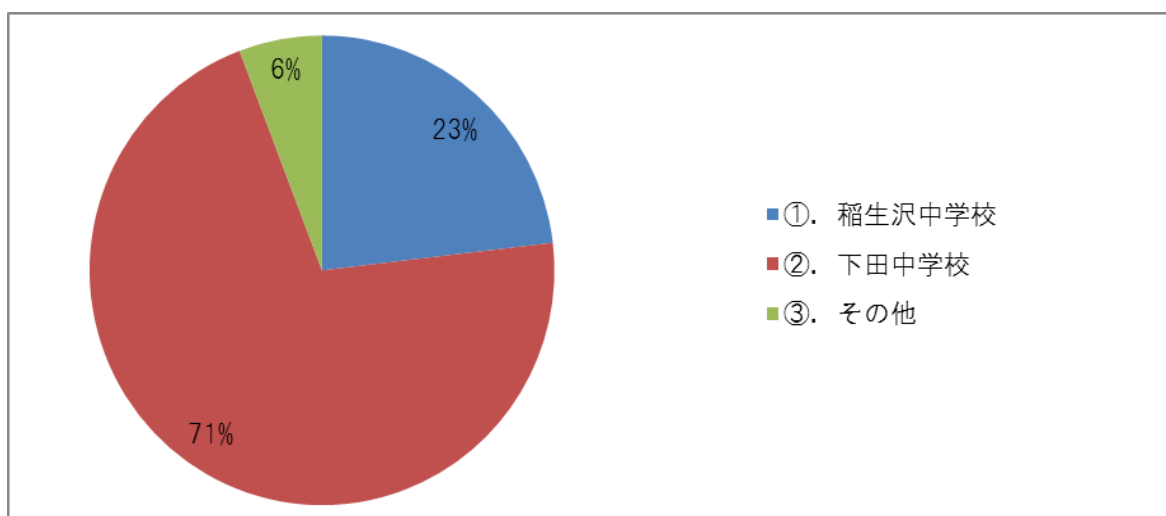
※【n=177】

【アンケート回収一覧】

区分	保護者・PTA数	保護者回収	回収率	教職員数	教職員回収	回収率
①. 下田幼稚園	43	23	53%	7	7	100%
②. 下田保育所	83	60	72%	22	22	100%
③. 下田認定こども園	164	103	54%	32	32	100%
④. 稲生沢保育園	98	28	29%	16	1	6%
⑤. ひかり保育園	53	16	30%	10	7	70%
⑰. 乳幼児	27	27	100%	—	—	—
就学前小計	468	257	55%	87	69	79%
⑥. 稲梓小学校	67	52	78%	12	5	42%
⑦. 稲生沢小学校	145	85	59%	18	1	6%
⑧. 白浜小学校	68	63	93%	17	12	71%
⑨. 浜崎小学校	78	59	76%	14	9	64%
⑩. 下田小学校	199	123	62%	26	18	69%
⑪. 大賀茂小学校	45	27	60%	14	8	57%
⑫. 朝日小学校	89	68	76%	17	10	59%
小学校小計	691	477	69%	118	63	53%
⑬. 稲梓中学校	53	39	74%	15	10	67%
⑭. 稲生沢中学校	108	62	57%	17	13	76%
⑮. 下田東中学校	81	79	98%	19	13	68%
⑯. 下田中学校	201	131	65%	24	9	38%
中学校小計	443	311	70%	75	45	60%
小中学校小計	1,134	788	69%	193	108	55%
合計	1,602	1,045	65%	280	177	63%

質問3 下田市総合教育会議では、『新中学校候補地を現在の稲生沢中学校もしくは下田中学校とするのが望ましい』という方針を示しましたが、どちらが望ましいと思いますか。また、その理由についてもお書きください。

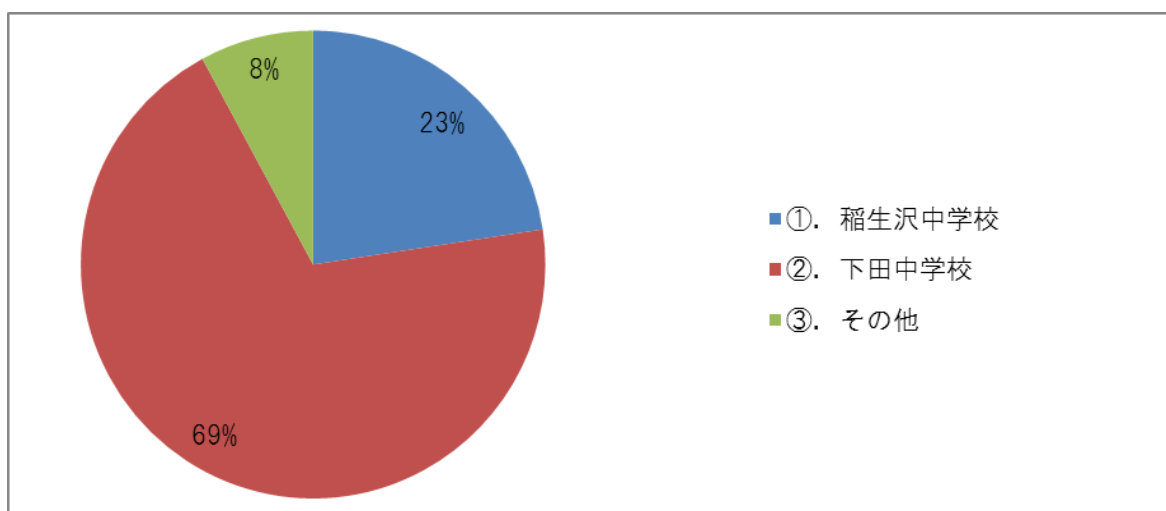
【保護者全体】



区分	保護者数
①. 稲生沢中学校	200
②. 下田中学校	615
③. その他	50

※【n=865】

【教職員全体】



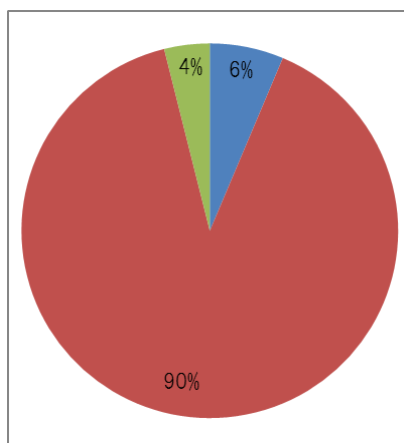
区分	教職員数
①. 稲生沢中学校	40
②. 下田中学校	123
③. その他	14

※【n=177】

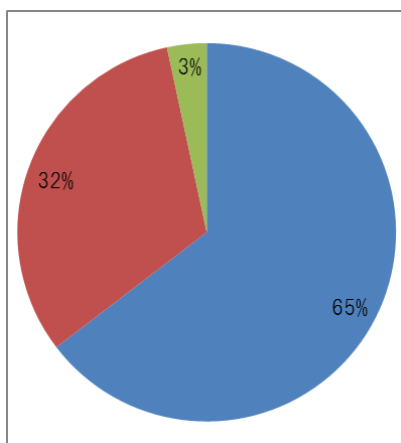
保護者全体では、23%が「稲生沢中学校」、71%が「下田中学校」、6%が「その他」という結果になりました。また、教職員全体でもほぼ同じ結果となりました。

【居住地別（保護者）】

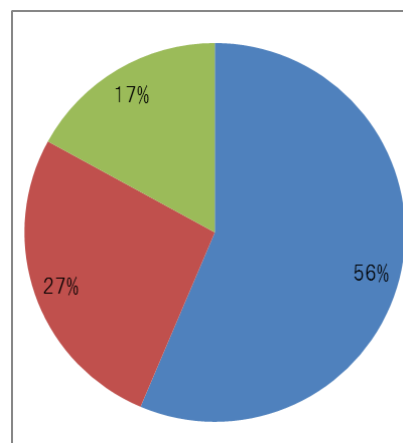
【下田地区】



【稲生沢地区】



【稲梓地区】



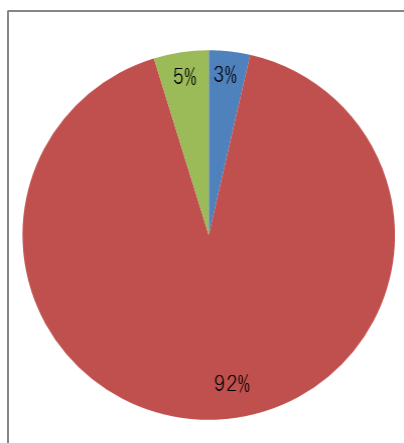
区分	保護者数	区分	保護者数	区分	保護者数
①. 稲生沢中学校	13	①. 稲生沢中学校	115	①. 稲生沢中学校	53
②. 下田中学校	184	②. 下田中学校	57	②. 下田中学校	25
③. その他	8	③. その他	6	③. その他	16

※【n=205】

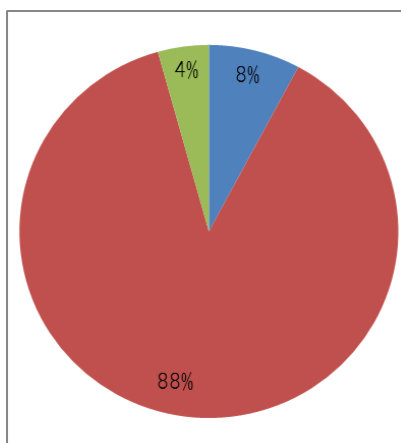
※【n=178】

※【n=94】

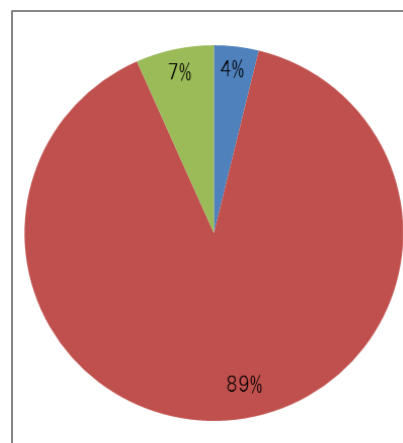
【朝日地区】



【浜崎地区】



【白浜地区】

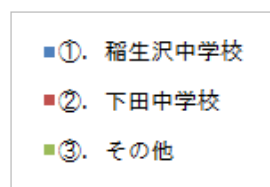


区分	保護者数	区分	保護者数	区分	保護者数
①. 稲生沢中学校	6	①. 稲生沢中学校	9	①. 稲生沢中学校	4
②. 下田中学校	154	②. 下田中学校	101	②. 下田中学校	94
③. その他	8	③. その他	5	③. その他	7

※【n=168】

※【n=115】

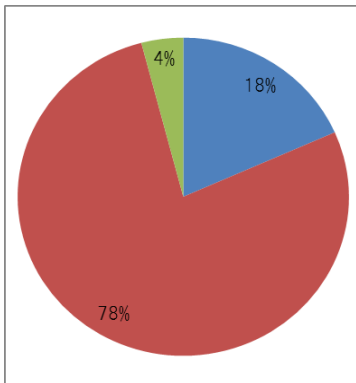
※【n=105】



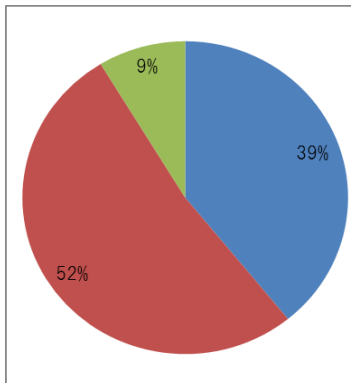
保護者の居住地別では、稲生沢地区と稲梓地区で「稲生沢中学校」の割合が高く、それ以外の4地区では「下田中学校」の割合が高い結果となりました。

【居住地別（教職員）】

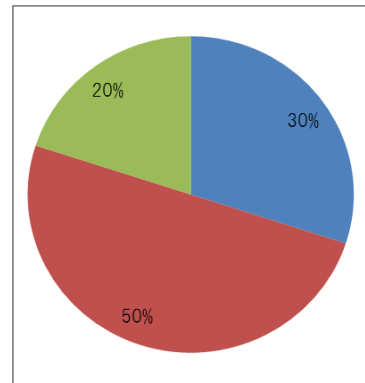
【下田地区】



【稲生沢地区】



【稲梓地区】



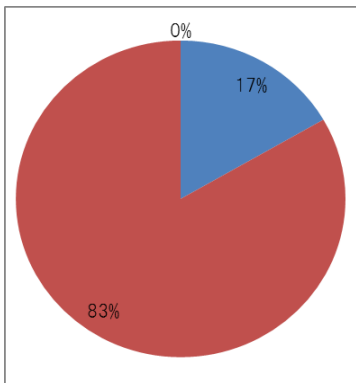
区分	教職員数	区分	教職員数	区分	教職員数
①. 稲生沢中学校	9	①. 稲生沢中学校	9	①. 稲生沢中学校	3
②. 下田中学校	38	②. 下田中学校	12	②. 下田中学校	5
③. その他	2	③. その他	2	③. その他	2

※【n=49】

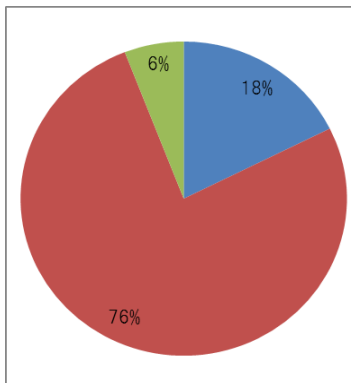
※【n=23】

※【n=10】

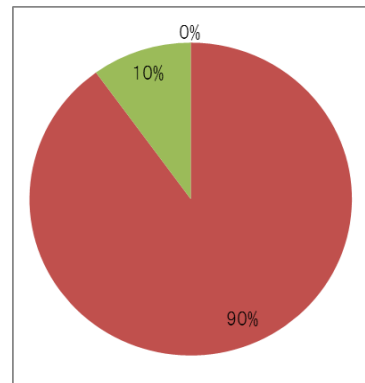
【朝日地区】



【浜崎地区】



【白浜地区】



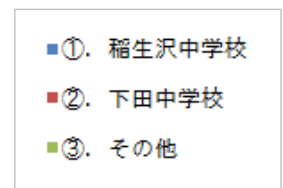
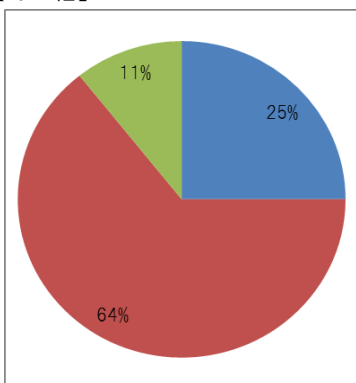
区分	教職員数	区分	教職員数	区分	教職員数
①. 稲生沢中学校	2	①. 稲生沢中学校	3	①. 稲生沢中学校	0
②. 下田中学校	10	②. 下田中学校	13	②. 下田中学校	9
③. その他	0	③. その他	1	③. その他	1

※【n=12】

※【n=17】

※【n=10】

【その他】



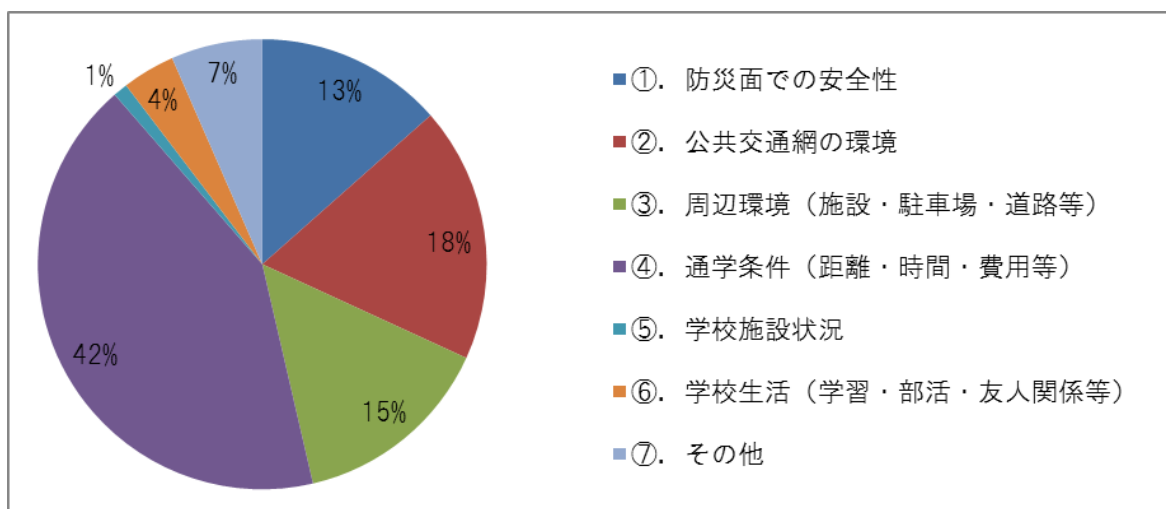
区分	教職員数
①. 稲生沢中学校	14
②. 下田中学校	36
③. その他	6

※【n=56】

教職員の居住地別では、全ての地区において「下田中学校」の割合が高い結果となりました。しかし、稲生沢地区と稲梓地区では、「稲生沢中学校」の割合が高くなっております。

【理由欄（保護者全体）】

【稲生沢中学校】



区分	保護者数
①. 防災面での安全性	39
②. 公共交通網の環境	53
③. 周辺環境（施設・駐車場・道路等）	42
④. 通学条件（距離・時間・費用等）	122
⑤. 学校施設状況	3
⑥. 学校生活（学習・部活・友人関係等）	11
⑦. その他	19

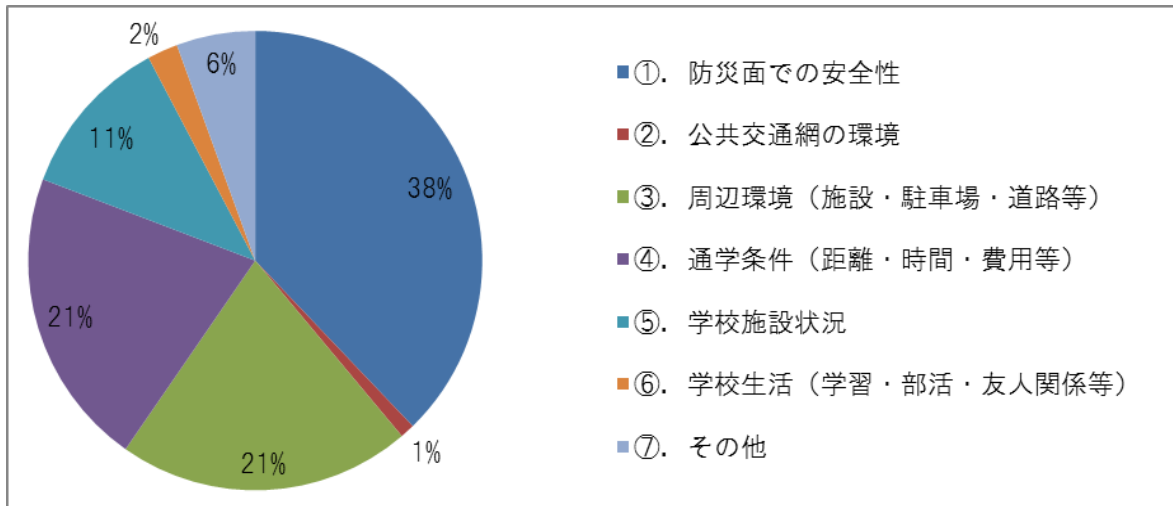
※複数選択あり【n=289】

【主な意見】

<p>①. 防災面での安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高台という事では下田中学校でも良いと思うが、災害時に敷根は道路が1本しかなく、山からの被害も考えられる。 ・ほぼ中間地点であり、蓮台寺駅も近く津波の安全性も下田中よりは良いと思う。 ・下田中学校通学路の敷根は、崖地の下の道路があり危険。 ・通学路において、津波などの災害の心配がないため。
<p>②. 公共交通網の環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田中は実際通うのには不便で距離も長く、稲生沢中なら電車通学も可能だと思う。稲生沢中は静かな場所にあり、とても好ましい。 ・ほぼ中間地点であり、蓮台寺駅も近く津波の安全性も下田中よりは良いと思う。 ・電車という通学方法も増えるし、自転車通学をする上でも、坂道がないので通学がしやすいと思う。 ・市内全体から自転車通学を考えた場合、平坦な場所である。伊豆急線蓮台寺駅もあるので、利便性がある。
<p>③. 周辺環境（施設・駐車場・道路等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田高校と同じ通学ルートであり、下田駅まで平坦な道路であり、家屋も多く安心できる。 ・地震の時に津波が心配されますが、地域の方の目が行き届く範囲に学校があると町全体が活性化する気がする。下田中は山すぎる。 ・民間保育園、小中高校と密集しており、地域の安全面への配慮が下田中学校よりも行き届いていると思うから。
<p>④. 通学条件（距離・時間・費用等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅から近く、下田中学校だと津波浸水想定区域を通学しなければならないため。 ・通学時間が各地区同じくらいになるので。 ・国道135号は交通量が多いため、稲生沢地区から通うには自転車かバスになると思うが、渋滞などが心配。行事の時などは敷根が渋滞して大変なことになりそう。その点、稲生沢中なら抜け道もあるし、蓮台寺駅からも近くて良い。 ・下田中学校では、稲生沢地区の生徒の通学距離が遠くなり負担が大きい。
<p>⑤. 学校施設状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時（津波）のことを考えると避難するにも場所が広いので良いと思う。また、学校周辺にも空き地が多く、それを活用することもできる。 ・稲生沢中から真ん中くらいに位置しているので通学に良い。部活で試合などの時に既存の体育館が広いので使いやすい。

⑥. 学校生活（学習・部活・友人関係等）
・小中高の学校がある稲生沢地区は、地域と連携体制が既に構築されており、子供達の教育環境に適している。 ・下田高校の近くにあり、教育の場の中・高生一緒に取り組む機会も増えて、お互いに意識や責任感が生まれてメリットになると思う。しかし、高台にないのが心配。
⑦. その他
・本音はどちらも反対、下田には稲梓、下田東、下田の3校は市の大きさから考えて必要である。 ・場所は稲生沢が良いと思うが、道路の整備が必要だと思う。交通量が多く、今でも危ない。 ・公共交通の便が良い。下中の跡地利用が可能（津波・浸水地域の下小・朝日小の再編等）。 ・危険のある道を通って通学する（津波の危険がある道を通る）下田中学校は反対。全ての施設を旧町内に集中させるのはおかしいと思う。

【下田中学校】



区分	保護者数
①. 防災面での安全性	330
②. 公共交通網の環境	9
③. 周辺環境（施設・駐車場・道路等）	182
④. 通学条件（距離・時間・費用等）	184
⑤. 学校施設状況	100
⑥. 学校生活（学習・部活・友人関係等）	19
⑦. その他	49

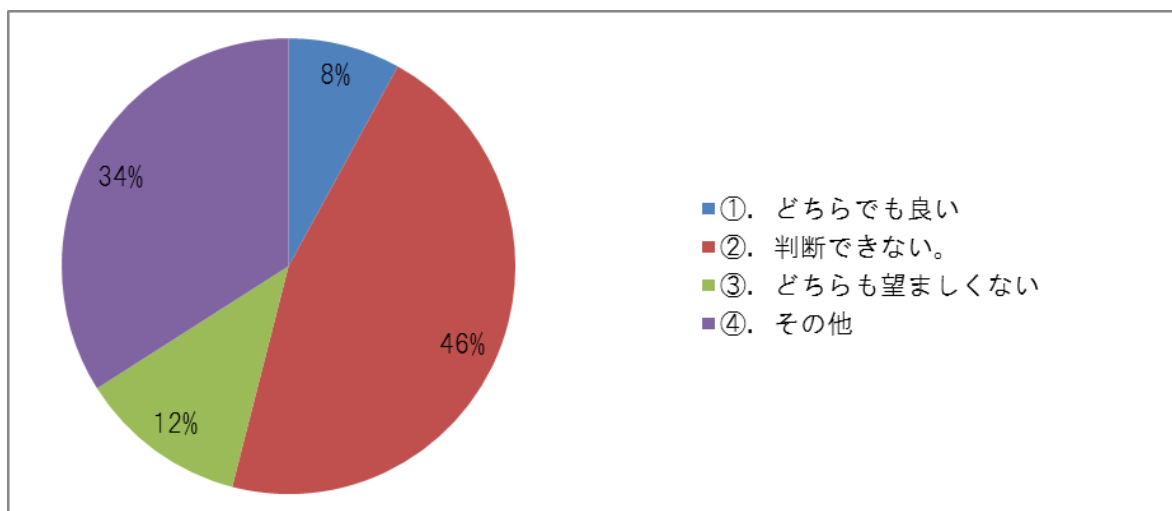
※複数選択あり【n=873】

【主な意見】

①. 防災面での安全性
・下田中は標高が高く津波に対して安全。 ・高台にあり、すぐそばに敷根グラウンドやこども園などもあるので災害時には下田中学校の方が良いと思います。 ・津波の心配がないため、稲生沢は近くに川があるので心配。 ・地震津波の被害を一番考えると下田中学が良いと思う。浸水域や被害想定はあくまでも想定であり、下田中学はその点では最も安全で安心だと考える。
②. 公共交通網の環境
・市の中心街に近く、市道に面しているため、交通の便が良い。統合により、各地区からの通学時間も大差がない。 ・公共施設、こども園が集まった場所で安全な場所だから。交通手段を充実できそうな期待が持てるから。
③. 周辺環境（施設・駐車場・道路等）
・下田中学校は土地の全てが市保有だし、面積が広い。校舎も一番新しく広い。敷根公園が隣接していて、プール、テニスコート、サンワーク体育館、グラウンドも容易に利用できる。 ・スポーツ教育を充実させることができる。周囲の道路が広く、行事の時や緊急時に安心して車で行くことができる。多くの子どもにとって、こども園で通い慣れた親しみのある地域である。
④. 通学条件（距離・時間・費用等）
・在生徒数や廃校となる下田東中生徒の通学方法や距離、稲梓からは遠くなるが稲生沢中の立地周辺の道路状況からも下田中学校の方が望ましい。 ・稲生沢中は学校に接する道路が狭く、歩道がない為、子供にとっては下田中の方が通学面では安全だと思う。

⑤. 学校施設状況
<ul style="list-style-type: none"> ・全て市有地であり、現在使用している校舎を増築の必要があっても使用できるかもしれないということで金銭面でも少し軽減されるのではないかと思う。 ・現校舎、グラウンドなど、そのまま利用できそうなものが多い。駐車スペースがある(行事の時、帰りの車で渋滞しそうだが)。
⑥. 学校生活(学習・部活・友人関係等)
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教育を充実させることができる。周囲の道路が広く、行事の時や緊急時に安心して車で行くことができる。多くの子どもにとって、こども園で通い慣れた親しみのある地域である。 ・多くの生徒が下田高校に進学することを考えると通学の負担の面、気持ちの面でも6年間同じ地区より変化がある方が望ましいと考える。 ・敷根グラウンドやプールの利用、こども園との交流など教育機会の幅が広がる。災害時に防災機能が集中する場所、高台で安心。
⑦. その他
<ul style="list-style-type: none"> ・どちらも望ましい地区にある学校ではないが、どちらかに選ぶほかにないなら下田中しかないと考える、仕方ない。 ・理由はたくさんあるが(学校の場所高台等)、そのひとつに下田南高校がなくなり下田市街地の活気がなくなった。

【その他】



区 分	保護者数
①. どちらでも良い	4
②. 判断できない	23
③. どちらも望ましくない	6
④. その他(未記入等)	17

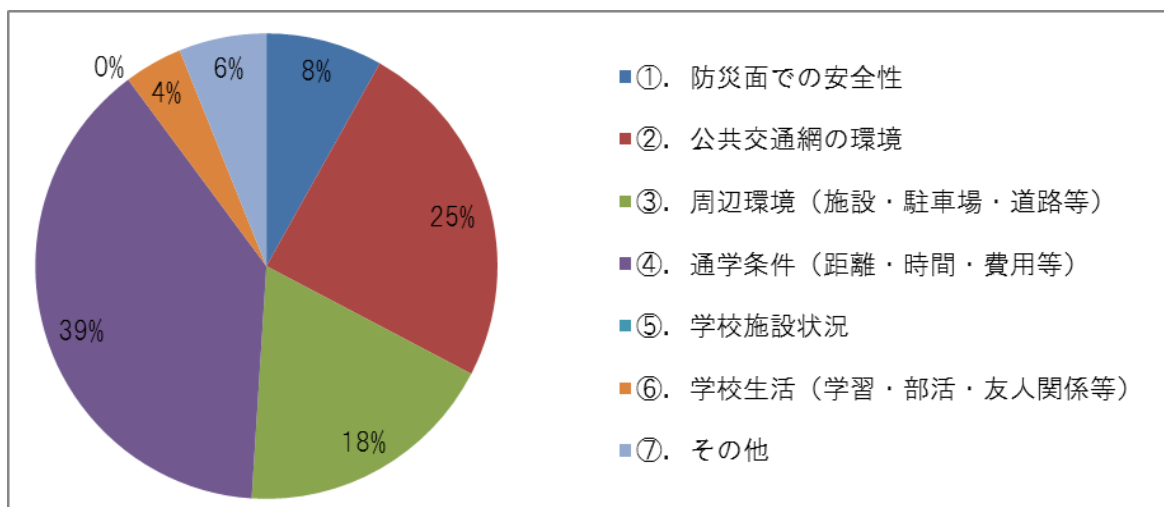
※【n=50】

【主な意見】

①. どちらでも良い
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の建物やグラウンドで授業や部活動を行えるなら、どちらでも良いと思う。既存のものを活かして使ってもらいたい。
②. 判断できない
<ul style="list-style-type: none"> ・両方で2校に分散した方が望ましい。下田中は近隣に公園、サンワークなど駐車場も多く、地震、津波に強いと思う。一方、稲生沢中は下田高校も近くに進学に際し、学生が通い慣れるのに適していると思う。 ・どちらも良い点がある。下田中は坂道が大変ですが、津波などには安心。稲生沢中は電車なども使えて便利。 ・どちらとも言えない。自宅からは稲生沢の方が近いが、小学校、高校、保育園が近く、道が狭いので車の量が増えると心配である。
③. どちらも望ましくない
<ul style="list-style-type: none"> ・2校にすれば良いと思う。下田中学校もしくは稲生沢中一本化すると通学が大変。1クラスの人数も多くなるし、反対。 ・反対なのでどちらも望ましいと思わない。 ・どちらとも言えない。稲生沢地区なので、できれば近い稲生沢が良いが地震対策に不安がある。
④. その他(未記入等)
<ul style="list-style-type: none"> ・自宅に近いし、下田中学校は災害時に孤立しそうだから。

【理由欄（教職員全体）】

【稲生沢中学校】



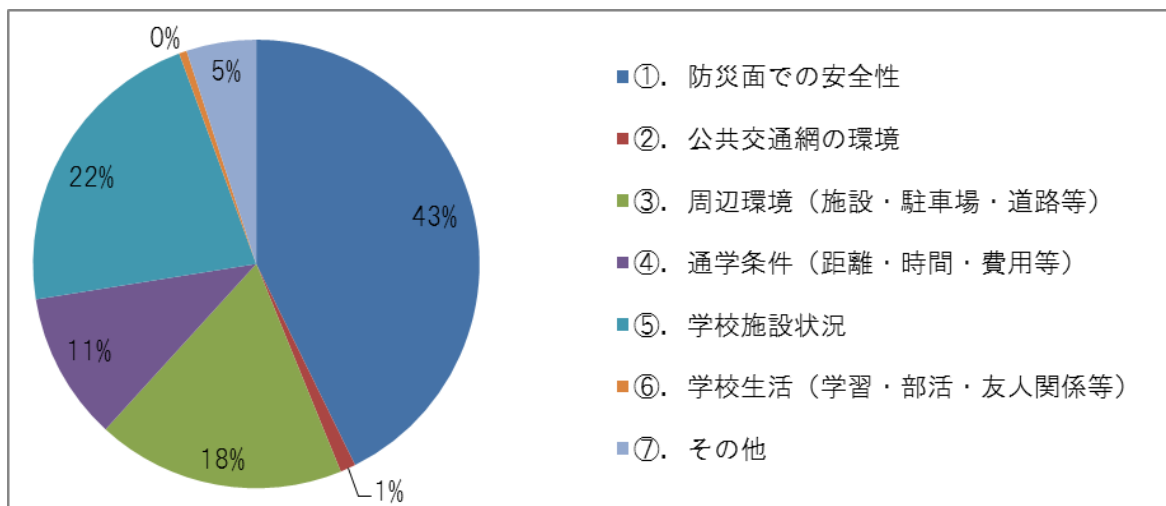
区 分	教職員数
①. 防災面での安全性	4
②. 公共交通網の環境	12
③. 周辺環境（施設・駐車場・道路等）	9
④. 通学条件（距離・時間・費用等）	19
⑤. 学校施設状況	0
⑥. 学校生活（学習・部活・友人関係等）	2
⑦. その他	3

※複数選択あり【n=49】

【主な意見】

①. 防災面での安全性
・災害がおきた時、その後の対応がスムーズに行えそうと思える（海から遠い、平地）。
②. 公共交通網の環境
・通学バス路線を考えると高台に上る下田中より、交通の便で便利であるような気がする。
・電車通学という交通手段が増えるから。敷根に施設が集中しすぎる。
③. 周辺環境（施設・駐車場・道路等）
・下田高校にも近いので、連携が取れること。地域性を活かせること。蓮台寺駅にも近く、交通の便も良い。
・認定こども園が各地区から集まっていたり、夏の観光客などの車の混み具合を見ていると敷根は望ましくないと思うので。
④. 通学条件（距離・時間・費用等）
・通学距離を考えるとほぼ真ん中に位置し、全ての地区からほぼ10 km以内で通える。下田中学校では、加増野、須原、横川の生徒が10 km以上になり負担が大きい。
⑤. 学校施設状況
・なし
⑥. 学校生活（学習・部活・友人関係等）
・稲生沢学区には小学校・高等学校があり、小・中・高の連携がもちやすい。
・下田高校にも近いので、連携が取れること。地域性を活かせること。
⑦. その他
・極力、稲梓地区の子どもたちへの負担が減ればと思う。

【下田中学校】



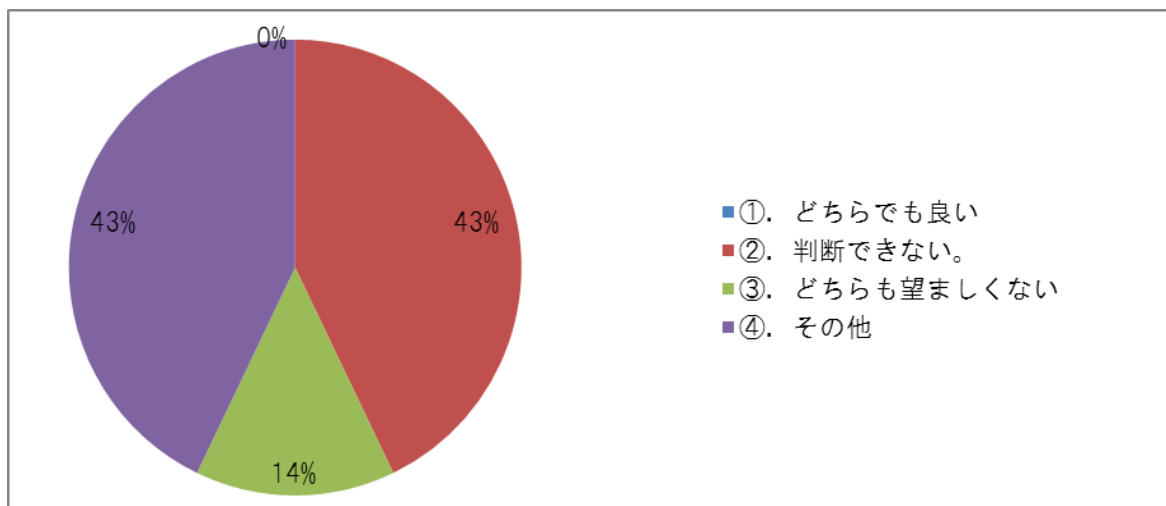
区 分	教職員数
①. 防災面での安全性	76
②. 公共交通網の環境	2
③. 周辺環境（施設・駐車場・道路等）	32
④. 通学条件（距離・時間・費用等）	19
⑤. 学校施設状況	39
⑥. 学校生活（学習・部活・友人関係等）	1
⑦. その他	9

※複数選択あり【n=178】

【主な意見】

<p>①. 防災面での安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田中学の方が高台で安全ではないかと思う。稲生沢中は稲生沢川を津波が登ってくるのではないかと思う。何が起こるか分からない世の中、より安全の方が良いのでは。 ・稲生沢中だと、近くに下田高校もあり、災害時に父兄の迎えなどで混乱しそうなので。
<p>②. 公共交通網の環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が良いから。
<p>③. 周辺環境（施設・駐車場・道路等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積・防災拠点・交通環境・立地環境（民家が少ない）等を考えると、下田中学校が望ましい。 ・高台で災害時安心。敷地が広い。部活動等で隣接の敷根公園、プールが利用しやすい。参観日等の駐車場確保がしやすい。 ・稲生沢中はグラウンドが狭いことと校門前の道路が交通量や通勤通学で使う生徒が多い割に極めて狭く、安全面でも不安があること。
<p>④. 通学条件（距離・時間・費用等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらにしても市全域が学区となるので、通学距離・時間で負担増となる地区は出てくるが、防災面・交通量の面から下田中が良いか考えた。 ・立地条件により、各地区より通学しやすい。
<p>⑤. 学校施設状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動場、体育館、教室、職員室など人数と学校の広さが丁度よいと思う。稲生沢は周辺の道が狭く、下田高校の通学を考えると交通面で危ない。参観日等の駐車場確保がしやすい。
<p>⑥. 学校生活（学習・部活・友人関係等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波の心配がない。認定こども園に近く、職業体験交流などできる。
<p>⑦. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺に住む児童生徒が多く、避難地区にもなっている敷根地区の方が、財政面においても安心な気がする。

【その他】



区 分	教職員数
①. どちらでも良い	0
②. 判断できない	6
③. どちらも望ましくない	2
④. その他（未記入等）	6

※【n=14】

【主な意見】

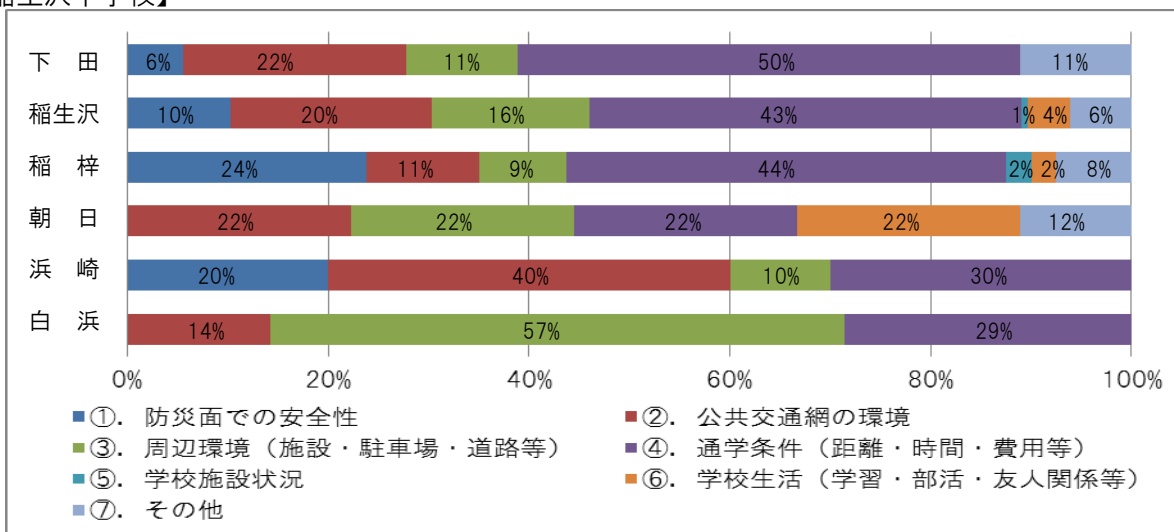
①. どちらでも良い
・なし
②. 判断できない
・設備面では下田中だが、地理的に通学距離を考えると最も遠い地区でも 10 km 程度、時間も 30 分程度になる。稲生沢中が良いと思う（稲梓地区はバス停までも遠く、30 分程度が限度だと思われる）。
・どちらの学校にしても、建築の際に生徒はどうするのか。説明がなければ選べない。
・敷根になると交通渋滞と駐車場が心配だが、幼小中の交流等はやりやすいと思う。
③. どちらも望ましくない
・2校にすることはできないのか。下中は現在、入口でこども園と下田中への送迎で車が混雑することがあり、稲生沢中も道が狭いので、通学時間もかかりすぎになるのではないか。
・すぐさま1校にせず、2校での運営は不可能なのか、子どもが少ないと言えど、下田も広範囲なので通学がかわいそう。
④. その他（未記入等）
・通学の便を考えると稲生沢中学校。安全性を考えるとどちらが良いのか。

保護者の方の「稲生沢中学校」を選んだ理由としては、「通学条件」「公共交通網の環境」「周辺環境」、「下田中学校」を選んだ理由としては、「防災面での安全性」「通学条件」「周辺環境」の順に多い結果でした。「その他」では、「判断できない」と回答された割合が最も多い結果となりました。

また、教職員の方の「稲生沢中学校」を選んだ理由としては、「通学条件」「公共交通網の環境」「周辺環境」で保護者の方の理由と全く同じ順でした。一方、「下田中学校」を選んだ理由としては、「防災面での安全性」「学校施設状況」「周辺環境」の順に多い結果でした。なお、「その他」では、やはり「判断できない」と回答された方が最も多い結果となりました。

【理由欄（保護者居住地別）】

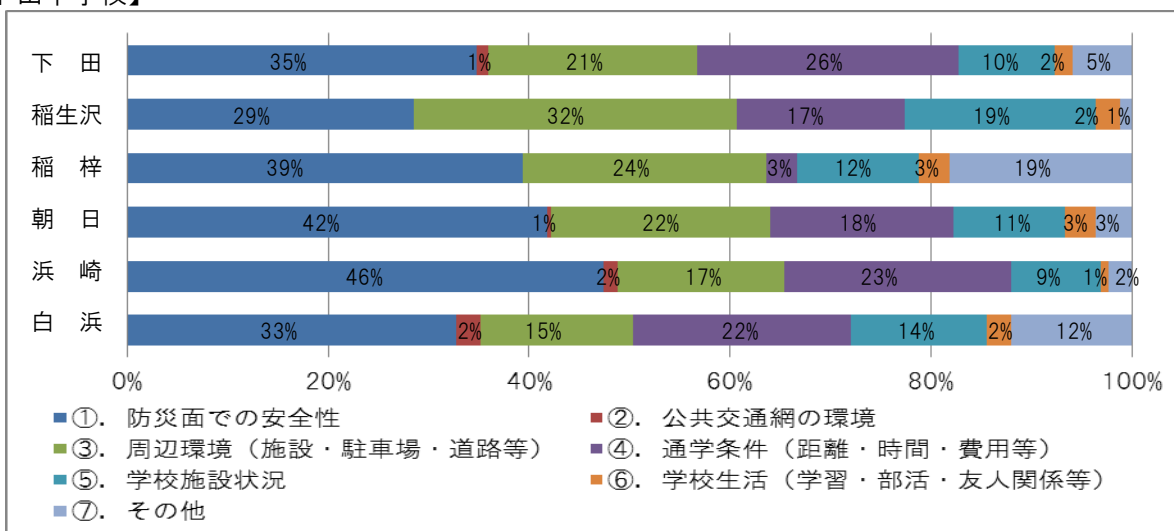
【稲生沢中学校】



区分	下田	稲生沢	稲梓	朝日	浜崎	白浜
①. 防災面での安全性	1	17	19	0	2	0
②. 公共交通網の環境	4	33	9	2	4	1
③. 周辺環境（施設・駐車場・道路等）	2	26	7	2	1	4
④. 通学条件（距離・時間・費用等）	9	71	35	2	3	2
⑤. 学校施設状況	0	1	2	0	0	0
⑥. 学校生活（学習・部活・友人関係等）	0	7	2	2	0	0
⑦. その他	2	10	6	1	0	0

※複数選択あり【n=289】

【下田中学校】

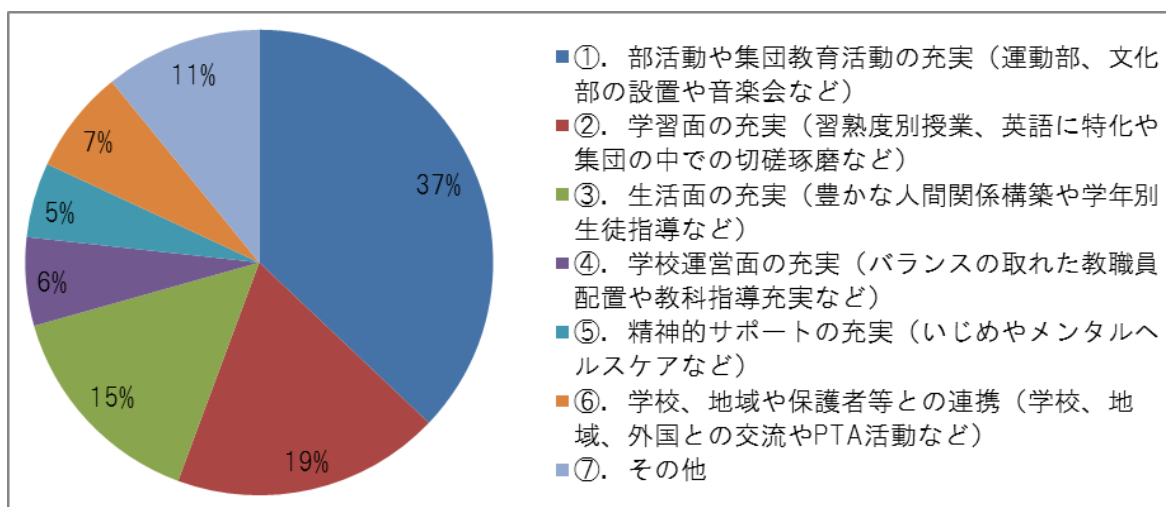


区分	下田	稲生沢	稲梓	朝日	浜崎	白浜
①. 防災面での安全性	95	24	13	94	63	41
②. 公共交通網の環境	3	0	0	1	2	3
③. 周辺環境（施設・駐車場・道路等）	57	27	8	49	22	19
④. 通学条件（距離・時間・費用等）	71	14	1	41	30	27
⑤. 学校施設状況	26	16	4	25	12	17
⑥. 学校生活（学習・部活・友人関係等）	5	2	1	7	1	3
⑦. その他	16	1	6	8	3	15

※複数選択あり【n=873】

質問4 新中学校ではどのようなことができる、または、どのようなことをさせてもらえる中学校であって欲しいですか（学習面（授業や部活等）、生活面（交流や指導等）、学校運営面など）。

【保護者全体】



区分	保護者数
①. 部活動や集団教育活動の充実（運動部、文化部の設置や音楽会など）	520
②. 学習面の充実（習熟度別授業、英語に特化や集団の中での切磋琢磨など）	260
③. 生活面の充実（豊かな人間関係構築や学年別生徒指導など）	210
④. 学校運営面の充実（バランスの取れた教職員配置や教科指導充実など）	86
⑤. 精神的サポートの充実（いじめやメンタルヘルスケアなど）	73
⑥. 学校、地域や保護者等との連携（学校、地域、外国との交流やPTA活動など）	101
⑦. その他	152

※複数選択あり【n=1,402】

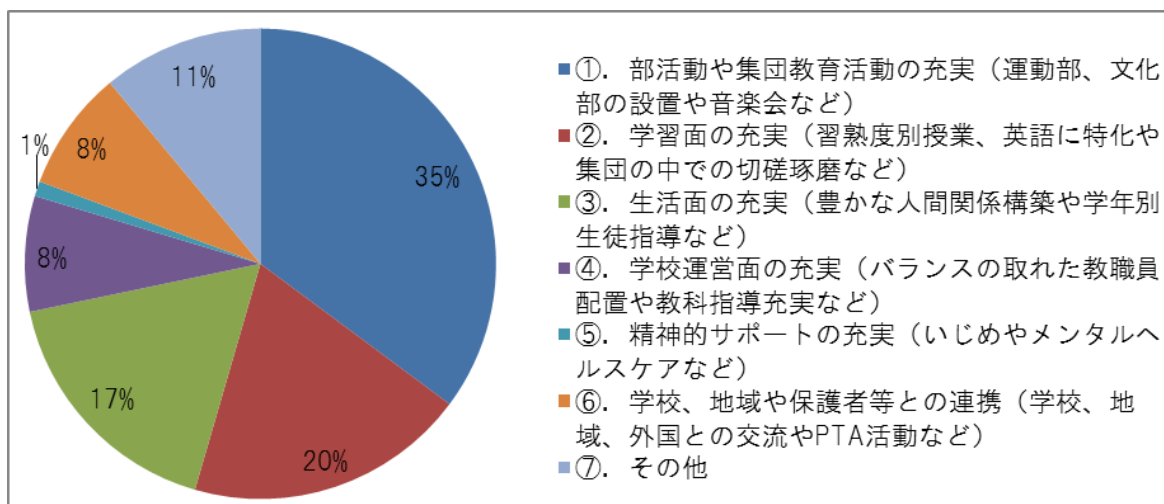
【主な意見】

<p>①. 部活動や集団教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の選択肢が増え、各々の希望に近い活動を行えること。各地域から集まってくるので、地域との交流もありながら、社会性のある活動につながっていくと良いと思う。 ・部活動の種類が多くなると良いと思う。文化部も増えれば音楽や美術などが得意な子ども才能を発揮しやすくなると思うし、運動部も色々なスポーツが選べる方が良いので。 ・伊豆下田分校との交流、特別支援学級の充実、部活動を縮小し、総合地域型スポーツクラブへの移行、全国にさががけた新しい下田モデルの学校運営の模索、施設設備の充実。 ・外部コーチなどを入れ、部活動に活気を。地域、中、小、幼、保との関わりを強く。 ・各中学校、1学年1クラスが多いため、部活においては、やはり団体（バレー、バスケ、野球等）も選択できるようにしてほしい。クラス替えや様々な人との関わりも大切だと思う。
<p>②. 学習面の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40人学級にとらわれず、少人数できめ細かい教育を行ってほしい。各地域との結びつきが切れてしまわないよう、地域での活動を取り入れてほしい。 ・学力の保障をお願いしたい。そのためにも免許外指導の教科は技能教科を含め、なくしてもらいたい。また、少人数指導等さまざまな学習形態に対応できるように、教員の加配ができる限り多いとありがたいと思う。中学という多感な時期の子どもたちを4校から1校にまとめるというのはとても難しいことだと思う。生徒指導上の問題に振り回され、授業が成り立たないという事態だけは避けてもらいたい。支援員など、教職員をできるだけ増強して対応してほしい。安心して学習に望める学校となるよう、生徒指導や問題行動への対応を手厚くして頂きたい。 ・教育面において、世界4ヶ国語位会話できるような授業を取り入れ、パソコンも授業で必要項目に入れる。部活もレパートリーを増やしてマルチな人間になれるよう取り入れる。いろいろな分野の方々と交流を進めれば良いと思う。 ・習熟度別（学力別）にクラス分けする等検討していただきたい。そのクラスにあった授業のスピードで進めていかないと子どもたちの生活面にも支障が出てくるように思うため（遅れた分は補講を行う等）。
<p>③. 生活面の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、切磋琢磨できる学校であってほしい。1人ひとりの資質、能力を伸ばせるようにしてほしい。 ・集団生活で学べるコミュニケーション能力は必要。クラス替えのできる学校規模であってほしい。学習面では学年

<p>ごと課題に取り組めるよう指導員を置いてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の人数が多くなるので、毎年クラス替えができ、人間関係や相互の評価などが固定化されない環境であってほしい。 ・下田市の中学校が様々な面でレベルが上がったと言われるような学校になってもらいたい。 ・私自身が中学校に通学していたのは20数年前だが（同級生は150名程）何の不満もなく、学習、部活、生活面（友達や先輩、先生方との交流）があり、充実した日々を送っていた。自分の子どもたちにも同じような環境（それ以上）設備の中で中学校生活を送ってほしい。
<p>④. 学校運営面の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な地域が集まることで問題が生じると思う。全てうまくいくわけではないが、いじめのない学校づくり。先生方大変だと思うが、指導徹底していただきたい。 ・1クラス40人だと先生が1人ひとりをきちんと見ることが難しいと思う。20~30人クラスで全体が見えるような生活を送れるようにお願いしたい。 ・人数が増える事により一人ひとりに対する先生との時間は減ってしまうのではないかと。年頃の子供達にとっては重要視する必要があると思う。なぜならイジメは目の届かない所で起こりやすいから。都会の学校でよく起こっている理由の一つとして挙げられると思う。 ・授業を非常勤や免許外の教員が対応する必要がなくなる。現在、生徒数が少ない状態でも、いじめ、孤立があるので、人数が増えても一人ひとりに目を配ることができることを望みたい。 ・先生の人数の充実。子どもたち全員に目が届く指導をお願いしたい。部活動も色々な数が増えて試合にも参加できるようになると良い。
<p>⑤. 精神的サポートの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきなり大人数になるので、個が潰れないようケアがあってほしい。 ・生徒の人数が増える分、先生が目や隅々まで届かない事が心配です。隠れていじめとか起こるかもしれないので、いじめ防止に力を入れてほしい。 ・カウンセラーの先生がいる。活気があり、楽しく過ごせる。支援員のサポート。 ・全く違う地域、性質の人々が集まらなくてはならないので、いじめや派閥等に気をつけていただきたい。今までのように、上級生から下級生まで、仲良しな感じを維持できるように。 ・いじめのない学校。不登校の子どもを全力で笑顔で学校に戻す力のある学校。不登校の子がいる学校は、学力面でも生活面でもレベルが低いと思う。
<p>⑥. 学校、地域や保護者等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課外での活動をたくさんしてほしい。家庭では体験できないこと、海が（山も）近くにあるので、たくさん自然と触れ合うことを増やしてほしい。外国の友達との交流などもできると良い。 ・各方面から集まってくるので、今まで行っていた各学校の独自の地域に密着した行事などを継続するのは難しいかもしれませんが、少しでも続けてもらいたいと思う。子どもたちが小学校の学区でまともな交流できる工夫もお願いしたい。 ・各地区の行事に積極的に参加させてほしい。多くの生徒が集まるため、様々な考え方をを持った子ども同士の争い事が起こった際に迅速に対応してほしい。 ・中学生時代でなければ味わえない体験や経験を大切にしたい教育活動。またしっかりとした人として必要な知識や心の教育を目指した学校。部活動も他地区（賀茂区域外）のように幅広いジャンルがあると良い。 ・現在、地域に小中学校があり、交流が盛んなことで、お互い良い刺激になっている。何らかの形で小中学校の交流、連携を持ってほしい。また、下田の海や山の良さを体験できる活動をぜひ、取り入れていただきたい。 ・姉妹都市のニューポートとの交流を多くしてほしい。英語（特に会話）力をもう少し授業などでやってほしい。
<p>⑦. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田市の中学が1つになるのはさみしい。中学に通っている子どもがいるが、部活などを通じ、他の中学の子どもたちを友達の輪が広がった。互いに競い合っても会えば友達ということが、中学が1つになるとそのようなこともなくなるのですね。 ・下田に稲梓、下田東、下田中と3校は残し、合同で運動会、部活の交流戦などを行い、少人数ではできないとされる行事を活性化させる。 ・稲梓地区からも下田中学校へ通学するとなると、子ども、親ともに負担が大きい。通学距離が長い負担は当事者でないとわかりません。もし、下田中学の通学者が稲梓中学へ通学となる（単に仮定するのみ）となれば、保護者の方は多分負担や不安が多く出ると思う。通えますか？通いたいですか？学習、生活、学校運営面以前に通学手段、方法が確立していなければ考えられません。

保護者の方の新中学校に対し、望むものとしては、「部活動や集団教育活動の充実」が37%で一番多く、「学習面の充実」「生活面の充実」の順に多い結果でした。

【教職員全体】



区 分	教職員数
①. 部活動や集団教育活動の充実（運動部、文化部の設置や音楽会など）	102
②. 学習面の充実（習熟度別授業、英語に特化や集団の中での切磋琢磨など）	56
③. 生活面の充実（豊かな人間関係構築や学年別生徒指導など）	50
④. 学校運営面の充実（バランスの取れた教職員配置や教科指導充実など）	23
⑤. 精神的サポートの充実（いじめやメンタルヘルスケアなど）	3
⑥. 学校、地域や保護者等との連携（学校、地域、外国との交流やPTA活動など）	24
⑦. その他	32

※複数選択あり【n=290】

【主な意見】

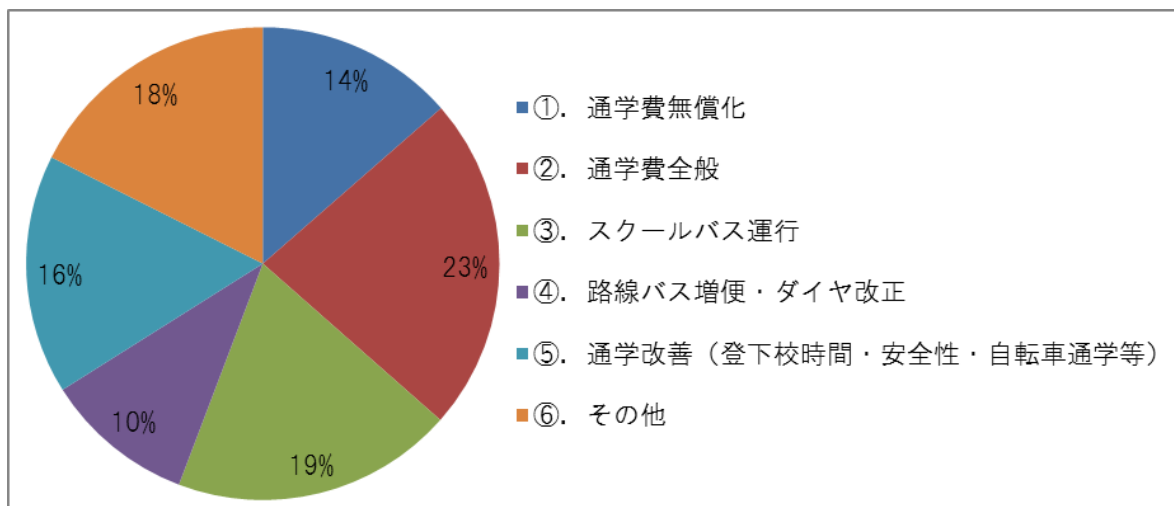
<p>①. 部活動や集団教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動は積極的に子どもたちが取り組めるように色々な活動を取り入れてほしい。 ・部活は運動部ばかりでなく、学習面も生かせる部活も多めに設けてほしい。 ・部活動の選択肢が豊富な学校であってほしいと思う。現在の下田の中学校では、数少ない部から自分の入る部を選ばなくてはならず、また、生徒数の減少により、廃部になる部も出てきている。子どもたちの希望、可能性を活かせるようであってほしい。
<p>②. 学習面の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な教員がいて、学力や技能で向上できる多様な人との交流ができ、人との関わり方を学べる。 ・学習面、習熟度別の授業を増やしてほしい。授業を真面目にしっかり取り組める生徒が安心して学べる場所にしたい。 ・学習面では国際的な外国人の英語の先生を多く採用。また、部活の種類を多くしてもらいたい。
<p>③. 生活面の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内全域からとなると人間関係等で今まで以上に支援が必要になる生徒も出てくると思うので、加配をつけるなどして、きめ細やかな対応ができる学校であって欲しい。 ・将来、下田市を支える人材育成の基礎を市内全ての中学生に同じ物差で指導できる。また、将来的に考えると、同級生や同窓生のネットワークが強固になるため、社会の組織力も厚くなるのは確かである。 ・生徒が大きな集団の中で多様な考え方、意見に出会うことができる、また学び合いを深めることのできる教育環境（学習環境）授業の充実。大勢の仲間（学級、学年、部活動）の中で新たな人間関係を構築することのできる生活。各々の趣味、関心に応じた部活動の充実。学級同士がお互いに高め合い、切磋琢磨できる集団づくり。
<p>④. 学校運営面の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の立場から、40人学級ではなく、少人数学級により、学習面、生活面において、細やかな支援ができる学校であってほしい。また、教職員1人あたりの公務負担を減らすため、教職員の数を増やしてほしい。 ・免外担当なく、生徒の教育に手厚く臨める体制を作る。そのうえで、特活、部活等に意欲をもって取り組める学校となれば良い。 ・授業は専科の教員に授業を担当してもらいたい。部活動は運動部のみならず文化部でも選択の幅が持てると良い。 ・複数学級になると学習形態等に制限が出て、どうしても柔軟な発想で授業を組みたいので教室や教員の数にゆとりをもたせたい。 ・人数が多くなることで、学習の指導が行き届かないことがないようにしてほしい。他中学との交流がなくなるので、その分、学校内でのクラスや学年交流が増えると良い。

⑤. 精神的サポートの充実
・津波等の被害で転校した児童がいじめにあったというニュースが大きな話題を呼んでいる。心身豊かに育つ教育をしてほしい。教職員の資質面も育ててほしい。
⑥. 学校、地域や保護者等との連携
・4 中学を統合してつくる学校であるので、新校舎でスタートできるように希望を持たせられるようにしてほしい。下田市で1 校の学校であるのでP T Aの協力のもと、学校と地域がうまく連携をとって、地域コミュニティが機能する学校であってほしい。保護者が学校教育に協力的である理解があるかどうかで学校運営が大きく変わるように思う。
・下田市内に1 校の中学校となるので、地域のコミュニティの中心になってほしい。居住地から離れた学校となると地域との交流がなくなってしまうので。地域とのこれまでの関わり、活動が途絶えることがないようにしてほしい。高齢化社会の中で中高生の存在はとても大きなものだと思うので。
⑦. その他
・下田中に吸収合併していくのではなく、新しい学校を作るともりで決めていける学校であってほしい。
・知、徳、体のバランスのとれた教育を推進しながら、一人ひとりの生徒を大事にした人権教育を柱にした学校であってほしい。
・部活を全員加入でなく希望加入。遠い人がいるから全員加入すると制限が多くなって部活指導ができなくなる。
・市内で1 校になるならば、施設や教具等で充実したものにして頂き、将来を見通したものになると良い。
・互いの良さを伸ばしあえる学校、大人になったら、わが町ふるさとと思える気持ちを育てて。

教職員の方の新中学校に対し、望むものとしては、「部活動や集団教育活動の充実」が 35%で一番多く、「学習面の充実」「生活面の充実」の順に多い結果でした。なお、この順は保護者の方と全く同じ結果となりました。

質問5 下田市教育委員会では、報告書及び説明会資料記載のとおり、中学校の学校再編にあたっては、通学バス等の補助など、生徒や保護者に過度の負担がかからないように検討を進めてまいります。どのような配慮を要望しますか。

【保護者全体】



区分	保護者数
①. 通学費無償化	160
②. 通学費全般	270
③. スクールバス運行	227
④. 路線バス増便・ダイヤ改正	121
⑤. 通学改善 (登下校時間・安全性・自転車通学等)	193
⑥. その他	207

※複数選択あり【n=1,178】

【主な意見】

①. 通学費無償化
<ul style="list-style-type: none">・通学バス代は全額補助をしてほしい。義務教育で通学の費用に差が出るのは不公平である。また、バス本数の増加、各地区からの直行バスを出してほしい。・現在、徒歩通学により通学費はかかりません。4校一校化するとバス代等が増え、2人3人通わせるには、通学費が大きな負担になる。スクールバスや交通費全額補助など考えていただきたい。・過度の負担がかからないようにではなく、全く負担のないようにお願いしたい。・子どもが中学生にもなれば、親もフルタイムで共働きする家庭がほとんどだと思う。仕事と子どもの送り迎えというような負担を増やさないう、通学バスの充実、費用も市が負担するようにしてほしい。・通学バスについては、ぜひ実施していただきたい。私の周りの中学生を持つ保護者の方々は、ほぼ車で送迎をしている。朝7時には部活のため、学校へ、帰日も遅いためバスがない。バスについては今すぐにでも必要だと思う。・下田市の役人の人が勝手に決めたことで市民に負担をかけないでほしい。ただでさえ子どもたちの心の負担が大きすぎるのに。通学バスを無料にするのは当たり前。・全額負担していただきたいことが1番だが、仮に保護者負担が出る場合は距離に関係なく公平に一律料金にしてほしい。・現状であれば徒歩で通学が可能となるのに、合併することで交通費がかかるようになるのは、大きな負担となる。全額補助が望ましい。休日も部活があるのであれば、平日同様にバス運行しないと誰かが送迎しないといけないのは困る。・通学バスは、できれば無料がありがたい。新たにバスを出すのではなく、東海バスを使えるようにしていただければ、良いと思う。制服の子は無料、学生証提示で乗れるなど。本数が少ない路線は無理もあるかと思うが…。・全地域、全生徒、平等に通学負担はゼロをお願いしたい。また家庭の判断で自転車の通学も選べるよう希望する。そのための道路の整備もお願いしたい。これは市民生活、観光のためにも欠かせないと思う。・通学バス等の補助は、全額市が負担すべきである。遠方から通学する保護者には、それ以外にも多くの負担があり、その面も配慮してほしい（まずは全額負担）。
②. 通学費全般
<ul style="list-style-type: none">・通学に関して、遠方の地区などの補助の他、通学路が変わることで交通の配慮をして欲しい。（近くでもバス利用したい生徒は補助禁止としないことや自転車通学の場合は、ルール・マナーを中1または年度始まりには徹底して本人の意識を高めるために講習会を開催して欲しい）暗い時期は集団下校など。・路線バスにしても、スクールバスにしても、お金はかかってくるので、義務教育上、できる限りの補助があればと思う。・通学補助は現在 1/2 補助と決められているが、それだと統合により、遠方からバスで通学する生徒の家庭の負担が大きくなる。どのバス停から通学しても、家庭の負担額を一律にした方が良い。・自分たちの子どもがより良い環境で学ぶために遠くまで、通学しなくてはいけないのであれば、それは親としてお金がかかってもやってやらねばと思う。しかしながら、これまでのように 1/2 でも補助していただけるとありがたい(バス利用者は全員)。・体力づくり、友達とも交流のため遠くでも自力で通わせたいと思っはいる。親の送迎も仕方ないと思う。もちろん通学バスがあるなら賛成。・中学校再編に当たって各地区の保護者の方々が譲歩しているので、そこを考慮していただき、負担等の上限を設定していただきたい。説明会では仮で4万円とのことだったが、高いと感じたため、3万円/年の設定とするような対応を求める。・交通手段に関しては上下に兄弟はいると送迎に負担を強いられるのは大変。できる限り、市の方でやっていただきたい。子どもの安全面とこの地区の子も公平に部活、学習に十分活動できるように時間の確保をしてもらいたい。・再編にあたり、必ず地域の差が生じるが、全てを平等にするのは難しいと思う。だができる限りの対策をし、通学等の負担を軽減してあげてほしい。また部活によっては生活時間の差もかなり生じることも考慮する必要がある。・バスで駅まで通学し、電車またはバスで蓮台寺まで行くことになるので、バスの本数を増やしてほしい。今のうちに1時間に1～2本では待ち時間が増え、その分コンビニに寄ってしまうなど、寄り道することが多くなると思う。もちろん経済面での援助は必要。
③. スクールバス運行
<ul style="list-style-type: none">・仮に稲生沢中になったらバスまたは電車で通学することになるので、学校の始まる時間によってはバスや電車がいないからスクールバスを出してもらいたい。それが無理なら家庭で送る許可を出してもらいたい。・我が家は下田市内在なので下田中であれば徒歩なので心配がないが、稲生沢になった場合や、他の地区から通学する生徒については市の運営の通学バスが良いのではないかと。でも本数の事を考えれば、普通のバスで交通費半分以上くらいが望ましいのでは。・義務教育学校への通学の為、地域によって生徒や保護者の負担に大きな差が出ることは不公平に感じる。場合によっては学校近くへと転居することも考えられ、各地域間で人口移動が起こり、廃校となった地域の衰退が懸念される。スクールバスを新設するべき。またスクールバスは小学校とも連携するべきである（学童送迎）。・スクールバス、コミュニティバスを出すこと。スクールバスがあっても本数が最低限では混み合って、中学生特有のトラブルも増えるので本数には多少の余裕が必要。それができないなら再編すべきでない。
④. 路線バス増便・ダイヤ改正
<ul style="list-style-type: none">・通学バスの乗降所や本数、土日も出してくれるのかなど、細部まできっちり決めてほしい。

- ・ダイヤ改正はされると思うが、朝部活や子供達の活動に合った時間帯や本数の確保をしてほしい。
- ・バスであれば登下校時には不便さを感じない様に、時間に幅を作る。増便をする等。乗れない事によって1日に支障が出ないように望む。
- ・朝の登校は時間が揃うが、部活の終了時刻、他の活動が入った場合の不定期な帰宅への対応など、隣の河津町の事例などを参考にしながら、細やかな配慮を望む。
- ・通学バスは、部活の朝練や放課後練習の時間帯は、東海バスの運行を増やしてほしい。その時間帯は利用者が増えるので、乗り切れないことも考えて増やしてほしい。バスの定期は児童の家から最寄りのバス停まで発行してほしい。なぜなら統合候補の中学校以外から通う児童はそこの児童と比べて通学時間が増えるので、少しでも通学時間の不平等さをなくすために、児童の家の最寄りのバス停まで出すべきだと思う。中学校の最寄りのバス停までのだと部活で遅くなったとき、そこから歩いて帰ると心配。
- ・通学バスは当然各地区からになると思うが、これから高齢者の免許自主返納が進むと思うので学生と地域の人達と利用できるよう配慮することにより、子どもたちと大人のコミュニケーションが取れるし、バス代にも運行する回数にも反映できると思う。
- ・各家庭への経済的負担をなくすこと。運行乗継の時間ロスをなくし、帰宅時間などがある程度自由に選択できること。移動中の安全（交通事故だけでなく、自然災害を考慮しなくてはならない）。
- ・朝日地区ですが、バス（東海バス）の時間では、朝部活に間に合わないため、中学まで送迎をしている家庭がほとんどだと思う。毎日のことなので大変。

⑤. 通学改善

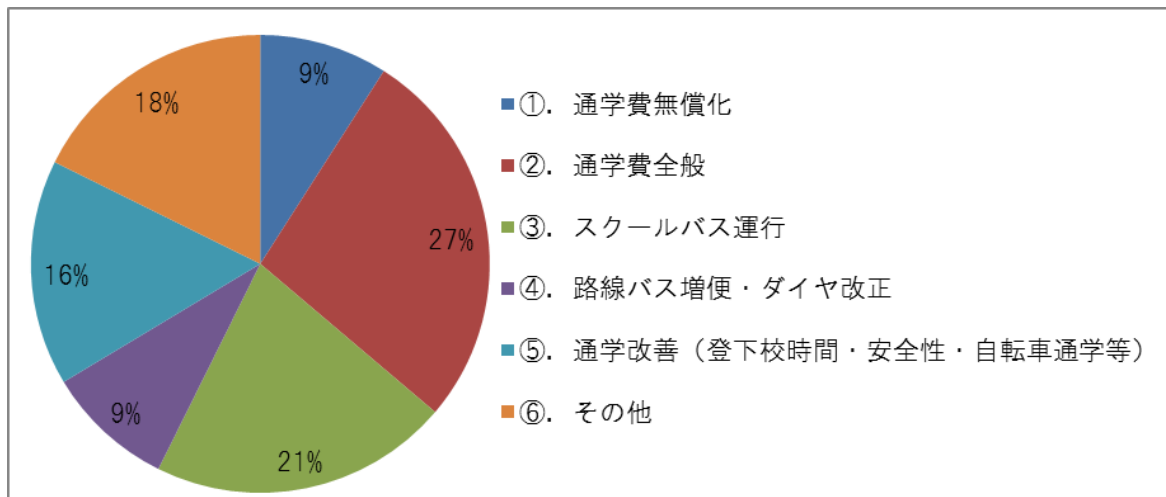
- ・車が必要なこの地域では、徒歩が困難な場所もあるので通学バスは必須だと思う。また、街灯が少なく日が早く落ちる季節は自転車通学も心配されるので、そういうところの配慮もしてほしい。
- ・通学バスを利用するほどの距離ではないが、徒歩通学では厳しい場合、自転車通学をさせたい。現状の道路では危険が多いと思われるので、自転車で安全に通学できるように道を整備してほしい。
- ・大賀茂以外はバスの乗り継ぎをしなければならぬという事になると、結局、保護者が送迎しなくてはならぬという様になるのでは…と思う。下田駅に駐輪場を作る等、通学しやすい方法を検討してもらいたい。
- ・通学バスの補助も良いが、それ以上に道路整備を行い生徒達が各自、自転車で通える様、早急な計画を立てて欲しい。最初からバス補助の一点ばりの計画ではなく、学校再編とともに整備計画を進めて欲しい。そんなのできるわけないと否定から入らず、まず検討して欲しい。
- ・高校生でも自家用車で送迎する親が多いので、自分で自転車やバスで通学する子には補助が必要だが、距離などで決めるのはよくない。1ヵ月ごと必要な場合のみ申請すれば良い。
- ・やはり毎日の通学を考えると、親の送迎ではなく、バスなどで行ける選択は、お金がかかる様では選択とは言えないので、公共機関でも親の送迎でも同じ条件になるくらいの選択条件を均一にして、どちらでも不公平がない様にして欲しい。
- ・自転車通学を許可してもらいたい。全額補助が永続的にできるわけがないので、継続可能な補助にしてもらいたい。そういう面も長いスパンで考えてもらいたい。
- ・交通状況の対策。特に敷根交差点の交通への配慮。下田中及び敷根公園を学校の敷地として共有して、多人数及び学校行事等への対応が必要。遠方地よりの通学時間の長時間を考慮して部活動等のカリキュラムを考える。
- ・通学に際し、経済的負担が無いようにしてもらいたい。歩道の整備と交差点への交通安全指導員の配置等、ボランティアの活用もお願いしたい。
- ・自力通学（バス、自転車を使っても）確実に行う。親に甘えすぎで、無駄に体がでかい私たちの世代では学校の敷地に車を止め、子どもを待っているとありえない。バスが必要な地域には、定期を買える補助券などを作るなど、現金で負担してしまうと現金はそのまま受け取り、車で送り迎えをしてしまう家がほとんどだから。

⑥. その他

- ・個々の家の財政事情があると思うが、不便な地域や公人的な負担減少にまで耳を傾けていたら、話がまとまらないと思う。それを市の負担として考えて公費の導入をするのは反対。各自、自家用車で途中まで送ることや公共のバスを利用し、地元企業に利益をもたらすことも視野に入れないと下田市が破たんするのも考えられるのが現状だと個人的に考えるので、アピール方法を変えたらいかかと思う。
- ・通学費にそんなに金を使うなら、教育そのものに使ってほしい。教職員や教材や設備等。皆さんが思っている以上に下田へ移住したい若い方は多いですよ。子育て環境が整っていれば！ですが…。
- ・通学バス代にそんなにお金をかけるのなら、教育そのものに使った方が良い。教師の充実、教材や学校設備に使ってほしい。なぜ下田市は子どもを増やす努力をしないのですか。移住したい都会の方は多いですよ。海と山の自然があつてすばらしいまちですよ。

保護者の方の通学に関して望むものとしては、「通学費（無償化・全般）」に関するご意見が37%で一番多く、「スクールバス運行」「通学改善」の順に多い結果でした。

【教職員全体】



区 分	教職員数
①. 通学費無償化	21
②. 通学費全般	63
③. スクールバス運行	49
④. 路線バス増便・ダイヤ改正	21
⑤. 通学改善 (登下校時間・安全性・自転車通学等)	37
⑥. その他	41

※複数選択あり【n=232】

【主な意見】

<p>①. 通学費無償化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学バスの無償化、自転車通学の範囲拡大。 ・通学バスは無料が好ましい。無理なら距離に関係なく、一律の全額負担にしてほしい。部活動の有る無しの場合(学年によっても)等に応じたバス時刻の設定を考えてほしい。 ・地域にある中学校に通うときと同じバス代金は仕方ないが再編によって発生するバス代は全額、市が負担することが望ましい。
<p>②. 通学費全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学バス等の補助金。バス時刻の変更(スムーズな乗り換え、朝の本数を増やすなど)。 ・通学距離は延びる、時間はかかる、通学バス費もかかるのでは、遠距離通学の保護者負担ばかり増大してしまう。通学バスに乗車できる配慮が必要だと思う。 ・通学区域が広範囲にわたるため、子どもが通学に不便さを感じないように手厚い補助や交通網の整備をしていくことが何よりも優先されなければならない。 ・通学バスの補助、部活動のある土曜日も考えてほしい。学習障害、情緒障害であろう生徒の居場所を作ってほしい。自転車通学を許可した場合、道路の整備まで行ってくれるのか。 ・現在の下田中でも車で下田中学校の中までの送迎がみられ、疑問に思っている。通学バスを用意し、過度の負担にならないような集金をしたら良いと思う。
<p>③. スクールバス運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの運行、バス路線利用の補助でなく、専用スクールバスの運行があると良い。 ・どちらにしても、通学バスは必要になるのではないと思う。 ・遠方より通学する生徒が負担にならないような日課や活動のあり方の検討。通学バスについては、公共機関だけでは制約が多すぎるため、市で運営するスクールバスが必要になる。 ・認定のような通学バスを常備し、部活動終了後に回れば良いと思う。部活の遠征などにも使えると思うが、金額の設定や人数調整が難しいのかなとも思う。 ・下田中に統合した場合、今以上に送迎が増えるのではないと思うので、通学バスを増やす等、親の送迎が少なくなるようにしてもらいたい。
<p>④. 路線バス増便・ダイヤ改正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学バスの本数を増やす、バス時間の設定。 ・通学バスなどは運行がないと下校時間の関係等もあるので厳しくなると感じる。
<p>⑤. 通学改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的な面においての通学バスの補助はもちろん、他地域から集まってくるので、災害時の具体的マニュアル等、

親が納得できる対策をお願いしたい。

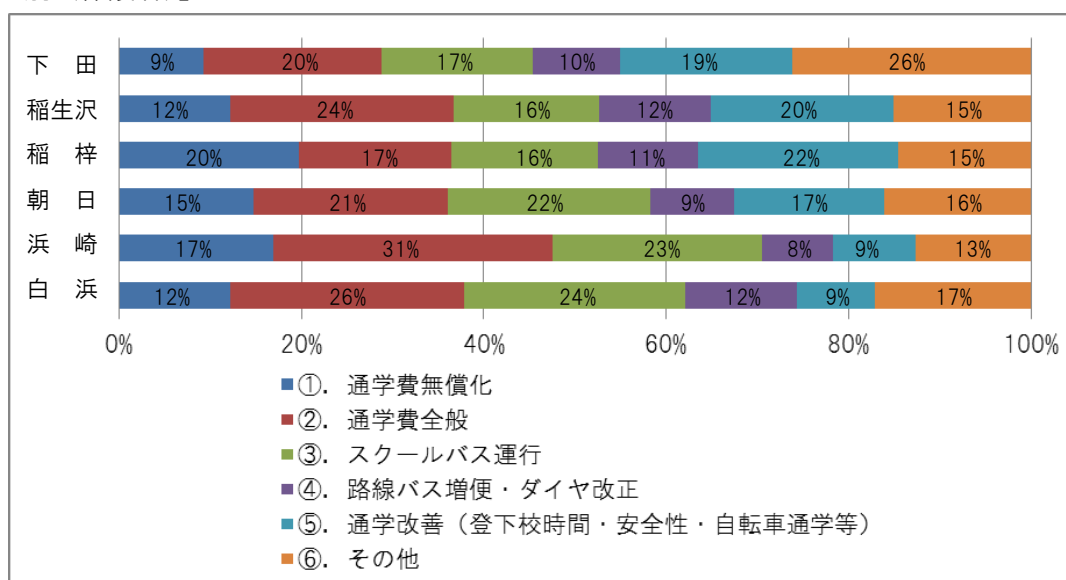
- ・バス時間の柔軟な運行を希望したい。放課後の活動がバス時間によって制限されることが極力ないような配慮が必要だと考える（以前、他地区の中学校でバス時間により部活時間等に大きな影響が出ていたことがあった）。
- ・通学に関しては部活動終了後の安全な帰宅の保障(特に冬場暗くなるのが早いので)が大切ではないか。

⑥. その他

- ・一本化では、施設（設備）と通学についてが大きな課題となる。生徒の教育環境と教育条件が十分対応できる上で統合をお願いしたい。
- ・通学バスを利用する子、利用しない子で学校にかかる費用が違ってしまってもしょうがないと思う。
- ・学校への送迎や学校行事の際、安心して車を駐車できるスペースや場所が確保されると安心なので、柔軟に対応していただきたい。

教職員の方の通学に関して望むものとしては、「通学費（無償化・全般）」に関するご意見が36%で一番多く、「スクールバス運行」「通学改善」の順に多い結果でした。なお、この順は保護者の方と全く同じ結果となりました。

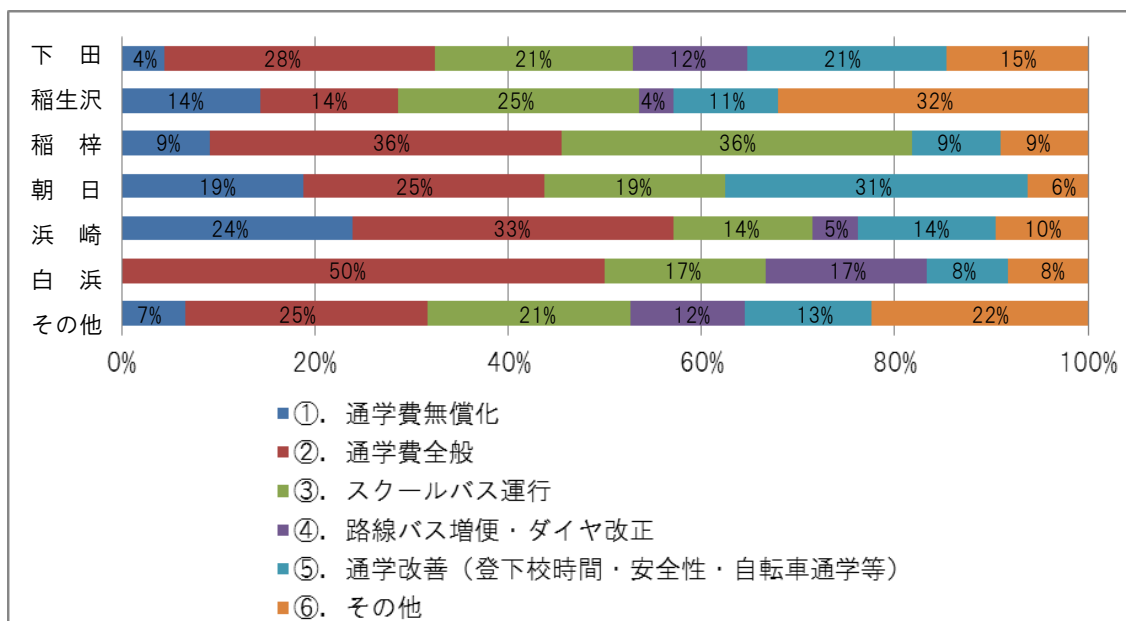
【居住地別（保護者）】



区分	下田	稲生沢	稲梓	朝日	浜崎	白浜
①. 通学費無償化	24	30	27	34	28	17
②. 通学費全般	51	60	23	49	51	36
③. スクールバス運行	43	39	22	51	38	34
④. 路線バス増便・ダイヤ改正	25	30	15	21	13	17
⑤. 通学改善（登下校時間・安全性・自転車通学等）	49	49	30	38	15	12
⑥. その他	68	37	20	37	21	24

※複数選択あり【n=1,178】

【居住地別（教職員）】



区分	下田	稲生沢	稲梓	朝日	浜崎	白浜	その他
①. 通学費無償化	3	4	1	3	5	0	5
②. 通学費全般	19	4	4	4	7	6	19
③. スクールバス運行	14	7	4	3	3	2	16
④. 路線バス増便・ダイヤ改正	8	1	0	0	1	2	9
⑤. 通学改善（登下校時間・安全性・自転車通学等）	14	3	1	5	3	1	10
⑥. その他	10	9	1	1	2	1	17

※複数選択あり【n=232】

質問6 その他、中学校再編に関するご意見があれば、ご記入ください。

【保護者】

- ・とても難しい問題で、全ての人の理解を得るのは無理だと思うし、どんなことに対しても賛成派、反対派の意見があるからこそ良いものが創られていくと思う。これを機に私は合併の方向へと早く進んでくれたらと思う。
- ・通学距離が長くなれば、事故の可能性も高くなり、通学時間も長くなるのに部活動なんてやっていられるのか？部活動で朝が早くなる、帰りが遅くなるのであれば、部活動はやらせたくない。それら生徒たちの負担は考えているのか？
- ・下田市は箱物の建設ラッシュですが、これから下田に住む人たちに負担（市民サービスの低下を含めた）にならないような資金計画をお願いしたい。
- ・やはり金銭面で悩む方も多いと思うので、統合になった時に制服を買い替えなければいけないとなると今まで使用してきた制服も無駄になってしまうので、数年はバラバラの制服でも仕方ないということにした方が良く思う。統合したばかりの中学に通う子どもたちは不安が多いと思う。落ち着くまで数年かかるかもしれませんが、難しい年頃だと思うので、先生方も落ち着かない時期になると思うが、精神安定を図ってほしい。
- ・この先、再編がないように（できれば）子どもの人口を増やすことを考えてほしい。
- ・統合となると生徒指導の問題もたくさん出てくると思う。職員の数を統合から3年くらいは増やしていただきたい。
- ・このアンケートは本当に市政に反映されているのでしょうか？本当は既に色々決まっています、形だけの説明会、アンケートでは困る。第一に子どもたちのことを良く考えて、進めていただきたい。
- ・校舎建て替えとなった時、在校生はどこで授業を行うのか。また増築になった時の騒音で授業が聞こえなくなったり、集中できないと思う。それに対する対策は、建て替えになったらどのくらいの期間を要するのか。制服、かばん、体操服等、変更になった時、市は負担してくれるのか（在校生の合併による二重負担の対策）。
- ・下田市の低予算での統合、まずは子どもたちの安全を第一に考えてほしい。津波に心配のない地区からの統合、子どもの命を第一に考えてほしい。統合する前に他校との交流。思春期の子どもたちに地域の目が届くようにしてほしい。
- ・第一に子ども。第二に保護者。第三に地域に耳を傾ける、配慮をする対象をよく考えてほしい。
- ・現在も敷根入口の信号渋滞がひどく、特に雨の日や行事の日、夏場は時間がかかって仕方がない。学校の駐車スペースはもちろんだが、交通事情も考えてもらいたい。もう少し信号を長くするか、サークルK前を左折可能にするとか、行政との話し合いも進めてもらいたい。

- ・前回アンケートでは、どちらとも言えないに回答した気がしたが、このような資料をみると、早期に1校での再編が望ましいと思うようになった（通学時間や安全面も考慮されているので）。中学生の子どももいますが、学年3クラスくらいあった方が、部活や学校行事もより充実したものになると思う。
- ・再編時、4校それぞれに在学中の子供達の事が心配。単学級から突然4～5クラス、多人数での学校生活はかなりのストレスを感じる子も居ると思う。特に受験を控えた3年生は勉強のことは勿論、部活動等、気になる所は多くあり、事前の配慮を充分に行ってほしい。
- ・子供達は大人が思っているほど影響は受けないのでは？と思う。むしろ友達が増えることで学校生活が充実すると思うので、とても良いことだと思う。
- ・少子化なのは仕方がない。でもそれを理由に市内中学を1つにしてしまうのは問題がある。なぜなら、勉強・部活と一生の中で一番大事でがんばって欲しい時。通学時間が増えたいと思いませんか？1分1秒の間にも英単語1つ覚えて欲しいと思っている。子供達の貴重な通学時間と交換に、部活・授業など、さらに充実させて欲しい。
- ・在学中に統一に当たる年代の子は、入学時に学区を（学区外へ）選択できるようにしてほしい。選択した学校への通学費は保護者の責任で良いと思うので、途中で変わるのが苦手な子供もいるので選択できる権利だけはほしい。
- ・多感な時期、受験をひかえた大切な時期にあたるので、くれぐれも子供たちに負担のないようお願いしたい。親の顔がわからなくなる、PTA活動はどうなるか、迎えを呼ぶ為スマホを持ちいじめにつながらないか、期待より不安や心配の方が多。
- ・私も小さな集団でなく、大きな集団で学び育った方が子どもたちのために良いと考える。保護者として心配しているのは、統合の有無にかかわらず、良い教師に巡り合えるかである。自分の子どもが先生のことを大好きで、毎日楽しく登校してくれれば、それで十分。教職員の配置のバランスも大切だと思うが、何より、教職員の質を向上させることがこれからの下田市にとって、最も重要。
- ・災害時の保護者へのマニュアルを作って、地区ごとにわかるようにして、保護者用を配布してほしい。遠距離の場合、迎えに行くとき、危険な場所がわからないのでハザードマップ等も添えてもらったらもっと良いと思う。
- ・統合直後の数年間は特に混乱が予測される。先生たちが授業、教育に専念でき、子どもたちへの負担がかからないよう予定教員数よりもさらに増員して、統合に望んでいただきたい。どのように対応するつもりかも示してほしい。「仕方ない」「できるだけやっている」などの言い訳は聞きたくない。
- ・稲梓地区では里山づくりや若世代への空き家の斡旋など地域の活性、若い世代を増やす運動を始めているが、学校のないところへ若い世代、子どものいる世代は定住しない。中学校を失ってしまったら、子どもはもっと少なくなり、やがて0となる。もっともっと先の未来のことを考えて、せめて稲梓地区に中学校を残していただきたい、残せる努力をしてほしい。稲梓地区は勉強する環境がととてもとても良い。壊してしまうのは簡単ですが、もう二度と作れないことを理解してほしい。
- ・地域の子どものいない（成人している）方に話すと、皆、大反対。職場で子育てが終わった方も中学生の頃（子どもが）通学、部活動などで親の負担が大きかったと、一校化は大反対と言っている。反対署名があれば行うとのこと。下田市全体の意見を聞いてから、一校化について再度検討していただきたい。
- ・アンケート、これで何度目なのか。同じことを書き続けているが、早く一校化進めてほしい。子どもたちに充実した中学校生活を送ってほしい。
- ・①今までの少人数で先生が目が届いていたメリットもあるので、先生の増員をして生徒に目が届くような環境づくりを希望したい。②海水浴シーズンになると、白浜地区は通うのに大変時間がかかるのではないかとぜひ交通量の計測をして！一度に学生が集まって交通麻痺しないか心配。
- ・中学校再編で廃校となった地域のコミュニティの場や地域住民のつながりが少なくなってしまうことが考えられる。地域の伝統行事や環境整備を維持させていくことなど、特にその地域に昔から住んでいる方々に丁寧に説明していくことも大切だと思う。教育環境の整備として、市民みんなが利用できる図書館を中学校に隣接してほしい。部活動は先生ではなくコーチを採用！先生の業務軽減するべき。
- ・幼稚園、保育園の保護者に説明いただき、良かったなあと思う。ちょうど子どもたちが入学する頃だと思うので、他人事ではなく真剣に考えることができた。
- ・中学校再編もそうですが、小学校も児童数が減り、再編も時間の問題。スムーズかつ適正に中学校再編が行われるようお願いしたい。伝統、地域性を否定するわけではないが、子どもや保護者の意見（気持ち）を優先的に汲んでいただきたい。「義務教育」としての中学校の本来の意味、目的を第一に考えてほしい。

【教職員】

- ・迅速な情報提供を。先の話になるが、制服や体操服等をリユースするシステムができると良いと思う（PTA委員会など）。
- ・学校づくりには地域住民や保護者の協力は必然。それぞれの学校の特色でもある地域との交流や文化継承をこれからも教育の現場に生かしてってもらいたい。交通アクセスが良くないので、災害で寸断されたり、夏の渋滞時は現状のルート以外にもアクセス広報が取れるよう、林道や縦貫道、落合縄地線の早急の開通に働きかけてほしい。
- ・1年目を大事にしてほしい。そこで成功かそうでないかが決まってしまう。
- ・小規模校には小規模校の良さもたくさんあるが、中学生という多感で一番成長する時期に限られた人間関係や選択肢の中で生活するのはかわいそうだと思う。ただし、通学の面と共に小さな学校（少ない人数）から大きな学校（多い人数）へと環境が変わる面への教職員の数・SCの配置などフォローは充実させるべきだと思う。
- ・中学校が1校になれば、遠く（白浜や稲梓など）に住む人が減ることも予想されるので、そのようなことも含めて検討してほしい。
- ・環境の異なる生徒が、一度に一校に集中するので、不安なことが多い。生徒が上手く順応できるように配慮してもらいたい。建物は実質的なもので、スペースに余裕を持たせてほしい。教室はもちろんだが、多目的に使える会議室を多く取ってほしい。
- ・教員の専門性は高まるが、職員数の減少が気になる（どう調整していくのか）。
- ・市内であっても地区性の異なりがあり、保護者の考えも様々である。その上で通学時間の差を生じ、部活動や教育課程を作成、実施が難しい。また、統合後も生徒指導を含めた諸課題が懸念される。
- ・制服、ジャージ、カバン等の学用品をどうするか…。学区が広がることで、朝や放課後の部活時間確保。
- ・基本的には反対である。せめて2校ずつくらいは中学校を設置してほしい。人と人の問題であり、机の上で考えるほど簡単にできることではないと思う。本当に子ども、教員のことを考えて、慎重に進めてほしい。不登校の生徒が増えないことを願いたい。
- ・中学校までの時期に少人数の集団だけの生活や学習は、一定人数以上の集団で活動し続けた児童、生徒に比べて、社会性やコミュニケーション能力の発達にメリットよりのデメリットの方が多いと感じる。その面について地域への理解を深めていく必要を感じる。
- ・体育館を新しくし、防災として使える広さと部屋、シャワールーム、ギャラリーを設ける。教室に入ることのできない生徒のための個室も5部屋くらいほしい。特別支援学級のために、教室環境やトイレ・シャワーを整える。朝部活は下田高校と同じように自主練とし、組織的に行わない。一斉メール配信の環境を整えたい。敷根公園施設を部活動でも使えるようにならないか（野球 or サッカー。両方は絶対ダメ）。
- ・教員を減らすことを考えるのではなく、再編にあたってフォローが必要なので、教員数を十分に確保してほしい。（IT対応・個別支援・SCなど）
- ・中学3年で新中学に通う子は特に負担が大きいため、統合前から交流を行うなど事前準備をしていく。今の下田中を見ていると、保護者送迎が多い、敷根入口が込むので道路整備を進めて欲しい。少子化の中で部活が選べない、友達が選べない状況になってきているので、統合自体は仕方ないと思っている方も多そうに思います。どうしてもメリット、デメリット両方あるので、少しでもデメリットを少なくできるように進めていただけたらと思う。
- ・今の中学校の現状を知らない親に統合を進めても理解は難しいと思う。現中学生、現中学生保護者の意見を公開したり、中学見学をして、現状を知ることが必要。

第4 下田市立中学校再編検討会議概要

1 下田市立中学校再編検討会議概要

(1) 組織概要

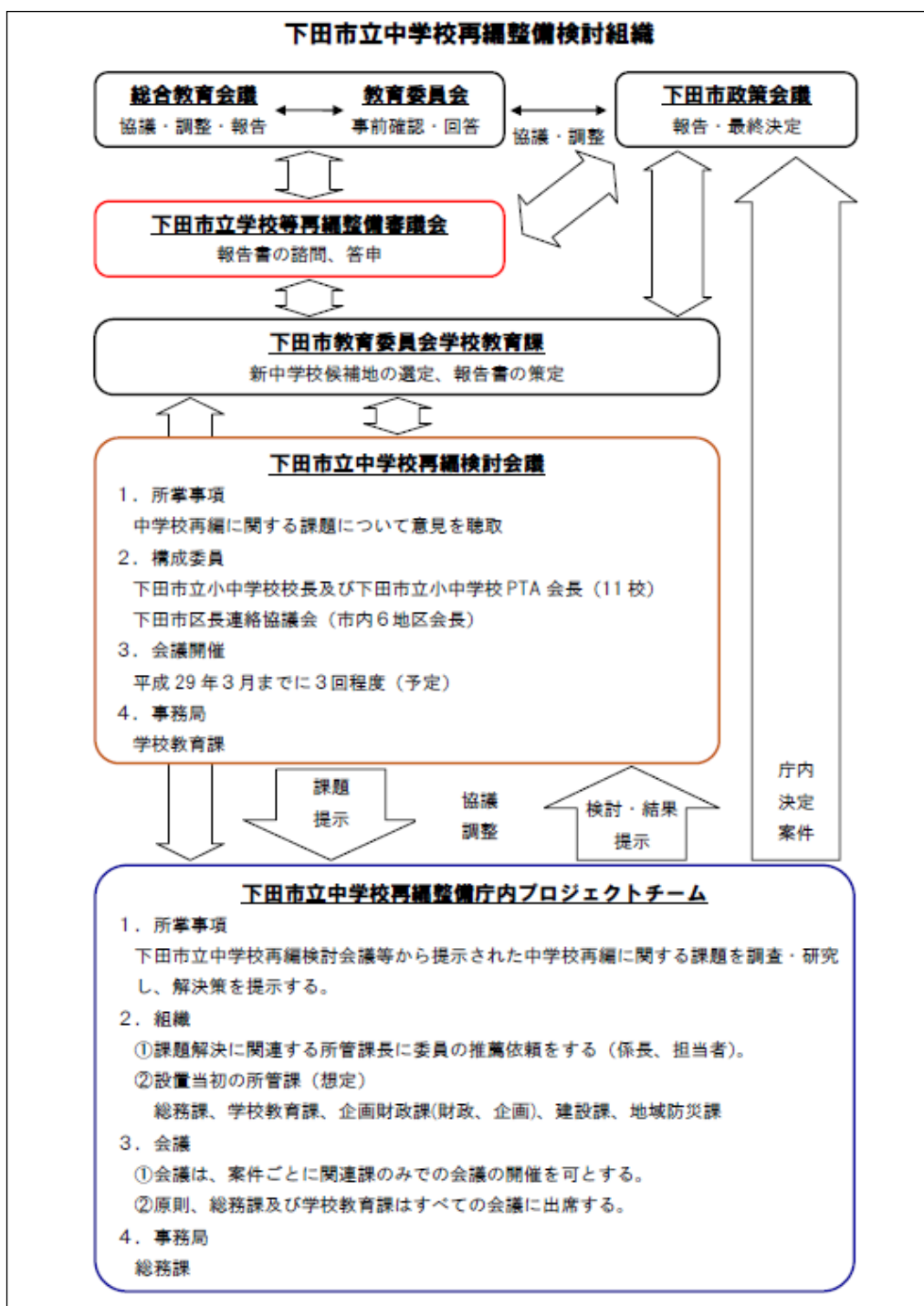
ア 所掌事項

下田市立中学校再編整備に係る課題についての意見を聴取すること。

イ 構成委員

会長（教育長）、副会長（市校長会会長）、委員（下田市立小中学校長、下田市立小中学校PTA会長、下田市区長連絡協議会市内6地区会長） 計29人

ウ 下田市立中学校再編整備検討組織図

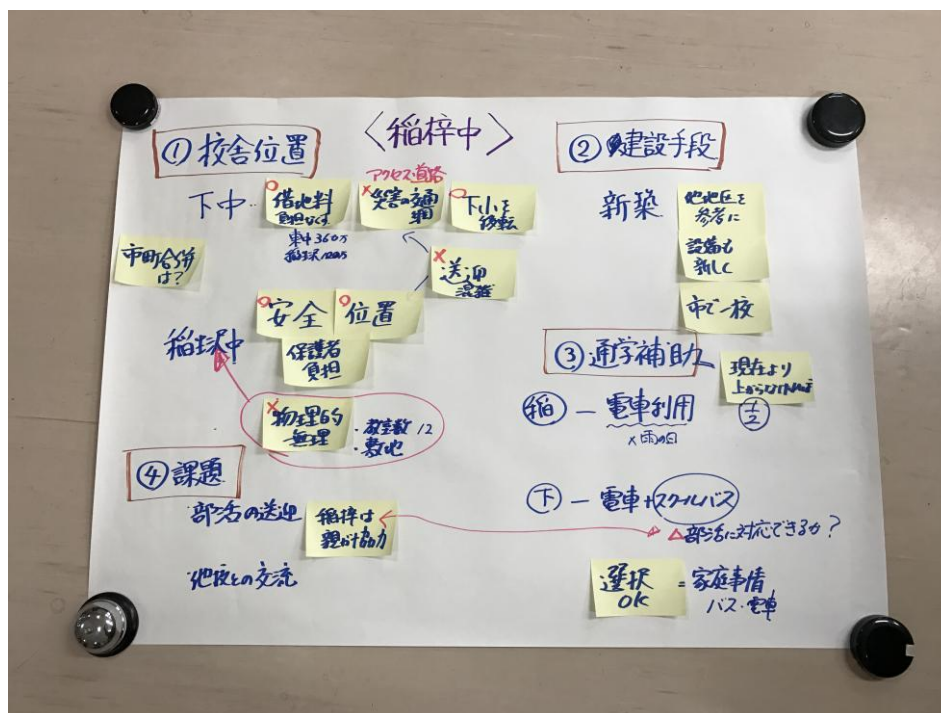


(2) 開催概要

	開催日時及び場所	出席者数	主な内容
第1回	平成28年10月11日(火) 午後6時30分～午後8時20分 下田市立中央公民館大会議室	34人	・副会長の指名について ・下田市総合教育会議報告書について ・下田市立中学校再編検討組織及びスケジュール等について
中学校視察	平成28年11月30日(水) 午前9時～午前11時 下田中学校及び稲生沢中学校	15人	・中学校の現状について ・2中学校の比較について ・新中学校候補地について
第2回	平成28年12月26日(月) 午後6時30分～午後8時25分 下田市立中央公民館大会議室	32人	・下田市立中学校再編に係る報告書保護者説明会概要報告 ・中学校再編に係るアンケート調査結果報告 ・新中学校の必要面積及び概算事業費等について ・中学校学区別意見交換 ①校舎位置の方向性、②校舎建設手法（新設・改修）の方向性、③通学補助の方向性、④その他1校化する上での課題抽出
第3回	平成29年2月16日(木) 午後6時30分～午後8時 下田市立中央公民館大会議室	30人	・下田市立中学校再編手法及び新中学校候補地に関する報告書(案)概要

2 下田市立中学校再編検討会議意見

(1) 稲椋中学校学区（学区別意見交換）



ア 校舎位置の方向性について

- ・稲生沢中学校は教室数や敷地を考えると物理的に無理である。
- ・下田中学校の不安としては、災害時孤立してしまう。交通網がない中、送迎が困難。
- ・そういった部分を踏まえるとアクセス道路整備をより進めてもらいたい。
- ・下田小を下田中跡地に移転した方が良いという意見。
- ・一番大事なものは、子どもの安全を確保することが大切であるという結論に至った。

イ 校舎建設手法の方向性について

- ・全員が新築という意見。

- ・下田市内で1校にするのだから、子どもたちに新しい環境の中で学んでもらいたい。
- ・他地区の再編モデルを参考に今後、検討をしてもらいたい。

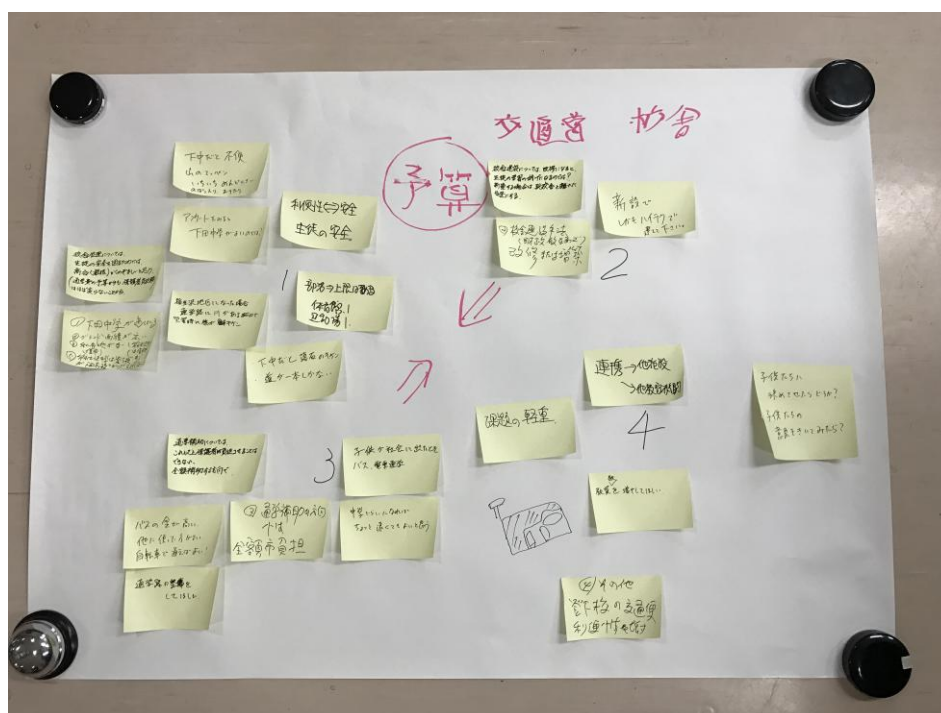
ウ 通学補助の方向性について

- ・可能ならば全額補助をお願いしたいが既存 1/2 補助で現在の負担以上にならないと良い。
- ・稲生沢に通学する場合は電車通学も可能、下田中の場合は電車通学プラス下田駅からスクールバス運行も考慮すべき。
- ・家庭事情もあるので、バス、電車、自家用車送迎など選択を可能にしてほしい。

エ その他、1校化する上での課題とその方向性について

- ・部活に係る送迎について、部活ごとに時間が異なるのでその対応について心配である。
- ・現在の稲生沢中では、部活に係る送迎については、皆で助け合って協力し、対応をしている。
- ・再編するまでの間に各校との交流をより深めるような手段を検討してもらいたい。

(2) 稲生沢中学校学区 (学区別意見交換)



ア 校舎位置の方向性について

- ・校舎については、利便性か安全性かという論点になり、やはり安全性が重要。
- ・安全性を踏まえると下田中が望ましい。また市有地であることから予算的にも良い。
- ・下田中は高台であり、部活動などを考慮すると敷地も広く、近隣に市民スポーツセンターや敷根公園があるため、それらを活用することができる。
- ・高台のため、通学は大変で落石危険箇所もある。しかし、トータルで考慮すると下田中が望ましい。

イ 校舎建設手法の方向性について

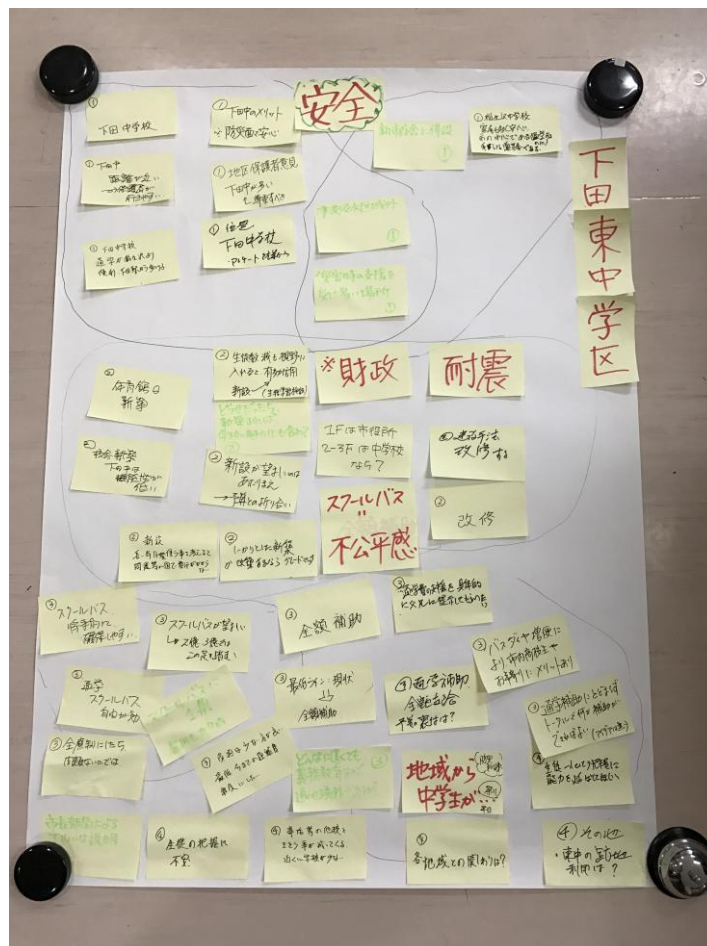
- ・新築が望ましいが、市の財政的な面から考慮すると改築なのではないか。
- ・校舎改修工事時に通学している生徒のことを考慮すると授業の妨げにもなるので、可能ならば、別のところでの新築が望ましいという意見。

ウ 通学補助の方向性について

- ・バス代は高いがやはり全額補助にするとともに、自転車通学についても拡充すべきである。

- ・バス会社に対しても経済的効果生まれ、路線維持に繋がる。
 - ・中学生くらいの年代であれば、少くとも遠くであっても構わない。
- エ その他、1校化する上での課題とその方向性について
- ・下田高校との連携を主にするのであれば、稲生沢中学校が良い。
 - ・どちらにするか当事者である子どもたちに決めさせたらどうか。
 - ・通学費に予算を使うのであれば、教員数を増やすための予算に使った方が良い。

(3) 下田東中学校学区 (学区別意見交換)

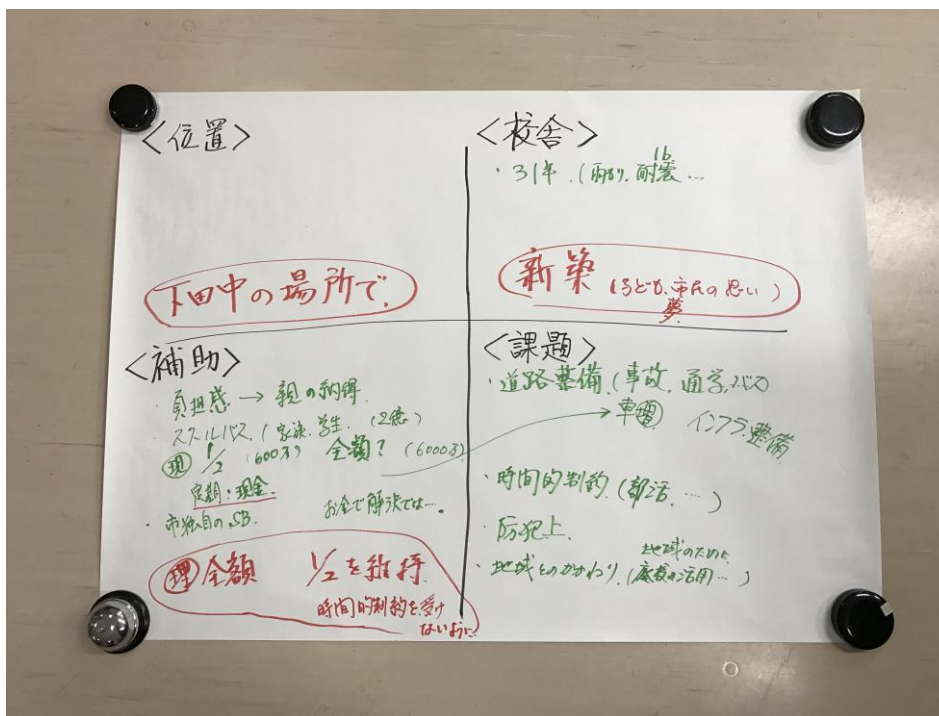


- ア 校舎位置の方向性について
- ・アンケート結果を反映ということではないが、下田中という意見が多かった。
 - ・稲生沢中という意見では、市庁舎と併設して校舎を建設するという意見。
 - ・双方ともに、津波浸水区域外、災害時に拠点となることなどの安全性が一番重要であるという部分では一致した。
- イ 校舎建設手法の方向性について
- ・財政ありきの結論だが、新築が望ましい。しかしながら厳しいことが想定されるので、改修となった場合は、最低でも耐震性を、安全面を第一に検討してもらいたい。
- ウ 通学補助の方向性について
- ・スクールバスが良いが、生徒は長い時間乗車しているので、その時間についても不公平感がないように検討してもらいたい。
 - ・補助を行うのであれば、全額負担が望ましいが、最低でも現状の1/2補助以上となるように検討願いたい。

エ その他、1校化する上での課題とその方向性について

- ・東中の跡地利用についての検討。
- ・各地域に中学生がいなくなるため、防災訓練や祭り等、地域行事への対応がどうなるのかという懸念。
- ・部活動の他校との交流が少なくなるため、その部分でどう対応をしていくのか。
- ・生徒が多くなると一人ひとりの把握が困難になる。
- ・市長部局による丁寧な説明を求めたい。

(4) 下田中学校学区 (学区別意見交換)



ア 校舎位置の方向性について

- ・下田中学校学区であるので、当然、下田中学校が望ましいというところから議論をスタートしている。

イ 校舎建設手法の方向性について

- ・現在の校舎は建築から30年以上経過していることもあり、雨漏り、耐震等を考慮するとやはり新築が望ましい。
- ・4中学校を1校化するため、新築により子どもたちに夢を持たせることができる。

ウ 通学補助の方向性について

- ・親の通学に対する負担感をどう納得させるのが重要であり、例えば家族パスや小中学生が利用可能な定期を発行するなどの工夫をすべきではないか。
- ・スクールバスについても市保有バスによる送迎も予算的な面からも検討すべきである。
- ・通学補助になるのであれば、理想を言えば全額負担が望ましい。しかし、親の負担感を考慮しながら、最低でも1/2補助以上は維持してもらいたい。

エ その他、1校化する上での課題とその方向性について

- ・通学に対する時間的な制約をどう対応していくのか (部活動等の時間を含め)。
- ・現状でも下田中付近の道路は事故等が発生する可能性があり危険であるため、今後の自転車通学や親の送迎などを考慮した上でのインフラ整備も必要となる。

- ・下田中は防災面では高台にあるため良いが、高台にあるがために防犯面においては心配な面があるので、その対応をどうしていくのか。
- ・地域との関わり合いをどうしていくのかと同時に、校舎の跡地利用についても具体的な検討を行うべきである。

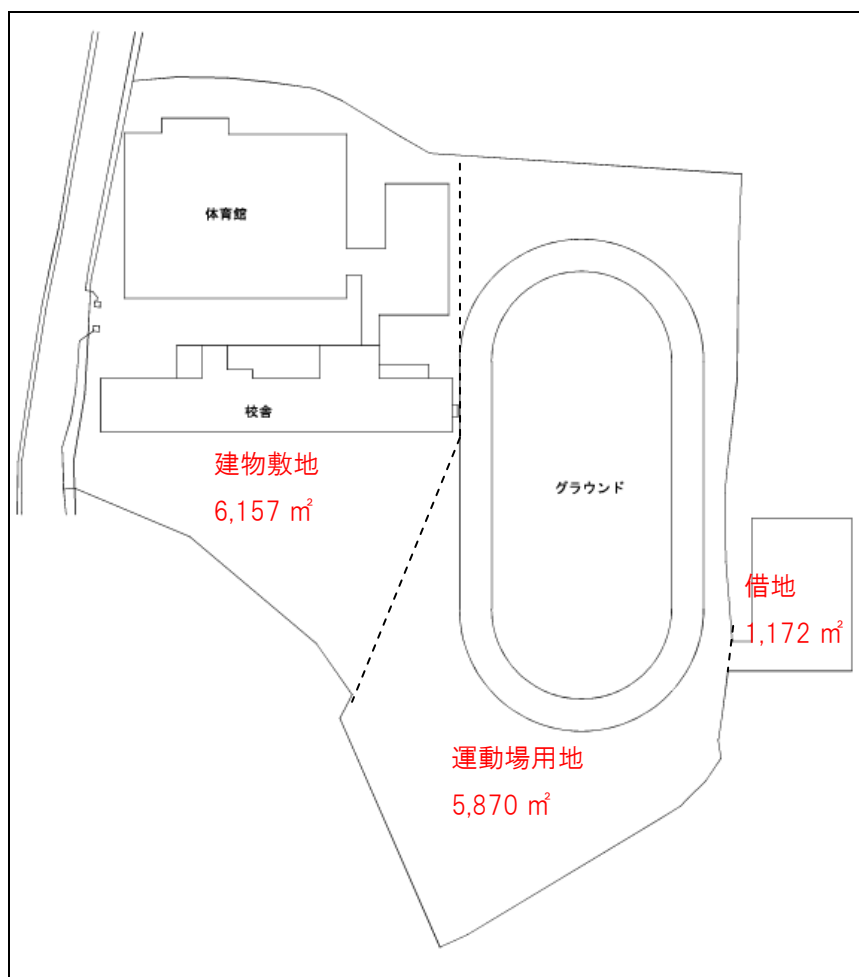
(5) その他（検討会議での意見全般）

- ・公共交通機関を活用した通学費補助の方が、中学生世代には望ましい。自分の足で通うことにより、子どもたち自身が時間の確認であったり、その他の社会性を養う部分でも色々と学ぶ部分が多いと思う。そういった広い意味を含めた上で、通学費補助という部分での検討をお願いしたい。
- ・意見交換やアンケートなどから、校舎の跡地利用について、中学校再編と同時並行に検討するべきである。教育委員会だけの問題ではなく、市長部局を含めた市全体で検討すべき。33年まで待つのではなく、組織を立ち上げ、一刻も早く地域に入るべきだと思う。
- ・伊豆縦貫道の出口が下田中付近にできるという話があるが、敷根にある道路の事故等への安全面に対する検討をお願いしたい。
- ・通学補助部分で、「最大限保護者の声を聞いて対応するのが望ましい」や「通学バス運行についても地域住民、保護者その他関係者のご意見を尊重しながら今後検討していくことが望ましい」というような記述があった方が良いと感じた。
- ・通学費については、保護者の多くの声を反映していただき、何とか無償化にしてもらいたい。
- ・財政難ばかりを理由にしないで、経費節減をする事業展開を市全体で行うべきである。そういった中から捻出された経費を、本当に必要な通学費として使っていただきたい。万が一、無償化が困難であるとなった場合は、不公平感のないように保護者の負担については、同一金額での負担で対応をしていただきたい。
- ・通学費負担については、非常に大切だと感じているが、総論から各論に入るとやはりお金がかかる部分については、非常にシビアになってくる。過去の学校統合の経過を踏まえると通学費負担については、ある程度確定した方向性を早い段階で示す必要があると思う。
- ・通学補助はどちらかという親のためという側面がある。校舎新築は困難であるという部分は理解しているが、子どもにもっと目を向けたより良い環境づくりのための予算の使い方を検討していただきたい。
- ・通学費補助などの親に対する負担は、子どもの教育環境に対して、大きく影響をしている。それが初めて安定して、やっと次のことを考えることができる。通学費というものはそれだけ重要であり、しっかりと対応を検討していただきたい。
- ・小学校校舎についてもかなり老朽化してきており、新中学校が新築になることによって、予算が削られるとなると非常に厳しい。小学生についても同じ子どもですので考慮していただきたい。
- ・教員削減や地域の反対などの声が出てくると思われるが、中学校再編をすることによって、こんなに良くなるというものを明確に打ち出していけないといけないと思う。
- ・伊豆市では、通学費について約7,000万円弱、またバス停までの距離分も補助として出している。事業を進める上である程度のことは認めていかないとなかなか先に進まないのではないかと。
- ・工事期間に在籍している下田中学校の生徒については、もの凄く大変な思いを思うと思うので、仮設校舎となるような環境になったとしても、その中でもより良い環境、細かな配慮がなされる形で進めていただきたい。

第5 2中学校の比較について

1 2中学校の現況

(1) 稲生沢中学校の現況



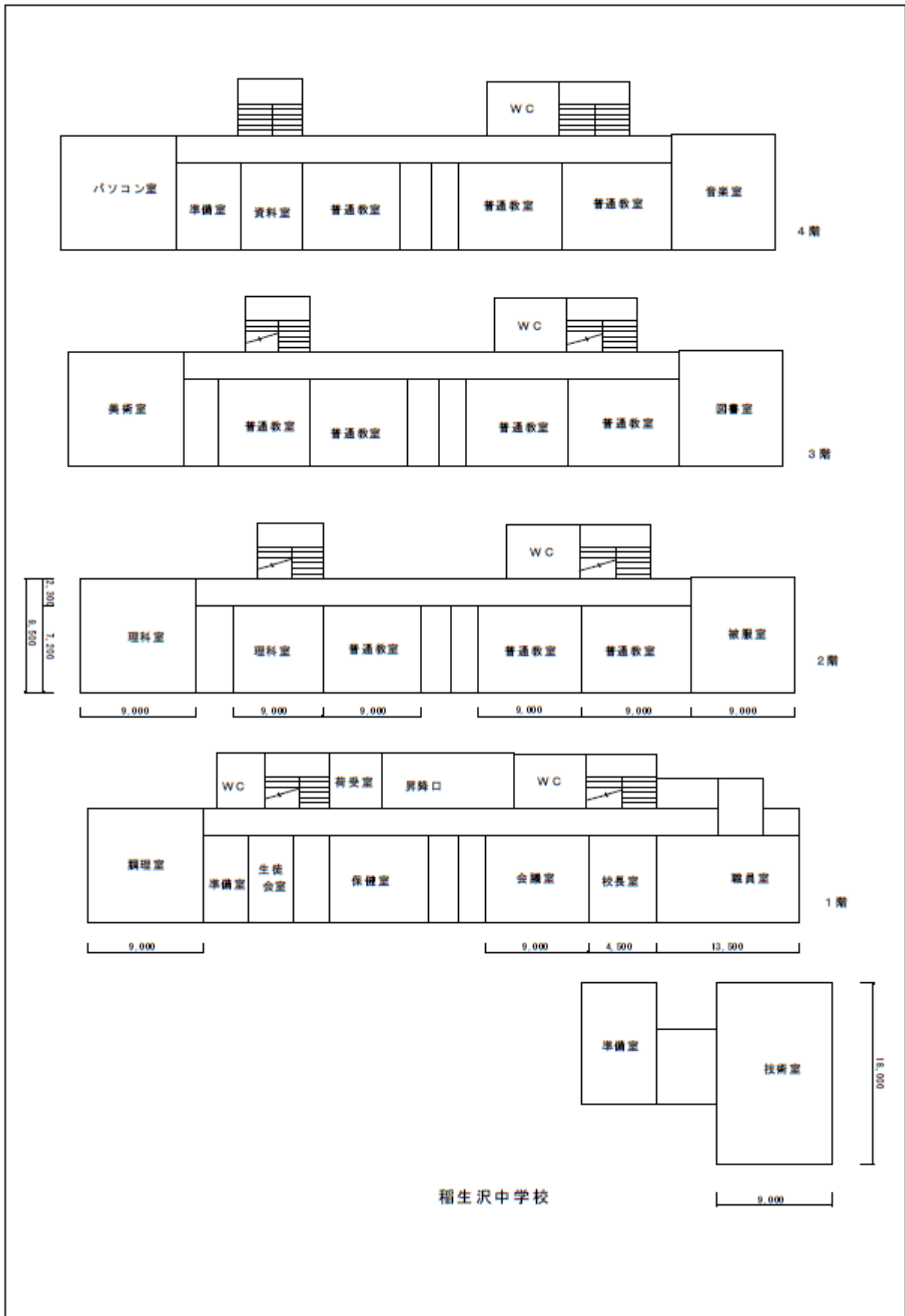
土地 (m ²)	区分	建物敷地	運動場用地	その他用地	計
	市保有	6,157	5,870	0	12,027
	借地	0	0	1,172	1,172
	計	6,157	5,870	1,172	13,199

建物 (m ²)	区分	建築年(西暦)	構造	階数	延床面積	耐震ランク	経過年数
	校舎	1982	鉄筋コンクリート造	4	2,934	l b	34
	体育館	1986	鉄筋コンクリート造	2	1,159	l b	30
	技術棟	2005	鉄骨造	1	230	l a	11
倉庫、体育器具庫等の小規模な建物は含まない。							

周辺環境としては、北側と南側は住宅地、東側に国道414号、西側に市道、住宅地と隣接しています。交通面では敷地西側の市道立野お吉ヶ淵線に面し、一部歩道整備されています。

【現在までの主な改修工事】

- ・1994年 コンピューター室設置工事
- ・2010年 体育館屋上防水改修工事
- ・2016年 体育館照明LED化



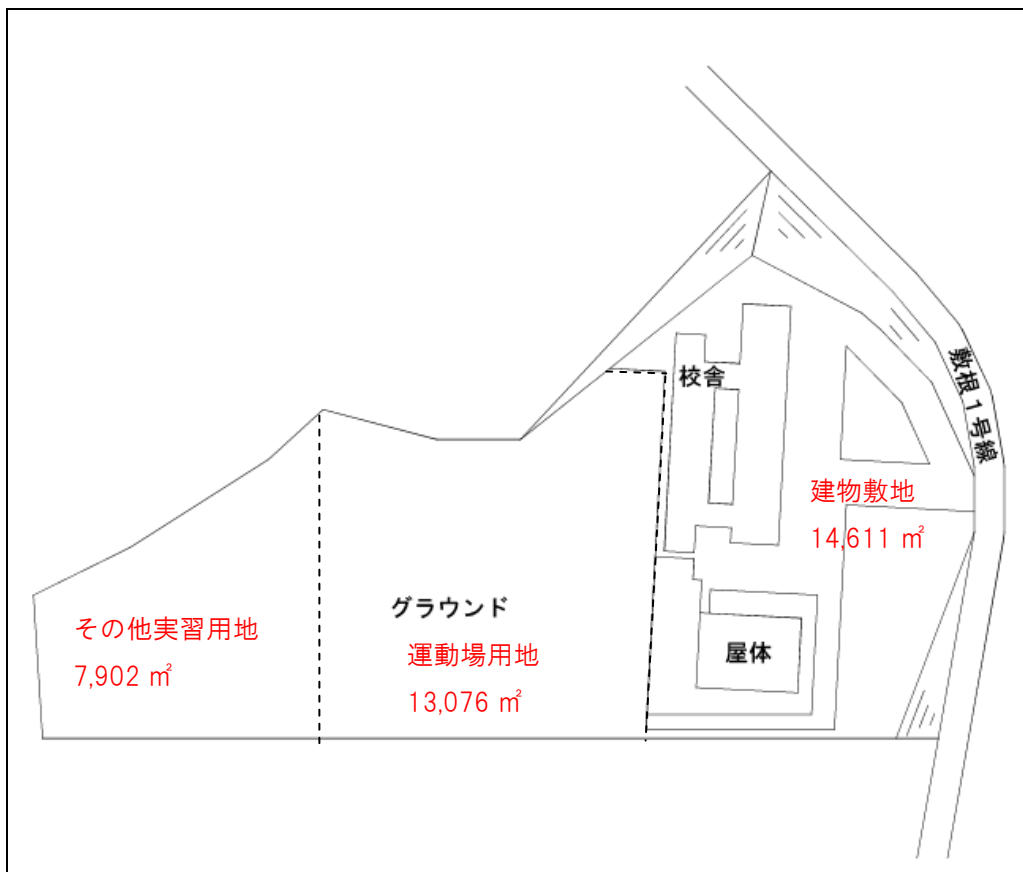
稻生沢中学校

【稲生沢中学校：現況諸室】 1コマ=64.8 m²

		室名	現況コマ	現況室数	備考	総コマ数
校舎	普通教室廻り					
	普通教室	普通教室	1	10		10
		多目的室	1	0		0
		特別支援学級	0	0		0
	特別教室					
	情報関係室	図書室	1.3	1		1.3
		パソコン室	2.6	1	準備室含む	2.6
	理科	理科室	1.4	2	準備室含む	2.8
	家庭科	家庭科室	1.6	2	被服室、調理室	3.2
	技術	技術室	3.5	1	準備室含む	3.5
	音楽	音楽室	1.3	1	準備室含む	1.3
	美術	美術室	1.8	1	準備室含む	1.8
	特別活動					
	生徒会	生徒会室	0.5	1		0.5
	生活関連スペース					
		昇降口	1.2	1		1.2
		生徒トイレ	0.5	4	男女別、各学年に	2
		配膳室	0	0		0
		給食受入室	0.4	1		0.4
		生徒更衣室	0.25	3		0.75
		多目的トイレ	0	0		0
		教材室	0.25	3		0.75
		廊下	1.6	4		6.4
		階段室	0.4	8	各階2箇所	3.2
	管理諸室					
		校長室	0.5	1		0.5
		職員室	1.5	1		1.5
		事務室	0.3	1		0.3
		用務員室	0	0		0
		会議室	1	1		1
		進路資料・指導室	0	0		0
		印刷室	0.2	1		0.2
休憩室		0.3	1		0.3	
放送室		0.2	1		0.2	
職員更衣室		0.2	1	男女別	0.2	
保健室・相談室		1	1		1	
職員トイレ		0.4	1	男女別	0.4	
47.3						

○体育館：1,159 m² ○屋外体育器具庫：58 m²

(2) 下田中学校の現況



土地 (m ²)	区分	建物敷地	運動場用地	その他用地	計
	市保有	14,611	13,076	7,902	35,589
	借地	0	0	0	0
	計	14,611	13,076	7,902	35,589

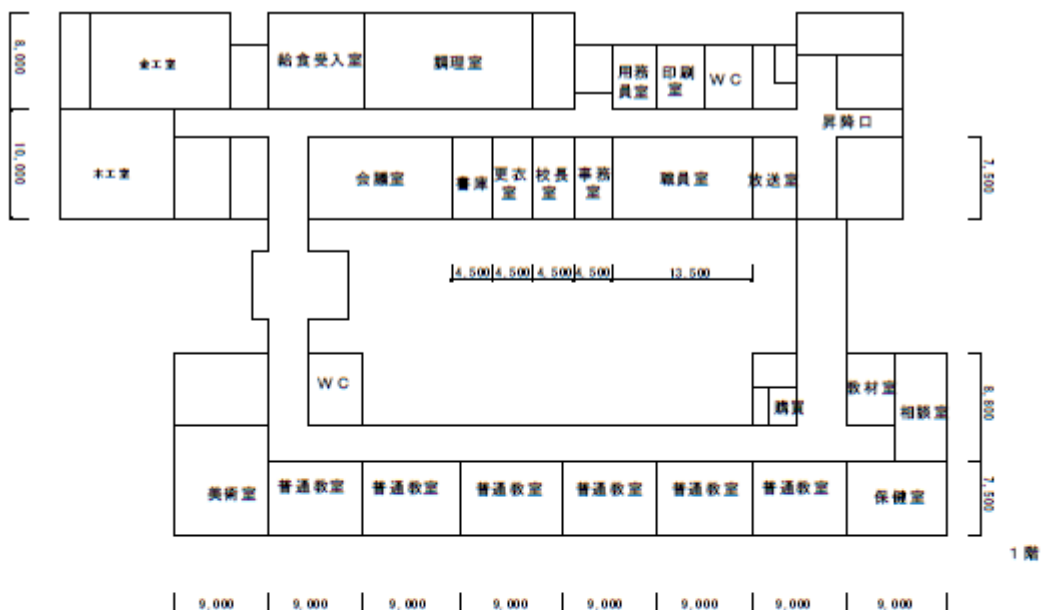
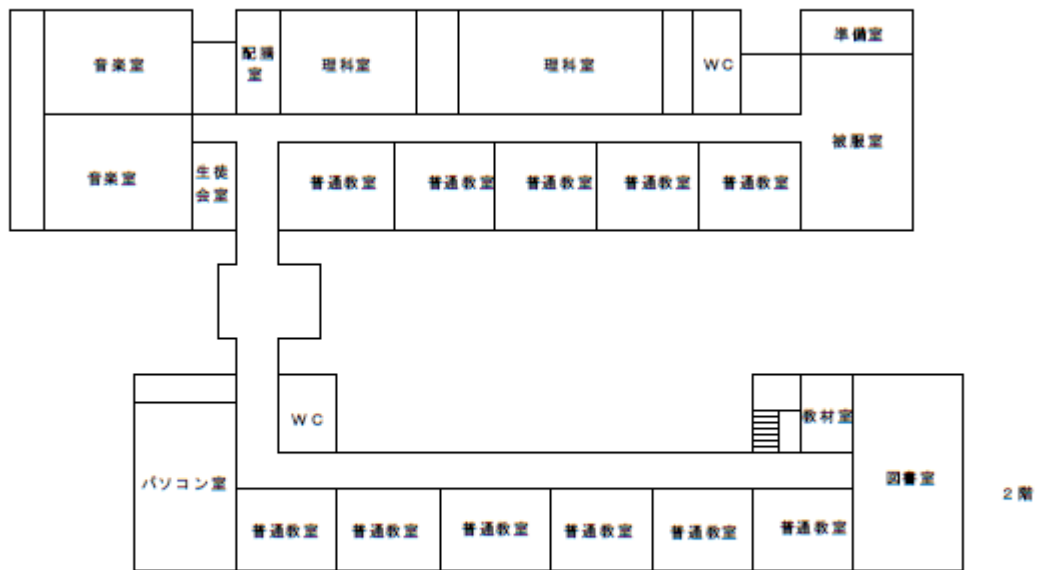
建物 (m ²)	区分	建築年(西暦)	構造	階数	延床面積	耐震ランク	経過年数
	校舎	1984	鉄筋コンクリート造	2	5,098	I b	32
	体育館	1985	鉄筋コンクリート造	2	1,128	I b	31

倉庫、体育器具庫等の小規模な建物は含まない。

周辺環境としては、北側と南側を山に挟まれ、東側に敷根公園、西側にこども園及び住宅地と隣接しています。交通面では敷地北側の市道敷根1号線に面し、片側1車線道路で歩道整備もされています。

【現在までの主な改修工事】

- ・1994年 コンピューター室設置工事
- ・2008年 体育館屋上防水改修工事
- ・2015年 公共下水道接続工事
- ・2015年 体育館照明LED化
- ・2016年 校舎北側屋上防水改修工事
- ・2016年 体育館南側に太陽光発電設備設置工事



下田中学校

【下田中学校：現況諸室】 1 コマ=67.5 m²

	室名	現況コマ	現況室数	備考	総コマ数	
校舎	普通教室廻り					
	普通教室	普通教室	1	16		16
		多目的室	1	0		0
		特別支援学級	1	1		1
	特別教室					
	情報関係室	図書室	2.2	1		2.2
		パソコン室	2.2	1	準備室含む	2.2
	理科	理科室	2	2	準備室含む	4
	家庭科	家庭科室	2.3	2	被服室、調理室	4.6
	技術	技術室	2.5	2	金工室、木工室、準備室含	5
	音楽	音楽室	2.5	2	準備室含む	5
	美術	美術室	2.2	1	準備室含む	2.2
	特別活動					
	生徒会	生徒会室	0.5	1		0.5
	生活関連スペース					
		昇降口	1.2	1		1.2
		生徒トイレ	0.3	6	男女別、各学年に	1.8
		配膳室	0.5	1		0.5
		給食受入室	1	1		1
		生徒更衣室	0	0		0
		多目的トイレ	0	0		0
		教材室	0.5	3		1.5
		廊下	7	2		14
		階段室	0.5	6	各階3箇所	3
	管理諸室					
		校長室	0.5	1		0.5
		職員室	1.5	1		1.5
		事務室	0.5	1		0.5
		用務員室	0.5	1		0.5
		会議室	1	1		1
		進路資料・指導	0.5	1	書庫を含む	0.5
		印刷室	0.5	1		0.5
休憩室		0.5	1		0.5	
放送室		0.5	1		0.5	
職員更衣室		0.5	1		0.5	
保健室・相談室		1.5	1		1.5	
職員トイレ		0.5	1	男女別	0.5	
					74.2	

○体育館： 1,128 m² ○部室： 58 m²

○屋外体育器具庫： 54 m² ○駐輪場： 20 m²

2 2中学校の比較

(1) 中学校設置基準に基づく校舎面積及び運動場面積について

中学校設置基準では、全校生徒数に基づき、校舎面積及び運動場面積について基準を設けており、以下のとおりになります。

ア 想定生徒数

新中学校開校を平成33年度からとし、生徒数を以下の推計表から450人と仮定。

年度	1年	2年	3年	生徒数合計
H33	152人	143人	152人	431人
H34	143人	152人	139人	434人
H35	134人	143人	152人	429人
H36	143人	134人	143人	420人
H37	122人	143人	134人	399人
H38	131人	122人	143人	396人
H39	112人	131人	122人	365人

イ 校舎面積

$$\text{【算定式】: } 600 + 6 \times (\text{生徒数} - 40) \quad 600 + 6 \times (450 - 40) = \underline{3,060 \text{ m}^2}$$

ウ 運動場面積

$$\text{【算定式】: } 3600 + 10 \times (\text{生徒数} - 240) \quad 3600 + 10 \times (450 - 240) = \underline{5,700 \text{ m}^2}$$

エ 2中学校の状況

2中学校の既存校舎及び運動場の面積で考慮した場合、校舎及び運動場ともに中学校設置基準の面積を有しています。

	稲生沢中学校	下田中学校
校舎延床面積	3,164 m ²	5,098 m ²
運動場面積	5,870 m ²	13,076 m ²
H28 生徒数	122人	218人

(2) 既存施設の活用について

2校の中学校用地のうち、下田中学校は全て市有地であり、稲生沢中学校は一部借地となっています。

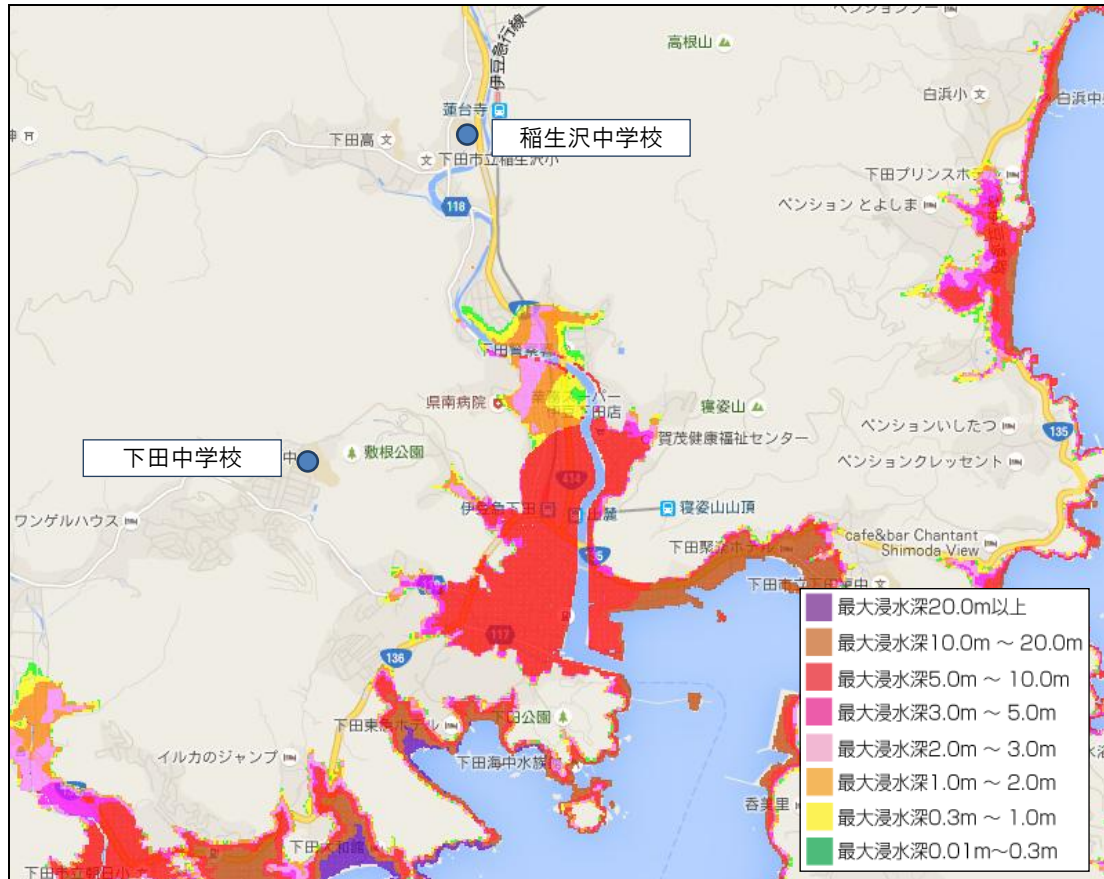
	稲生沢中学校	下田中学校
市有地	一部借地	全部

(3) 防災面での安全性について

新中学校候補地の防災面での安全性を考慮する上で、津波浸水想定区域外及び土砂災害警戒区域外であることが重要だと考えられます。2校とも中学校が津波浸水想定区域外ですが、土砂災害警戒区域については、稲生沢中学校及び下田中学校ともに一部が警戒区域に含まれています。

	稲生沢中学校	下田中学校
津波浸水想定区域	区域外	区域外
土砂災害警戒区域	一部区域	一部区域

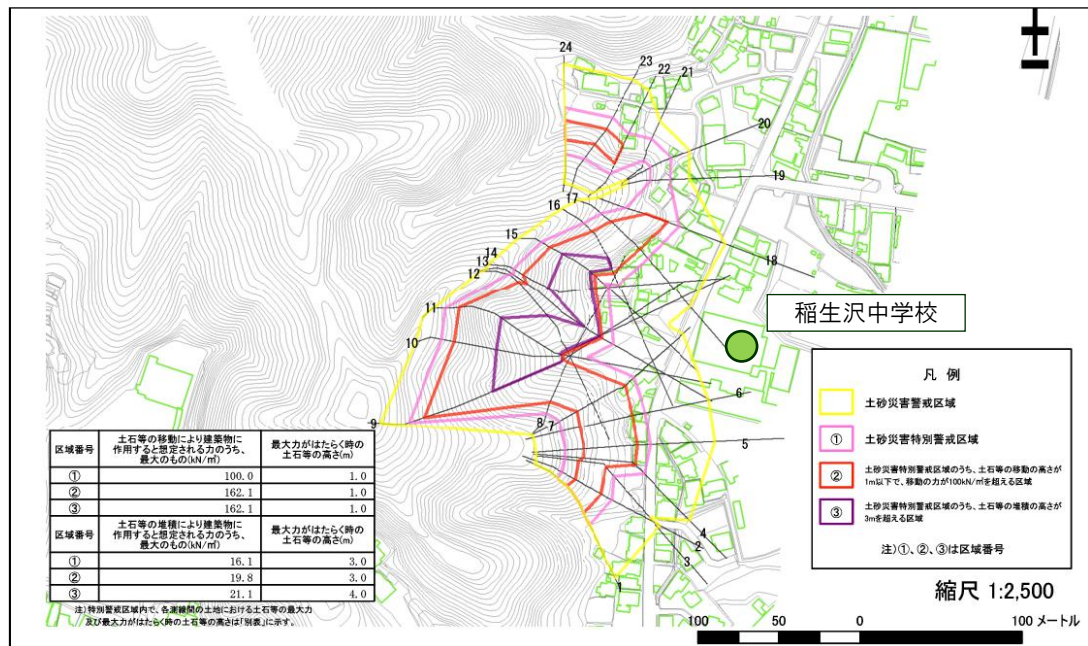
ア 津波浸水想定区域図（静岡県第4次津波被害想定津波浸水〔レベル2〕）



資料：静岡県統合基盤地理情報システム

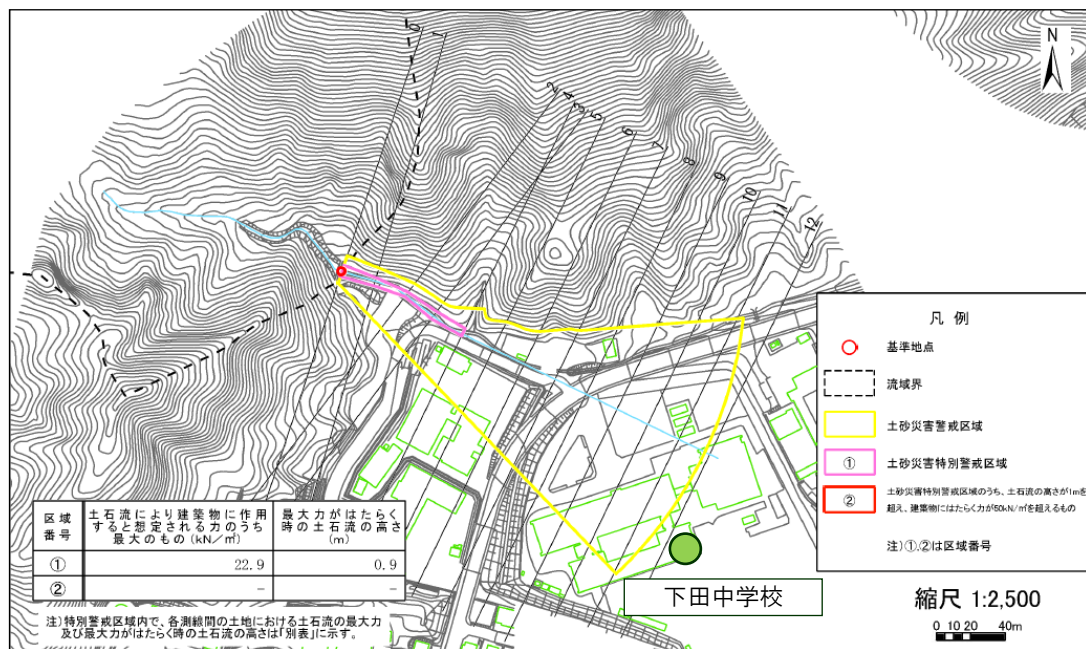
イ 土砂災害警戒区域図

(ア) 稲生沢中学校



資料：静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課（区域名：金谷山）

(イ) 下田中学校



資料：静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課（区域名：敷根西沢）

(4) 通学について

市内全域からの通学になるため、通学距離、通学時間について、国の基準を参考としながら、一部の生徒に負担をかけないよう慎重に検討することが重要です。

ア 通学距離について

義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条第1項第2号において、中学校でおおむね6km以内という通学距離基準を定めています。

イ 通学時間について

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（平成27年1月27日文部科学省）において、通学時間は「おおむね1時間以内」を一応の目安とした上で、各市町村において、地域の実情や児童生徒の実態に応じて1時間以上や1時間以内に設定することの適否を含めた判断を行うのが適当であると示しています。



4 中学校から半径 6 km 圏内図



バス路線図（出典：東海自動車ホームページ）

ウ 2 中学校の比較

国の基準を参考に2中学校で以下の条件のもと、比較しました。

【2 中学校比較条件】	
1	通学は公共交通機関（バス路線）を利用することを想定（自家用車送迎等による候補地近隣住民の環境配慮）。また、市内全域からの通学を考慮し、中心部から最も遠い停留所を以下のとおり選出（下田地区は下田駅を選出）。 稲梓地区：加増野、北の沢 稲生沢地区：大沢口 白浜地区：板戸一色 浜崎地区：須崎海岸、爪木崎 朝日地区：田牛、銭瓶峠、堀切 下田地区：下田駅
2	選出した停留所と2中学校付近停留所の距離及びバス乗車時間を調査。但し、下田駅などでの乗換時間は考慮しない。
3	自宅から停留所までの距離及び時間を考慮しない（2中学校の比較は、上記1及び2で検討できるため）。
4	バス運行ダイヤについては、既存ダイヤを考慮しない（統合となった際、ダイヤ設定については交通事業者と要交渉）。

(ア) 稲生沢中学校（停留所：河内温泉）

地区	停留所	距離	時間（内徒歩時間なし）
稲梓地区	加増野	10.2 km	18 分
	北の沢	8.4 km	17 分
稲生沢地区	大沢口	1.8 km	6 分
白浜地区	板戸一色	10.4 km	23 分
浜崎地区	須崎海岸	7.1 km	21 分
	爪木崎	8.6 km	31 分
朝日地区	田牛	9.5 km	26 分
	銭瓶峠	8.3 km	21 分
	堀切	8.5 km	23 分
下田地区	下田駅	2.8 km	8 分
※参考 平均		7.56 km	19.4 分
距離区分		時間区分	
5 km未満	2 か所	10 分未満	2 か所
5 km以上 10 km未満	6 か所	10 分以上 20 分未満	2 か所
10 km以上	2 か所	20 分以上 30 分未満	5 か所
—	—	30 分以上 40 分未満	1 か所
—	—	40 分以上	0 か所

(イ) 下田中学校（停留所：下田中学校）

地区	停留所	距離	時間（内徒歩時間なし）
稲梓地区	加増野	14.8 km	30 分
	北の沢	13.0 km	31 分
稲生沢地区	大沢口	6.0 km	17 分
白浜地区	板戸一色	9.5 km	20 分
浜崎地区	須崎海岸	6.3 km	18 分
	爪木崎	7.7 km	28 分
朝日地区	田牛	7.6 km	23 分
	銭瓶峠	6.4 km	18 分
	堀切	3.9 km	10 分
下田地区	下田駅	1.8 km	5 分
※参考 平均		7.7 km	20.0 分
距離区分		時間区分	
5 km未満	2 か所	10 分未満	1 か所
5 km以上 10 km未満	6 か所	10 分以上 20 分未満	4 か所
10 km以上	2 か所	20 分以上 30 分未満	3 か所
—	—	30 分以上 40 分未満	2 か所
—	—	40 分以上	0 か所

(5) 通学補助想定について

下田市立4中学校を1校化にする想定に伴い、下田市総合教育会議において、統合後の校舎位置は、稲生沢中学校及び下田中学校を候補地とするのが望ましいという方向性が示されました。併せて、公共交通機関の活用（自家用車送迎等による候補地近隣住民の環境配慮）及び他市町の制度を参考に補助要件などを仮に設定しました。

補助対象者	制度概要
小中学校の統合等に伴い、市が指定する就学校又は通学場所に変更が生じた地域の児童・生徒 ※統合前の旧学区内の児童・生徒に対しては既存補助要綱を適用。	補助率は全額補助（通学定期券の交付） ※通学費負担を軽減し、義務教育の円滑な遂行を図る。

ア 通学費補助要件の仮設定に基づく各地区からの補助金額について

(5) で掲げた通学費補助要件の仮設定に基づく各地区からの補助金額について、以下の条件にて算出しました。

<p>【補助金額算出条件】</p> <ol style="list-style-type: none">行政区別人口データは、平成28年4月1日時点の住民基本台帳の行政区別・年齢別人口調べを利用。地区別の1年生から3年生の生徒数については、平成33年度からの中学校統合を想定し、平成28年4月1日現在でその学年に該当する7歳から9歳のそれぞれの人数を記載。地区別に既存の稲生沢中学校及び下田中学校までの通学定期代について算出。併せて、バス利用のみの場合、バス及び鉄道利用の場合それぞれの定期代を算出。補助期間については、休暇中の部活動等を考慮し、1年間（365日）とする。バス及び鉄道定期代については、(株)南伊豆東海バス及び伊豆急行(株)に確認し、平成28年度定期券金額から算出。 ※バス通学定期券：4か月定期が最長・鉄道通学定期券：6か月定期が最長停留所等については、行政区ごとで1か所を設定。また、停留所利用人数についても行政区ごとの人数が全て利用すると仮定。バス及び鉄道ダイヤについては、既存ダイヤを考慮しない。（統合となった場合、ダイヤ設定については交通事業者と要交渉）。
--

(ア) 稲生沢中学校想定 (バス利用のみ)

行政区	停留所 (想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
須原	北の沢	2	0	1	3	68,400	205,200	615,600
須原2	目金	6	0	1	7	57,460	172,380	1,206,660
宇土金	宇土金口	0	2	2	4	57,460	172,380	689,520
椎原	上箕作	3	3	3	9	45,140	135,420	1,218,780
北湯ヶ野	上箕作	0	2	0	2	45,140	135,420	270,840
横川	横川	2	0	2	4	62,930	188,790	755,160
加増野	加増野	1	0	1	2	82,080	246,240	492,480
相玉	相玉	0	3	1	4	47,880	143,640	574,560
箕作	下箕作	0	7	2	9	42,410	127,230	1,145,070
落合	落合	0	0	0	0	34,200	102,600	0
稲梓地区計		14	17	13	44			6,968,670
原田	白浜神社	8	9	7	24	68,400	205,200	4,924,800
長田	長田	4	7	3	14	73,870	221,610	3,102,540
板戸	板戸一色	1	2	4	7	84,820	254,460	1,781,220
白浜地区計		13	18	14	45			9,808,560
柿崎	柿崎神社前	9	4	13	26	43,780	131,340	3,414,840
須崎	須崎海岸	9	9	7	25	62,930	188,790	4,719,750
外浦	外浦口	1	3	1	5	51,980	155,940	779,700
浜崎地区計		19	16	21	56			8,914,290
吉佐美	吉佐美	23	8	17	48	57,460	172,380	8,274,240
田牛	田牛	3	1	2	6	80,710	242,130	1,452,780
大賀茂	学校前	13	13	14	40	62,930	188,790	7,551,600
朝日地区計		39	22	33	94			17,278,620
一丁目	下田駅	3	8	3	14	34,200	102,600	1,436,400
二丁目	下田駅	4	1	5	10	34,200	102,600	1,026,000
三丁目	下田駅	1	2	2	5	34,200	102,600	513,000
四丁目	下田駅	0	3	2	5	34,200	102,600	513,000
五丁目	鍋田口	0	4	1	5	43,780	131,340	656,700
六丁目	白岩山	16	15	14	45	46,510	139,530	6,278,850
武ガ浜	下田駅	0	1	1	2	34,200	102,600	205,200
敷根	下田駅	2	3	1	6	34,200	102,600	615,600
東本郷1	下田駅	1	2	3	6	34,200	102,600	615,600
西本郷1	下田駅	1	0	3	4	34,200	102,600	410,400
下田地区計		28	39	35	102			12,270,750
全地区合計		113	112	116	341			55,240,890

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

(イ) 稲生沢中学校想定（バス及び鉄道利用）

行政区	停留所 (想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
須原	北の沢	2	0	1	3	68,400	205,200			615,600
須原2	目金	6	0	1	7	57,460	172,380			1,206,660
宇土金	宇土金口	0	2	2	4	57,460	172,380			689,520
椎原	上箕作	3	3	3	9	45,140	135,420			1,218,780
北湯ヶ野	上箕作	0	2	0	2	45,140	135,420			270,840
横川	横川	2	0	2	4	62,930	188,790			755,160
加増野	加増野	1	0	1	2	82,080	246,240			492,480
相玉	相玉	0	3	1	4	47,880	143,640			574,560
箕作	下箕作	0	7	2	9	42,410	127,230			1,145,070
落合	落合	0	0	0	0	34,200	102,600			0
稲梓地区計		14	17	13	44					6,968,670
原田	白浜神社	8	9	7	24	49,250	147,750			4,432,560
長田	長田	4	7	3	14	53,350	160,050	18,470	36,940	2,757,860
板戸	板戸一色	1	2	4	7	64,300	192,900			1,608,880
白浜地区計		13	18	14	45					8,799,300
柿崎	柿崎神社前	9	4	13	26	23,260	69,780			2,774,720
須崎	須崎海岸	9	9	7	25	41,040	123,120	18,470	36,940	4,001,500
外浦	外浦口	1	3	1	5	32,830	98,490			677,150
浜崎地区計		19	16	21	56					7,453,370
吉佐美	吉佐美	23	8	17	48	36,940	110,820			7,092,480
田牛	田牛	3	1	2	6	60,190	180,570	18,470	36,940	1,305,060
大賀茂	学校前	13	13	14	40	39,670	119,010			6,238,000
朝日地区計		39	22	33	94					14,635,540
一丁目	下田駅	3	8	3	14					517,160
二丁目	下田駅	4	1	5	10					369,400
三丁目	下田駅	1	2	2	5					184,700
四丁目	下田駅	0	3	2	5					184,700
五丁目	鍋田口	0	4	1	5	23,260	69,780			533,600
六丁目	白岩山	16	15	14	45	23,260	69,780	18,470	36,940	4,802,400
武ガ浜	下田駅	0	1	1	2					73,880
敷根	下田駅	2	3	1	6					221,640
東本郷1	下田駅	1	2	3	6					221,640
西本郷1	下田駅	1	0	3	4					147,760
下田地区計		28	39	35	102					7,256,880
全地区合計		113	112	116	341					45,113,760

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

(ウ) 下田中学校想定 (バス利用のみ)

行政区	停留所 (想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
須原	北の沢	2	0	1	3	86,180	258,540	755,620
須原2	目金	6	0	1	7	76,610	229,830	1,608,810
宇土金	宇土金口	0	2	2	4	76,610	229,830	919,320
椎原	上箕作	3	3	3	9	62,930	188,790	1,699,110
北湯ヶ野	上箕作	0	2	0	2	62,930	188,790	377,580
横川	横川	2	0	2	4	80,710	242,130	968,520
加増野	加増野	1	0	1	2	97,130	291,390	582,780
相玉	相玉	0	3	1	4	64,300	192,900	771,600
箕作	下箕作	0	7	2	9	58,820	176,460	1,588,140
落合	落合	0	0	0	0	50,620	151,860	0
稲梓地区計		14	17	13	44			9,291,480
東本郷2	東本郷二丁目	0	0	0	0	32,830	98,490	0
西本郷2	西本郷二丁目	5	0	1	6	31,460	94,380	566,280
西本郷3	西本郷二丁目	1	1	0	2	31,460	94,380	188,760
高馬	高馬	2	2	1	5	35,570	106,710	533,550
河内	河内温泉	7	6	6	19	45,140	135,420	2,572,980
蓮台寺	蓮台寺	6	4	1	11	45,140	135,420	1,489,620
上大沢	大沢口	1	0	1	2	51,980	155,940	311,880
下大沢	大沢口	2	0	1	3	51,980	155,940	467,820
立野	中の瀬	4	1	4	9	41,040	123,120	1,108,080
中	西中村	11	13	9	33	35,570	106,710	3,521,430
稲生沢地区計		39	27	24	90			10,760,400
原田	白浜神社	8	9	7	24	60,190	180,570	4,333,680
長田	長田	4	7	3	14	64,300	192,900	2,700,600
板戸	板戸一色	1	2	4	7	76,610	229,830	1,608,810
白浜地区計		13	18	14	45			8,643,090
柿崎	柿崎神社前	9	4	13	26	35,570	106,710	2,774,460
須崎	須崎海岸	9	9	7	25	54,720	164,160	4,104,000
外浦	外浦口	1	3	1	5	43,780	131,340	656,700
浜崎地区計		19	16	21	56			7,535,160
吉佐美	吉佐美	23	8	17	48	46,510	139,530	3,348,720
田牛	田牛	3	1	2	6	71,140	213,420	640,260
大賀茂	学校前	13	13	14	40	34,200	102,600	2,052,000
朝日地区計		39	22	33	94			6,040,980
全地区合計		124	100	105	329			42,271,110

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。朝日地区は下田中学校旧学区で既存補助要綱適用により半額補助となるため、更に1/2をかけて算出。

(エ) 下田中学校想定(バス及び鉄道利用)

行政区	停留所等 (想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
須原	北の沢	2	0	1	3	86,180	258,540			775,620
須原2	目金	6	0	1	7	76,610	229,830			1,608,810
宇土金	宇土金口	0	2	2	4	76,610	229,830			919,320
椎原	上箕作	3	3	3	9	62,930	188,790			1,699,110
北湯ヶ野	上箕作	0	2	0	2	62,930	188,790			377,580
横川	横川	2	0	2	4	80,710	242,130			968,520
加増野	加増野	1	0	1	2	97,130	291,390			582,780
相玉	相玉	0	3	1	4	64,300	192,900			771,600
箕作	下箕作	0	7	2	9	58,820	176,460			1,588,140
落合	落合	0	0	0	0	50,620	151,860			0
稲梓地区計		14	17	13	44					9,291,480
東本郷2	東本郷二丁目	0	0	0	0	32,830	98,490			0
西本郷2	西本郷二丁目	5	0	1	6	31,460	94,380			566,280
西本郷3	西本郷二丁目	1	1	0	2	31,460	94,380			188,760
高馬	高馬	2	2	1	5	35,570	106,710			533,550
河内	蓮台寺駅	7	6	6	19	23,260	69,780			2,027,680
蓮台寺	蓮台寺駅	6	4	1	11	23,260	69,780			1,173,920
上大沢	蓮台寺駅	1	0	1	2	23,260	69,780	18,470	36,940	213,440
下大沢	蓮台寺駅	2	0	1	3	23,260	69,780			320,160
立野	蓮台寺駅	4	1	4	9	23,260	69,780			960,480
中	西中村	11	13	9	33	35,570	106,710			3,521,430
稲生沢地区計		39	27	24	90					9,505,700
原田	白浜神社	8	9	7	24	60,190	180,570			4,333,680
長田	長田	4	7	3	14	64,300	192,900			2,700,600
板戸	板戸一色	1	2	4	7	76,610	229,830			1,608,810
白浜地区計		13	18	14	45					8,643,090
柿崎	柿崎神社前	9	4	13	26	35,570	106,710			2,774,460
須崎	須崎海岸	9	9	7	25	54,720	164,160			4,104,000
外浦	外浦口	1	3	1	5	43,780	131,340			656,700
柿崎地区計		19	16	21	56					7,535,160
吉佐美	吉佐美	23	8	17	48	46,510	139,530			3,348,720
田牛	田牛	3	1	2	6	71,140	213,420			640,260
大賀茂	学校前	13	13	14	40	34,200	102,600			2,052,000
朝日地区計		39	22	33	94					6,040,980
全地区合計		124	100	105	329					41,016,410

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。朝日地区は下田中学校旧学区で既存補助要綱適用により半額補助となるため、更に1/2をかけて算出。

(6) スクールバス年間試算額について

アンケート結果などから、スクールバス運行についてのご意見が多かったため、以下の条件にて、スクールバス年間試算額を算出しました。

ア スクールバスの試算

【スクールバス年間試算額算出条件】	
1	スクールバス運行について、交通事業者に全て委託することを想定（車両及び運転手等）。
2	運行については、平日は、朝夕ともに片2便ずつ（部活有無により2便ずつ）、休日は、朝夕片1便、昼1往復（部活を午前及び午後に行うため）を想定。
3	市内を8コースに分け、スクールバスを運行。
4	年間試算額については、平成33年度を想定し、交通事業者からの1日あたりの見積額から、1年間（365日）全て運行した場合を算出。

(ア) 平成33年度平日・休日運行日数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平日	21	18	22	21	21	20	20	20	22	20	19	22	246
休日	9	13	8	10	10	10	11	10	9	11	9	9	119

(イ) スクールバス運行試算額

稲生沢中学校					下田中学校				
コース① 北の沢					コース① 北の沢				
平日	1日	120,000	年間	32,472,000	平日	1日	120,000	年間	32,472,000
休日	(税別)	70,800	(税込10%)	9,267,720	休日	(税別)	76,400	(税込10%)	10,000,760
コース② 山髄院前					コース② 山髄院前				
平日	1日	124,000	年間	33,554,400	平日	1日	124,000	年間	33,554,400
休日	(税別)	78,400	(税込10%)	10,262,560	休日	(税別)	79,400	(税込10%)	10,393,460
コース③ 大沢口・高馬					コース③ 大沢口・高馬				
平日	1日	104,000	年間	28,142,400	平日	1日	108,000	年間	29,224,800
休日	(税別)	64,800	(税込10%)	8,482,320	休日	(税別)	66,800	(税込10%)	8,744,120
コース④ 堀切					コース④ 堀切				
平日	1日	108,000	年間	29,224,800	平日	1日	104,000	年間	28,142,400
休日	(税別)	66,800	(税込10%)	8,744,120	休日	(税別)	59,200	(税込10%)	7,749,280
コース⑤ 錢瓶峠・吉佐美					コース⑤ 錢瓶峠・吉佐美				
平日	1日	108,000	年間	29,224,800	平日	1日	104,000	年間	28,142,400
休日	(税別)	65,800	(税込10%)	8,613,220	休日	(税別)	64,800	(税込10%)	8,482,320
コース⑥ 田牛・大賀茂口・金山					コース⑥ 田牛・大賀茂口・金山				
平日	1日	112,000	年間	30,307,200	平日	1日	104,000	年間	28,142,400
休日	(税別)	66,800	(税込10%)	8,744,120	休日	(税別)	65,800	(税込10%)	8,613,220
コース⑦ 須崎海岸・爪木崎 GA					コース⑦ 須崎海岸・爪木崎 GA				
平日	1日	116,000	年間	31,389,600	平日	1日	112,000	年間	30,307,200
休日	(税別)	69,800	(税込10%)	9,136,820	休日	(税別)	65,800	(税込10%)	9,005,920
コース⑧ 板戸一色					コース⑧ 板戸一色				
平日	1日	116,000	年間	31,389,600	平日	1日	112,000	年間	31,389,600
休日	(税別)	70,800	(税込10%)	9,267,720	休日	(税別)	68,800	(税込10%)	9,136,820
平日小計			245,704,800		平日小計			241,375,200	
休日小計			72,518,600		休日小計			72,125,900	
合計			318,223,400		合計			313,501,100	

※平日：朝片2便・夕片2便（部活有無により片2便設定）休日：朝片1便・昼1往復・夕片1便
 【平日運行：246日 休日運行：119日】

第6 新中学校必要面積及び概算事業費等について

1 下田市立4中学校の維持管理経費について

(1) 平成27年度の決算状況

中学校の維持管理としては、中学校管理事業、中学校教育振興事業及び生徒援護事業にて予算計上し、事業執行をしています。平成27年度の決算額については下表のとおり。工事請負費が臨時的な費用と考えれば、約6,300万円が4中学校の維持管理費と捉えることができます。

4中学校を1校にすると建物維持に直接関係する需用費や委託料、給料及び賃金などの人件費関係は減になると予測されます。しかし、負担金補助及び交付金（通学補助など）や扶助費などは増になることが想定されるため、維持経費としては増減なしに増に転ずる可能性があります。

【表1：平成27年度4中学校関係費用】

事業	名称	予算額（円）	支出額（円）
中学校管理事業	報酬	1,018,000	1,013,800
	給料	3,379,000	3,319,200
	職員手当等	1,353,000	1,286,459
	共済費	909,000	868,052
	賃金	5,371,000	5,224,562
	旅費	149,000	136,045
	需用費	20,297,000	18,265,475
	役務費	2,330,000	2,231,094
	委託料	4,990,000	4,353,860
	使用料及び賃借料	6,925,000	6,680,915
	工事請負費	72,530,000	60,012,360
	備品購入費	1,518,000	1,517,614
	扶助費	7,000	0
	賠償金等	87,000	86,400
		120,863,000	104,995,836
中学校教育振興事業	報償費	65,000	30,000
	需用費	1,865,000	1,774,914
	役務費	30,000	30,000
	委託料	4,259,000	4,258,008
	使用料及び賃借料	852,000	845,224
	備品購入費	4,240,000	4,233,368
	負担金補助及び交付金	1,077,000	959,019
			12,388,000
生徒援護	負担金補助及び交付金	4,700,000	4,407,860
	扶助費	2,320,000	1,723,427
			7,020,000
合計		140,271,000	123,257,656

2 新中学校の普通教室必要面積の考察

(1) 各種条件設定

- ・統合は、平成33年4月1日と仮定し、生徒数を表1のとおりに想定しました。
- ・普通教室における1学級あたりの生徒数を全学年で静岡式35人学級による設定としました(標準は40人学級)。
- ・表2より静岡式35人学級設定の場合、3学年最大で14学級となるため、普通教室の数は14と想定しました。

【表2：平成33年4月1日から3年間の想定の子徒数及び学級数】

年度	学年	1年	2年	3年	計
33	生徒数	152	139	140	431
	学級数(40人学級)	4	4	4	12
	学級数(35人学級)	5	4	4	13
34	生徒数	143	152	139	434
	学級数(40人学級)	4	4	4	12
	学級数(35人学級)	5	5	4	14
35	生徒数	134	143	152	429
	学級数(40人学級)	4	4	4	12
	学級数(35人学級)	4	5	5	14

(2) 普通教室の数と大きさ

現在の普通教室面積の基準として、「鉄筋コンクリート造校舎の標準設計」(昭和25年)における教室63㎡(1.575㎡/人【40人基準】)があり、また公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目(以下「運用細目」という。)で定める面積は74㎡(1.85㎡/人【40人基準】)となっています。なお、下田市内にある4中学校の普通教室の面積は表3のとおりになります。

【表3：下田市内の4中学校における普通教室面積(H28.5.1現在)】

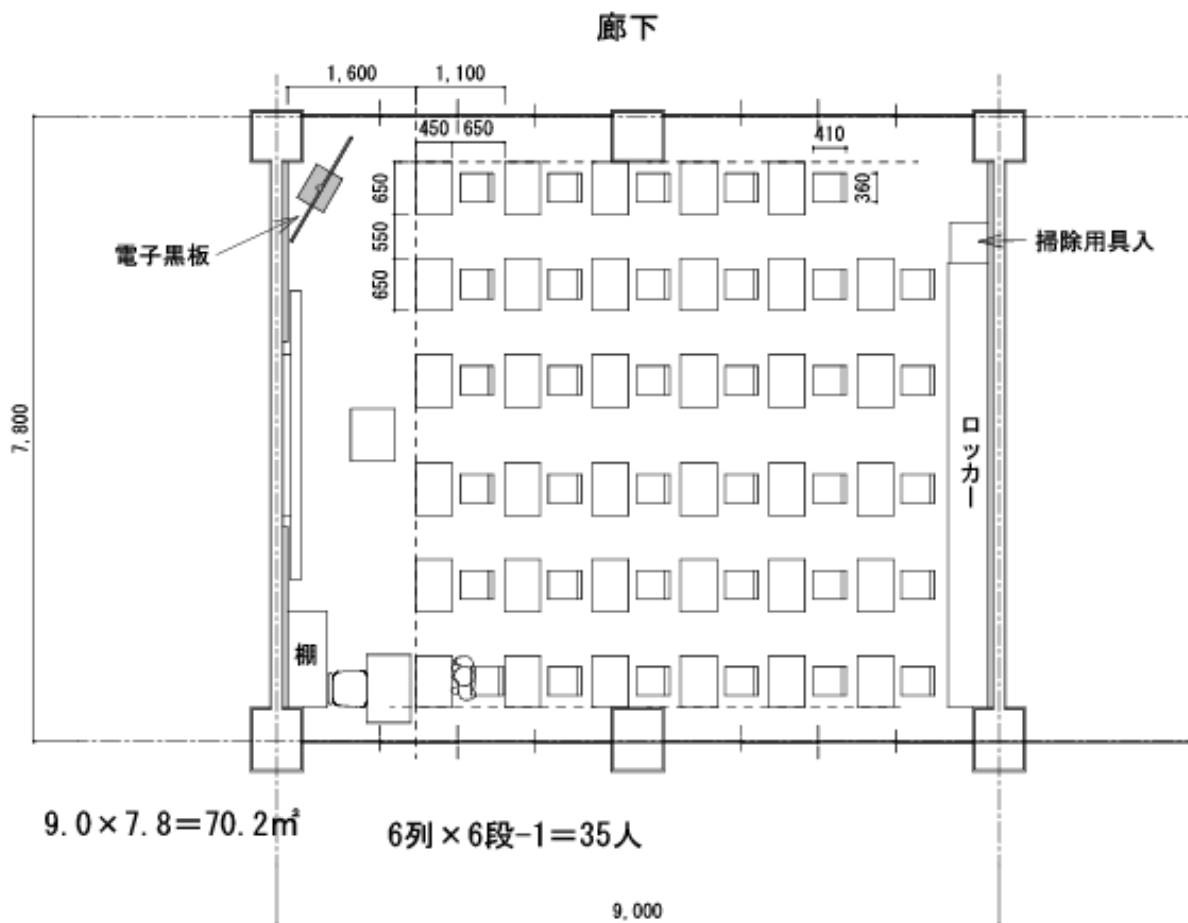
学校	稲梓	稲生沢	下田東	下田	平均(㎡)
普通教室面積	59.04	64.8	63	67.5	63.585
1人当たり面積(40人学級)	1.48	1.62	1.58	1.69	1.59
1人当たり面積(35人学級)	1.69	1.85	1.8	1.93	1.82

(3) 普通教室面積の想定

表3に示した床面積は、柱芯での床面積であり、その中にロッカーや柱型があるため実際に机や椅子、通路として使用できる有効床面積は表3よりも少なくなります。また昭和25年当時と比較して現在は学習方法も変化しており、現中学校の面積をそのまま運用することはできないことから、別図に35人学級の普通教室検討モデルを示しました。別図は約70㎡(9m×7.8m)とし、配置すると35人程度、設置することが可能となります。そのため別図の70㎡を新築の場合の普通教室の基準と設定しました。

また、既存校舎を利用し、増改築する場合は、柱と柱との間隔を変更することが、構造的に困難であるため、現中学校の面積を普通教室の基準としました。

別図



- ・ 現在の下田中学校の鉄筋コンクリート柱型寸法を参考として配置。仮に鉄骨造とした場合は、柱型が教室に入ってくるため、図より狭くなる可能性があります。
- ・ 机及び椅子、その他造り付け家具類のサイズは、下田中学校を参考とし、最低限のサイズを想定しました。

3 新中学校における特別教室及び管理諸室とその大きさ

(1) 各種条件設定

- ・普通教室の大きさを1コマとして各種特別教室及び管理諸室の大きさを設定しました。
- ・新築の場合、階数は3階建て程度、既存改修の場合は既存校舎の階数を基本としました。
- ・新築の場合の計画室数は、下田中学校をベースに想定しました。

【新築の場合：必要諸室】 1コマ=70㎡

	室名	大きさ (計画コマ数)	計画室数	備考	総コマ数	
校舎	普通教室廻り					
	普通教室	普通教室	1	14		14
		多目的室	1	6	各学年2室	6
		特別支援学級	1	2		2
	特別教室					
	情報関係室	図書室	2	1		2
		パソコン室	2	1	サーバー室含む	2
	理科	理科室	2	2	準備室含む	4
	家庭科	家庭科室	2	2	被服室、調理室	4
	技術	技術室	2	2	金工室、木工室、準備室含	4
	音楽	音楽室	2	2	準備室含む	4
	美術	美術室	2	1		2
	特別活動					
	生徒会	生徒会室	0.5	1		0.5
	生活関連スペース					
		昇降口	2.5	1		2.5
		生徒トイレ	0.5	6	男女別、各学年に	3
		配膳室	0.4	2		0.8
		給食受入室	1	1		1
		生徒更衣室	0.5	2	男女別	1
		多目的トイレ	0.1	3		0.3
		教材室	0.5	4		2
		廊下	4	3		12
		階段室	0.5	6	各階2箇所	3
	管理諸室					
		校長室	0.5	1		0.5
		職員室	2	1		2
		事務室	0.5	1		0.5
		会議室	1.5	1		1.5
		進路資料・指導室	0.8	1	書庫を含む	0.8
		印刷室	0.5	1		0.5
		放送室	0.5	1		0.5
職員更衣室		0.5	2	男女別	1	
保健室・相談室		1.2	1		1.2	
職員トイレ		0.5	2	男女別	1	
					79.6	

$$79.6 \times 70\text{㎡} = 5,572 \text{㎡} \rightarrow 5,570 \text{㎡}$$

- 体育館：1,200㎡ ○武道場（柔剣道場）：450㎡ ○部室：80㎡
 ○屋外体育器具庫：50㎡ ○駐輪場：20㎡ ○ゴミ置き場：10㎡

【稲生沢中学校増築及び既設改修の場合：必要諸室】 1コマ=64.8 m²

	室名	大きさ (計画コマ数)	計画室数	備考	総コマ数	
校舎	普通教室廻り					
	普通教室	普通教室	1	14		14
		多目的室	1	6	各学年2室	6
		特別支援学級	1	2		2
	特別教室					
	情報関係室	図書室	2.2	1		2.2
		パソコン室	2.2	1	サーバー室含む	2.2
	理科	理科室	2	2	準備室含む	4
	家庭科	家庭科室	2.3	2	被服室、調理室	4.6
	技術	技術室	3.5	1	金工室、木工室、準備室含	3.5
	音楽	音楽室	2.5	2	準備室含む	5
	美術	美術室	2	1		2
	特別活動					
	生徒会	生徒会室	0.5	1		0.5
	生活関連スペース					
		昇降口	1.5	1		1.5
		生徒トイレ	0.5	6	男女別、各学年に	3
		配膳室	0	0		0
		給食受入室	1	1		1
		生徒更衣室	0	0	男女別	0
		多目的トイレ	0.1	2		0.2
		教材室	0.5	6		3
		廊下	1.6	6		9.6
		階段室	0.5	10	各階2箇所	5
	管理諸室					
		校長室	0.5	1		0.5
		職員室	2	1		2
		事務室	0.5	1		0.5
		会議室	1	1		1
		進路資料・指導室	0.5	1	書庫を含む	0.5
		印刷室	0.5	1		0.5
		放送室	0.5	1		0.5
職員更衣室		0.4	1	男女別	0.4	
保健室・相談室		1.5	1		1.5	
職員トイレ		0.4	1	男女別	0.4	
					77.1	

$$77.1 \times 64.8 \text{ m}^2 = 4,996.08 \text{ m}^2 \rightarrow 5,000 \text{ m}^2$$

増築面積 1,836 m²

- 体育館：1,159 m² ○武道場（柔剣道場）：450 m² ○部室：80 m²
 ○屋外体育器具庫：58 m² ○駐輪場：20 m² ○ゴミ置き場：10 m²

【下田中学校増築及び既設改修の場合：必要諸室】 1 コマ=67.5 m²

	室名	大きさ (計画コマ数)	計画室数	備考	総コマ数	
校舎	普通教室廻り					
	普通教室	普通教室	1	14		14
		多目的室	1	6	各学年2室	6
		特別支援学級	1	2		2
	特別教室					
	情報関係室	図書室	2.2	1		2.2
		パソコン室	2.2	1	サーバー室含む	2.2
	理科	理科室	2	2	準備室含む	4
	家庭科	家庭科室	2.3	2	被服室、調理室	4.6
	技術	技術室	2.5	2	金工室、木工室、準備室含む	5
	音楽	音楽室	2.5	2	準備室含む	5
	美術	美術室	2	1		2
	特別活動					
	生徒会	生徒会室	0.5	1		0.5
	生活関連スペース					
		昇降口	1.5	1		1.5
		生徒トイレ	0.3	6	男女別、各学年に	1.8
		配膳室	0.5	1		0.5
		給食受入室	1	1		1
		生徒更衣室	0	0	男女別	0
		多目的トイレ	0.1	2		0.2
		教材室	0.5	3		1.5
		廊下	7.2	2		14.4
		階段室	0.5	6	各階2箇所	3
	管理諸室					
		校長室	0.5	1		0.5
		職員室	2	1		2
		事務室	0.5	1		0.5
		会議室	1	1		1
		進路資料・指導室	0.5	1	書庫を含む	0.5
		印刷室	0.5	1		0.5
		放送室	0.5	1		0.5
職員更衣室		0.5	1	男女別	0.5	
保健室・相談室		1.5	1		1.5	
職員トイレ		0.5	1	男女別	0.5	
79.4						

$$79.4 \times 67.5 \text{ m}^2 = 5,359.5 \text{ m}^2 \rightarrow 5,360 \text{ m}^2$$

増築面積 262 m²

- 体育館：1,200 m² ○武道場（柔剣道場）：1,128 m² ○部室：58 m²
 ○屋外体育器具庫：54 m² ○駐輪場：20 m² ○ゴミ置き場：10 m²

4 2 中学校のメリット・デメリット及び概算事業費

今回、実施したアンケートから2中学校のメリット・デメリットを以下のとおり、取りまとめました。また総事業費についても、現時点での概算事業費について記載しております。

※総事業費については、教育委員会学校教育課が試算したものです。正式な事業費については実施設計等により、今後、算出されます。

敷地	新築 ／改修	総事業費試算	アンケート意見からのメリット	アンケート意見からのデメリット
稲生沢中学校	新築	約 24 億円 (うち市負担約 19 億円)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下田駅まで平坦な道路であり、自転車通学等も通学しやすい。 ・ 蓮台寺駅もあり、電車通学できる(バス代より安い)。 ・ 路線バスで通いやすい(通学の時間が下田中よりも平均的)。 ・ 家屋も多く安心でき、地域の方の目が行き届く範囲に学校があると、町全体が活性化する気がする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校、小学校、中学校が集中すれば、歩道整備をしても自転車通学の生徒による道路の占有率も増えることは確実。 ・ 稲生沢中は周囲の道路が狭く、通学時に危険が伴う。また、行事の時の渋滞、駐車場不足が心配である。 ・ 稲生沢中の場合、交通面での不安が大きい。今、下田高校では自転車の乗り方、歩道の歩き方、朝の交通規制などが再三呼び掛けられている。それを考えると生徒数が増えた時の渋滞や自転車、車による事故等、不安が広がる。 ・ 天災(川の増水、津波他)を考えた時に土砂により水害での避難が一番重要だと思っているため。 ・ 多くの生徒が下田高校に進学することを考えると通学の負担の面、気持ちの面でも6年間同じ地区より変化がある方が望ましいと考える。
	増築及び改修	約 17 億円 (うち市負担約 10 億円)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中高校と密集しており、地域の安全面への配慮が下田中学校よりも行き届いている。 ・ 下田高校の近くにあり、教育の場の中・高生一緒に取り組む機会も増えて、お互いに意識や責任感が生まれてメリットになる。 <p style="text-align: right;">など</p>	
下田中学校	新築	約 26 億円 (うち市負担約 23 億円)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置基準及び全て市有地であること。近隣が密集しておらず、稲生沢中学校より広大な敷地の環境の中で学校生活を送れる。緑に囲まれていて子どもの環境にも良い。 ・ スポーツ教育を充実させることができる。周囲の道路が広く、行事の時や緊急時に安心して車で行くことができる(駐車場等も確保できる)。 ・ 保護者が参加する行事(運動会や発表会)の時、遠方から来る人たちの駐車場を確保できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下田中学校では、稲梓地区の生徒の通学距離が遠くなり、負担が大きい。 ・ 高台ということもあり、自転車通学等通学しにくく、下田中学校までの通学路も周囲に人家がなく、防犯上心配である。 ・ 下田中学校になった場合、通学路に津波浸水域があるので、安全とは言えない。 ・ 敷根公園での大会や行事などの送迎、GW、夏季等、渋滞がひどいため。 ・ 高台という事では下田中学校でも良いと思うが、災害時に敷根は道路が1本しかなく、しかも山からの被害(崖崩れ)も考えられるので。 <p style="text-align: right;">など</p>
	増築及び改修	約 17 億円 (うち市負担約 12 億円)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害(特に地震)がおこった時、サンワーク・こども園・敷根グラウンドと共に避難の拠点となり安全であるとともに、中学生がボランティア活動の中心となってもらえる。 ・ 教室数などキャパシティが大きいのでそのまま使用できると思うから。 ・ 歩道の整備もされている為、通学時安全。トータル的に良い条件が揃っている為。 <p style="text-align: right;">など</p>	

参考資料① 市長と語る会概要

1 開催概要

(1) 開催日時、場所、参加人数等

地区	開催日時	開催場所	参加人数
稲梓地区	平成 28 年 10 月 17 日(月) 午後 7 時～午後 8 時 52 分	基幹集落センター	93 人
浜崎地区	平成 28 年 10 月 27 日(木) 午後 7 時～午後 8 時 37 分	須崎漁民会館	50 人
下田地区	平成 28 年 10 月 28 日(金) 午後 7 時～午後 8 時 36 分	市民文化会館	73 人
稲生沢地区	平成 28 年 11 月 4 日(金) 午後 7 時～午後 9 時	稲生沢公民館	77 人
朝日地区	平成 28 年 11 月 8 日(火) 午後 7 時～午後 8 時 30 分	朝日公民館	43 人
白浜地区	平成 28 年 11 月 10 日(木) 午後 7 時～午後 8 時 40 分	白浜公民館	53 人

2 出席者及び次第

(1) 出席者

福井市長、土屋副市長、佐々木教育長、稲葉総務課長、井上企画財政課長、黒田地域防災課長、峯岸学校教育課長、鈴木建設課長、長谷川産業振興課長、土屋観光交流課長、高野環境対策課長

(2) 次第

- ア 学校再編について
- イ 新庁舎について
- ウ 地域の諸課題について

3 質疑及び回答内容

地区別に質問内容及び回答を次のとおり、要約しました。ただし、学校再編にかかる部分のみを抜粋して資料を作成しました。

(1) 稲梓地区

Q1	学校再編の期限は。
A1	予定では平成 33 年以降。期限は定めていない。
Q2	学校再編のデメリットはどういう意見があるか。
A2	目が行き届かなくなる恐れや地域交流地点が消滅するという意見がある。
Q3	通学費は。
A3	現状、6km以上の生徒は半額補助。再編後どこまで補助するのか決まっていない。
Q4	半額補助になると稲梓の保護者負担はどのくらいか。
A4	市の財政全体で試算しているため、稲梓からいくらかは不明。今後検討する。
Q5	通学費の問題は義務教育なのだから 0 にしてほしい。
A5	保護者からも通学費の意見が多く検討会議にて検討中。保護者の負担軽減で検討。
Q6	10 月 13 日付け静岡新聞に検討会議が載っていた。メンバー 35 名。諮問を受ける側の

Q6	教育長がなぜ会長なのか。
A6	検討会議は諮問機関ではなく、聞く場。責任者として取りまとめている。
Q7	校内暴力は今も行われているのか。
A7	今は、4校とも落ち着いており、校内暴力はない。
Q8	4校を1校にすると3校の建物、敷地等の跡地利用は並行して考えているのか。
A8	子供たちの学習環境を良くするというで考えており、廃校後の跡地利用は考えていない。
Q9	稲生沢中学校に統合ならば稲梓の子は自転車を使う。通学路整備も一緒に検討しているか。
A9	国道414の整備要望を県知事へ行っており、特に、落合～浄水場の上までの道が狭くて暗く、優先して整備してほしい旨、伝えている。
Q10	稲梓は奥が深く、家から稲梓小まで7kmある子もいる。1校になると先生が半分以下で手が行き届かなくなり、子供のケアをどうするかが課題。統合でなく特区や小・中学校コースという手は。
A10	通学費、通学方法は検討する。1校となればスクールカウンセラー等を常駐でき、子供の悩みに対応でき、先生の数は減るが、支援員で代替可能。専門の免許を持った先生による指導ができ、各教科の先生を配置できる。
Q11	1校になると稲作体験等が行えず、文化、伝統継承が難しくなり、地域性が失われてしまうのでは。教員数少ないが、実際に教科免許なく教えている先生もいるのか。
A11	免許外申請をして免許を持ってない先生も授業をしている。地域の体験学習は1校になった場合、稲梓の子が海の体験ができ、白浜の子が山の体験もできるというメリットもある。
Q12	合併も想定すべき。縦貫道もでき、学校統合後、稲梓中跡地に庁舎建てるべき。
A12	合併の話はなく、賀茂地区で広域連携、一部事務組合といった組織を作り、協力する状況。
Q13	稲梓小・中は避難所だが、稲梓小へ坂を上ると側溝が深さ50cm程あり、車がすれ違えない。
A13	稲梓小の坂は危険だと感じている。坂を直す予算を取る。

(2) 浜崎地区

Q1	再編した場合、白浜・外浦・須崎等はバス通学になる。通学費の支援を具体的に父兄に提示して理解を得るべき。現在6km超は半額だが、向こう3年は全額補助とし、3～5年経過後、応分に負担していくような案としていけば理解を得やすいのでは。
A1	東中は生徒92人のうち、6km超で通学補助を受けている生徒50人、年間金額209万円。単純に年間41,800円負担。東中の生徒が稲生沢中に通った場合、79,400円、下中67,100円。今の制度では負担が増える。これら数字をもとに保護者負担がかからないよう検討する。
Q2	東大生がたくさん出るような教育をしてほしい。金の問題でなく、教育は財政の根本と考える。
A2	先生の充実、教育機器の充実により先端教育を進め、夢を持てば可能性を追求したい。
Q3	未就学、中学校と再編を進めているが、小学校の再編の方向性は。
A3	答申をもとに小学校は複式学級になった時に再編を考える。今のところ今後10年複式はない。
Q4	地元は学校が無くなった後を心配。東中が無くなった後の良い方向を示してほしい。
A4	校区の説明会でも同意見あり。現在、2校のどちらにするかを検討中。どちらかを決めてから、跡地利用について決めていく。
Q5	1校化してどんな人を作るのか。今年の中体連で下中と東中がバレーで県大会へ出た。多人数で切磋琢磨もよいが、対抗することで伸びるといふ考えも必要。
A5	1校化となれば、下田がふるさと、下田を誇れる考えを持つ人間を育てられる。部活では少人数でバレーのない学校もある。1校化して大きくなれば東部・県大会を目指すことができる。
Q6	時間もなく、浸水域外の場所で早めに決め、応分な予算で建設してほしい。議会が氷見を視察し学校を活用した庁舎で18億円削減したという話を聞いた。空き中学校の活用もありでは。
A6	跡地利用は考えているが、再編はH33以降のため遅くなる。コストを減らす策として、緊急防災減災事業債の活用等検討。学校と事務のための建物の強度の基準が異なり、氷見の事例は体育館を活用し、校舎は倉庫的な利用になっている。改築も相当な出費。

(3) 下田地区

Q 1	下小・朝日小は津波浸水域。中学校だけでなく、小学校も考えては。
A 1	小学校は複式学級になるまで再編しない予定。下小は春日山に逃げるよう整備中、朝日小は広域避難場所を大賀茂小へ変更し、多景山を整備した。
Q 2	時期・見通しは。
A 2	H33 年度以降を考えている。今後、幼稚園、こども園、保育所でも説明会を行う。
Q 3	春日山の避難路、歴史を学ぶにはいい場所。普段鍵がかかって入れない避難場所もあり、遊べる場所として、有効活用してほしい。
A 3	現在、工事中につき立ち入れないが、工事後、遊歩道として利用予定。
Q 4	石丁場跡がある。工事で遺産を壊したりするのはやめてほしい。
A 4	石丁場はすでに崩落している箇所もあり、遊歩道から石丁場を見えるよう整備している。
Q 5	人口減少の中、将来に何が残せるか併せて検討してほしい。
A 5	クラス替えもままならない。小・中同じ仲間で勉強するといった意味での競争が生まれない。昨年度まち・ひと・しごと創成総合戦略を開始し、乳幼児医療の無料化、企業誘致の固定資産税の優遇税制を始めた。
Q 6	【新庁舎議題のなかで】 学校再編で学校が空く。そのどこかに建てれば一石二鳥。
A 6	学校再編は H33 年度以降。校舎を庁舎にした市を視察したが、建築基準の違いもあり難しい。

(4) 稲生沢地区

Q 1	人口減少は仕方ないが減らさない努力はしているか。1 校化後、空き校舎、体育館、グラウンドの活用は。透明性を持ってほしい。
A 1	審議会の答申は将来、1 校を見据えて 2 校に統合だが、統合に時間がかかるため、効率化を図り 1 校とした。利活用に対して今後検討する。中学区を中心に説明会を開いている。
Q 3	1 校だと転校もできずいじめが続き、子どものことを考えた行為ではないのでは。不登校数は。
A 3	今年度 4～9 月の時点で中学生が 10 名、小学生が 3 名。
Q 4	統合されたらいじめが増えるのでは。
A 4	スクールカウンセラーやソーシャルワーカーがいる。いじめは学校規模の影響はあまりない。
Q 5	子供達を合併前に交流させるのが大事。跡地について地域活用できる場所を作ってほしい。
A 5	現在では部活動の場などにおいても交流ができる。跡地利用は今後検討する。
Q 6	中学 1 校となるとバスの本数も少なく、徒歩となる生徒について考えているか。
A 6	バスの本数を増やしていただくようバス会社との交渉やスクールバスも検討する。
Q 7	総合教育会議が示した 1 校化に際し保護者の負担は。0 円にならないと話ばまとまらない。
A 7	これ以上父兄に負担をかけないよう、スクールバスの運行などを考えている。
Q 8	【新庁舎議題のなかで】 中学校を庁舎とすることは。
A 8	可能だが、H33 年度以降になる。氷見市は校舎跡地を市庁舎にしているが、校舎自体の強度が市庁舎の基準に満たず、体育館を庁舎としており、非常に手狭。
Q 10	【新庁舎議題のなかで】 合併を視野に入れば庁舎はしばらく建設するべきではないのでは。中学校の再利用が良い。学校統合ももっと前倒しできるのでは。
A 10	合併は難しい。耐用年数の関係ですぐ建て替えなければならない、コストをかけずに進める。

(5) 朝日地区

Q 1	審議会では1段階目は2校、2段階目で1校という答申。デメリットも考えてほしい。
A 1	東中2、3年後には単学級が見込まれ、二度手間で保護者に負担をかけることも想定され、総合教育会議では1校化で進めるのが望ましいという結論になり、各地で説明会を行っている。
Q 2	総合教育会議のメンバーは。
A 2	教育長、教育委員4名、市長の6名。
Q 3	審議会の答申を大事にするという意見はなかったのか。
A 3	5年後に4校から2校に、さらに5年後には2校から1校になるならば、1校化を進めた方が良いのではという方向性になった。

(6) 白浜地区

Q 1	先生が20人程度に減り、1人当たりの生徒数が13人から26人に増える。教育・生徒指導が行き届かなくなるのでは。部活は少人数で練習量が多く、近所の先輩方から応援を受けられる現状が、1校化により練習量も減り、応援も受けられなくなるのでは。通学も子どもの健康上の負担や、家庭の経済的・精神的な負担も増え、問題があるのでは。
A 1	1校化すると先生32人体制となるが、全教科の配置が受けられ、先生が減っても指導の充実を得ることは可能。部活は各学校選択肢も少なく、部員数・指導者不足で活動できない部もあるが、1校化すれば活動が可能、部の選択肢も増える。通学は白浜地区6km以上の制限なく通学補助を受けている。保護者に負担をかけないよう検討する。
Q 2	【新庁舎議題のなかで】 新庁舎は費用面を1番に考え、人口減で学校跡地利用等、有効な資源を活用してほしい。
A 2	既存施設の活用は検討すべきだが、学校再編はH33年度以降、時間がかかりすぎる。

参考資料② 今後のスケジュール案

